

ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ其許可ヲ取消スヘシ

第十三條 家庭又ハ其他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシムル許可ヲ得ル後一箇月ヲ經ルモ尙ホ之ヲ實行セザルトキハ其許可ハ無効ナルヘシ

但兒童疾病等止ムテ得ル場合ニハ市町村長ニ申立課メ習課ノ許可ヲ請フヘシ

第十四條 市町村立尋常小學校及ヒ之ニ代用スル私立尋常小學校ニ於テハ學年ノ終リニ於テ左ノ事件ヲ市町村長ニ報告スヘシ

- 一新ニ卒業セタル兒童ノ住所氏名
- 一兒童修業ノ成績
- 一前學年中臨時ニ入學退學セタル兒童ノ數
- 一小學校令第二十三條ニ該當スルカ爲メ缺席一學年ニ及ヒタル兒童ノ住所氏名

第十五條 市町村長ハ學齡兒童ニ就ク學年ノ始メヨリ三ヶ月以内ニ左ノ事項ヲ監督官廳ニ報告スヘシ

- 一前學年マテニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ卒ラタル兒童ノ數
- 一市町村立尋常小學校及ヒ之ニ代用スル私立尋常小學校ニ於ケル兒童ノ現數
- 一家庭又ハ其他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童ノ現數

一前學年ニ於テ初メテ就學セタル兒童ノ數

一新學年ニ於テ就學ヲ猶豫セタル兒童ノ數

一前學年マテニ就學ヲ免除セタル兒童ノ數

一前學年ニ於テ臨時ニ市町村立尋常小學校及ヒ之ニ代用スル私立尋常小學校ニ入學退學セタル兒童ノ數

第十六條 町村學校組合ヲ設ケタル場合ニ於テハ本則ニ關シテハ學校ト直接ノ關係ハ組合長之ヲ處理シ他ハ總テ組合内町村長之ヲ處理スヘキモノトス

○縣令第二十四號 明治廿五年三月廿四日

小學校令第六十條ニ基キ市町村立小學校教員旅費額標準及支給規則左ノ通相定ム

市町村立小學校教員旅費額標準及支給規則

第一條 市町村立小學校教員旅費額ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

市町村立小學校教員旅費額標準

名	稱	流車賃	流船賃	車馬賃	日當
正	教員	四錢乃至五錢	四錢乃至五錢	八錢乃至拾錢	五拾錢乃至七拾錢
准	教員	三錢乃至四錢	三錢乃至四錢	五錢乃至六錢	三拾錢乃至五拾錢

流車賃 每一哩  
流船賃 每一海里  
車馬賃 每一里  
日當 每一日

第二條 旅費額ハ前條ノ範圍内ニ於テ市參事會町村長若シハ町村學校組合長豫メ之ヲ定メ知事ノ確定ヲ請フヘシ

第三條 旅費ハ艱路ノ路程ニ依リ汽車賃ハ哩數汽船賃ハ海里數車馬賃ハ里數日當ヘ日數ニ應リ之ヲ支給スヘシ

第四條 汽車賃汽船賃及ヒ車馬賃ハ其種類毎ニ經過セシ路程ノ總數ヲ合算シテ之ヲ支給スヘシ但其一位未滿ノ端數ハ計算セサルモノトス

第五條 日當ハ陸路六里未滿汽車十哩未滿汽船十海里未滿ノ旅行ニハ支給セサルモノトス但公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要スルトキハ宿泊ノ數ニ應リテ日當ヲ支給スヘシ

第六條 旅行ノ兩會計年度ニ跨ルトキハ各年度ニ之ヲ區別シ旅費ヲ計算スヘシ但汽車賃及ヒ汽船賃ハ會計年度ニ拘ハラズ汽車賃汽船ノ到達地ニ着クナル日ヲ以テ之ヲ區別シテ計算スヘシ

第七條 赴任旅費ハ新任相當ノ車馬賃汽船賃若シハ汽車賃ノ二倍ヲ支給スヘシ

第八條 海濱河湖等ノ海里ヲ以テ路程ヲ算セサル場合ハ陸路ノ里數ニ應リテ車馬賃ノ額ヲ支給スヘシ

〇縣令第二十九號 明治廿五年三月廿六日

小學校令第六十條ニ基キ市町村立小學校教員給料額標準及給料諸給支給規則左ノ通相定ム

市町村立小學校教員給料額標準及給料諸給支給規則

第一條 市町村立小學校教員給料額ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

市町村立小學校正教員給料額標準

教員免許狀ノ種類	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
高等小學校	六十圓以上六十圓以下	五十圓以上五十圓以下	四十圓以上四十圓以下	三十五圓以上三十五圓以下	三十圓以上三十圓以下	二十五圓以上二十五圓以下	二十圓以上二十圓以下	十五圓以上十五圓以下	十圓以上十圓以下	六圓以上六圓以下
本科正教員	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
高等小學校	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
本科正教員	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
高等小學校	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
本科正教員	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
高等小學校	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
本科正教員	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

但高等小學校本科正教員ノ内中等師範學科卒業ノ者及ヒ女子(高等師範學校卒業ノ者ヲ除ク)ハ八圓マテ一科若クハ教科ノ免許狀ノミヲ有スルモノハ三圓マテ降スコトヲ得

初任ノ者高等師範學校卒業ノ者ハ四十圓以下女子高等師範學校卒業ノ者ハ三十圓以下尋常師範學校卒業ノ者ハ十五圓以下其他十圓以下ヲ給スヘシ

市町村立小學校准教員給料標準

高等小學校	六圓以上三十圓以下
本科准教員	三圓以上十五圓以下
尋常小學校	三圓以上十二圓以下
本科准教員	
高等小學校	
本科准教員	
尋常小學校	
本科准教員	
高等小學校	
本科准教員	

但初任ノ者高等師範學校卒業ノ者ハ二十五圓以下女子高等師範學校卒業ノ者ハ二十圓以下尋常師範學校卒業ノ者ハ十二圓以下其他ハ八圓以下ヲ給スヘシ

第二條 教員ノ月俸ハ毎月二十五日ニ支給スヘシ但休日ニ當ルトキハ順次繰上ケトス

第三條 新任若シハ増給減給ハ發令ノ翌日ヨリ日割ヲ以テ支給スヘシ但轉任ノ場合ニ於テ増給又ハ減給シタル者ニハ第四條ノ區分ニ依リ新任學校ニ移リタル日ヨリ之ヲ支給ス

第四條 轉任ノトキハ前任學校ニ於テハ其事務ヲ終リタル日マテ新任學校ニ於テハ前任學校ノ事務ヲ終リタル翌日ヨリ日割ヲ以テ支給スヘシ

第五條 退職若シハ死亡ノトキハ其月ノ俸給ヲ支給スヘシ自己ノ都合ニ依リ退職シ又ハ免職若シハ失職シタル者ハ其當日マテ日割ヲ以テ支給スヘシ

第六條 退職者事務引繼發務整理ノ爲メ校務ニ從事スルトキハ其間尙ホ從前ノ月俸ニ依リ日割ヲ以テ支給スヘシ

第七條 職務ノ爲メ傷病ヲ受ケ若シハ疾病ニ罹リ休職ヲ命ゼタル者ニハ三ヶ月間ハ俸給全額其後ハ半額ヲ給シ他ノ事由ニ依リ休職ヲ命ゼタル者ニハ支給セズ但場合ニ依リ特ニ三分ノ一以内ヲ支給スルコトヲ得

第八條 病氣ノ爲メ職務セザル者ニハ三十日マテハ俸給全額三十日以後六十日マテハ半額六十一日以後九十日マテハ三分ノ一ヲ各日割ヲ以テ支給シ九十一日以後ハ支給セズ但職務ノ爲メ傷病ヲ受ケ若シハ疾病ニ罹リタル者又ハ賜暇休養スル者ニハ全額ヲ支給スヘシ

第九條 許可ヲ受ケ歸省墓參旅行若シハ私事ノ故障ニテ職務セザル者ニハ十五日マテハ月俸全額ヲ給シ十六日以後三十日マテハ半額ノ日割ヲ以テ支給シ其以後ハ支給セズ

第十條 免職若シハ免許狀觀察ノ處分ヲ受ケ斥願シタル者斥願ノ裁決ニ依リ其處分無効ニ屬シタルトキハ其斥願中ノ俸給ヲ支給スヘシ

第十一條 教員講習會ニ出席スル者ニハ月俸全額ヲ支給スヘシ

第十二條 日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ルヘシ

第十三條 同一ノ學校ニ在勤スル者ハ通常ノ増俸ニ拘ハラズ滿五ヶ年毎ニ特ニ現給十分ノ一ノ年功増俸ヲ支給スヘシ

第十四條 在職一ヶ年ヲ經タルモノハ増給スルコトヲ得



教員 考書	理科	新選科讀本 八冊	日本歴史 小用日本歴史上中全 上 中下全 上 上中下全 上 上中下
圖書	小學圖書帖 一全 上 四五 全 上 九七 全 上 十八		小學地理 校用地理 四三
算術	高等算術全書 四冊 訂小學高等算術書 答式共拾冊 正小學算術高等科 一冊 小學算術高等科		
歌唱	小學唱歌集 三冊 音樂ノ技所 三冊		

○告示第二十五號 明治二十五年三月三十日  
 本年四月より高等女學校ヲ設置シ尋常中學校女子部ハ三月限り之ヲ廢シ從來ノ女子部生徒ハ總テ高等女學校ニ移ス

但諸規則ハ當分ノ内務尋常中學校女子部規則ヲ假用ス

○縣令第三十七號 明治廿五年五月十一日  
 本縣小學校試驗法左ノ通相定ム

小學校試驗法

- 第一條 試驗ヲ分チテ臨時試驗定期試驗ノ二種トス
- 第二條 臨時試驗ハ一學年三回以上臨時コ之ヲ施行シ定期試驗ハ一學年ノ終ニ於テ之ヲ施行スルモノトス
- 第三條 試驗評點ハ各教科均シク十ヲ以テ定點トス
- 第四條 修身科ニ於テハ主トシテ平素ノ行狀ヲ觀察シテ評點ヲ付スヘシ
- 第五條 教科ノ種類ニ依リテハ平常ノ成績ヨリ評點ヲ付シ之ヲ以テ臨時試驗ノ評點ニ代フルコトヲ得
- 第六條 一學年間ノ各教科臨時試驗及ヒ定期試驗評點ヲ合算シ試驗度數ニヨリ之ヲ平均シタルモノヲ以テ各教科ノ平均點トシ之ヲ合算シ教科目ノ數ヨリ平均シタルモノヲ以テ總平均點トス

第七條 卒業及ヒ修業ヲ認定スルニハ總平均六點ヲ得タルモノヲ以テ標準トシ教員ノ意見ヲ聞キ學校長之ヲ決スルモノトス

第八條 定期試験當日欠席者ニハ三箇月以内ニ於テ出席ヲタルルハ試験ヲ爲スコトヲ得

第九條 試験成績ハ直ニ之ヲ調査シ評點原簿ニ記入ス

第十條 卒業證書ヲ授與セントスルトキハ左式ニ依リ該生徒ノ成績一覽表ヲ製シ監督官廳ニ届出ツ

第十一條 試験ノ成績ハ適宜ノ表ヲ製シ兒童保護者ニ示ス

明治 年 自 月 月 小學校評点原簿

何 生 年 某 月

試時	臨	科				總平均	點
		身	書	文	術		
欠席	出席	在校	點	原			
日	日	年	月	番			

備考 總平均以下ノ諸項ハ總テ學年末之ヲ記入ス

體質ノ欄ニハ強弱疾病等ニ關スル事項ヲ記入スルモノトス

性質ノ欄ニハ心性氣質ヲ記入スルモノトス

智能ノ欄ニハ心力圖能才智ヲ記入スルモノトス

行狀ノ欄ニハ行為言語舉止ヲ記入スルモノトス

横濱ノ初メ一校ハ各教科ノ試験日月ヲ記入スルモノトス

明治何年 何月何日 何市町村 何小學校 (修業年限) 卒業試驗成績一覽表

科	定	點	總平均	在校	出席	戒	度
修身	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	
讀書	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	
作文	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	
習字	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	
算術	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	
總平均	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	
點	年	月	日	數	度	數	
大字	生	姓	氏	名	生	年	月

備考表中ノ諸項ハ總テ該學年ノ調査ニ就キ記入スルモノトス	合計	
	男	女
合計員人内		
合計員人		

○縣令第四十一號 明治廿五年六月九日

小學校祝日大祭日ノ儀式ノ次第左ノ通相定ム

小學校祝日大祭日ノ儀式ノ次第

第一條 紀元節、天皇節、元始祭、神嘗祭、及新嘗祭ノ日ニ於ケル儀式ノ次第左ノ如ク

一 學校長教員生徒及參列員式場ニ整列

二 一統敬禮

三 學校長進ム

御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行ヒ職員總代トシテ唱フ

天皇陛下

皇后陛下ノ萬歲ヲ祝シ奉ルト唱フ

四 教員順次進ム

御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行フ

五 生徒總代一名進ム

御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行ヒ唱フ

天皇陛下

皇后陛下ノ萬歲ヲ祝シ奉ルト唱フ

六 生徒一統整列ノ儘

御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行フ

七 學校長教員生徒唱歌(君が代)合唱二回

八 學校長

勅語ヲ奉讀ス

九 學校長若クハ教員訓諭報告ヲナス

十學校長教員生徒其祝日祭日ニ相應スル唱歌ヲ合唱ス

十一 統敬禮

十二 學校長教員生徒及參列員退場

第二條 御影ヲ拜戴セラル學校ニ於テハ第一條第三款前段第四款第五款前段第六款ノ式ヲ省ク

第三條 孝明天皇祭、春季皇靈祭、神武天皇祭及秋季皇靈祭ノ日ニ於テハ第一條第一款第二款及第九款乃至第十款ノ次第ニ據ル

第四條 一月一日ニ於テハ第一條第一款乃至第七款及第十款乃至第十款ノ次第ニ據ル

○訓令第拾六號 明治廿五年六月九日

郡市町村 小學校

小學校ノ敬禮式左ノ通心得ヘ

小學校敬禮式

一 最敬禮ノ式ハ姿勢ヲ正シテ體ノ上部ヲ前ニ傾ケ頭ヲ垂レ兩手ヲ膝ニ當テ、敬意ヲ表スルモノトス

若帽ノトキハ右手ニテ之ヲ脱リ左腕ニ據リ體ノ上部ヲ前ニ傾ケ頭ヲ垂レ右手ヲ膝ニ當テ、敬意ヲ表スルモノトス

一 敬禮ノ式ハ姿勢ヲ正シテ手ヲ垂レ體ノ上部ヲ前ニ傾ケテ敬意ヲ表スヘ

若帽ノトキハ右手ヲコテ之ヲ脱リ體ノ上部ヲ前ニ傾ケテ敬意ヲ表スヘ

步行中ニ在リハ先ツ歩ヲ止メ前ニ傾ケテ敬意ヲ表スヘ

一 女子洋服着用ノ節ハ總テ脱帽ノ限コラス

○訓令第拾七號 明治廿五年六月九日

郡市町村 小學校

明治廿三年<sup>十二</sup>月<sup>十二</sup>訓令第三拾三號ヲ以テ

勅語奉讀會心得相定メ奉讀式奉行ノ時日定メ置候處自今明治廿四年<sup>六</sup>月<sup>六</sup>文部省令第四號小學校祝日大祭日儀式規程ニ於テ定ムル日及十月三十日ヲ以テ其式ヲ奉行スヘ

但學校ニ於テ特別ノ式ヲ奉行スルコトアルトキハ本文ノ式ヲ行フコト得

○訓令第拾八號 明治廿五年六月九日

郡市町村 市町村立小學校

市町村立小學校長若シハ首席訓導ノ公文書ニ用フヘキ印ハ左ノ體形ニ依ルヘシ

方六分



印文(何々尋常(高等)(尋常)小學校長(訓導)之印



○訓令第十九號 明治廿五年六月廿八日 那市町村  
 市町村ニ於テ尋常小學校ノ校數并ニ位置ノ指定又ハ高等小學校設置ノ許可ヲ受ケ學齡兒童  
 ナ就學セシムルノ準備整フ時ハ其授業開始ノ期日ヲ當廳ニ報告スヘシニ開校シタルノ  
 ハ此際報告スヘシ

○縣令第四十六號 明治廿五年七月廿八日  
 本年三縣令第十八號市町村吏員教育事務取扱規則第二條第一款左ノ通改正ス  
 一市町村立小學校ノ教員薦舉上ニ關コスル事及ヒ兒童ノ教育上衛生上ニ於テ校舍校地等  
 ニ關シ危險或ハ障害ナキヤ否ヤヲ調査スル事

○縣令第四拾八號 明治廿五年八月拾一日  
 本年三縣令第四拾四號小學校教員檢定等ニ關スル細則中改正追加及ヒ削除スルコト左ノ如ク  
 第二條 第一項檢定圖書中教員トシテ下ニ「何科專科」ノ七字ヲ屬人氏名肩書ニ「職業」  
 二字ヲ及ヒ本項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
 「市町村長ハ檢定出願者ノ戶籍職業等ニ關スル事項及ヒ品行ヲ調査シ不都合ナキハ之

ヲ證明スヘシ

第三條第四條及ヒ第五條ニ倫理トアルヲ修身ト改ム  
 第三條 教育ノ程度及ヒ實地授業「ノ六字ヲ削ル  
 第四條 國語ノ程度文法ノ下ニ「及ヒ作文」ノ四字ヲ加フ  
 第拾一條 手數料ヲ下ニ「郡市長ニ」ノ四字ヲ加フ

○告示第五十九號 明治廿五年八月十三日  
 今般左記之者ハ本縣小學校教員免狀狀ヲ下付シ小學校教員候補者名簿ニ登錄ス

- 小學校本科正教員
- |            |         |
|------------|---------|
| 坂井郡鴉村池尻    | 佐田 明吉   |
| 大野郡勝山町袋田   | 谷 澤 九 丈 |
| 今立郡鯖江町東小路  | 大 浦 芳 孝 |
| 尋常小學校本科正教員 |         |
| 南條郡湯尾村湯尾   | 菅 王 昇 岳 |

坂井郡鶴村水切	清水 温
坂井郡吉崎村北湯	有馬 淨嶺
坂井郡吉崎村吉崎	多屋 開成
小學校本科准教員	
福井市乾中町	寺本 喜次郎
小學校専科准教員	
坂井郡鶴村波寄	勝村 朝
福井市壽町	橘 与三
尋常小學校本科准教員	
今立郡北中山村戸口	伊藤 重
足羽郡酒生村高尾	清水 吉馬
足羽郡加茂河原	神原 頼輔
足羽郡下文殊村太田	田畔 外次郎
足羽郡麻生津村淺水	池田 周作
足羽郡下文殊村上細江	高村 彌之作

吉田郡志比谷村諏訪岡	竹澤 三次郎
吉田郡森田村下森田	石上 豊壽
坂井郡高橋村舟寄	恩地 五右衛門
坂井郡伊井村清	横瀬 千里
坂井郡丸岡町本	平木 幸太郎
坂井郡長畝村長畝	半澤 喜一郎
大野郡大野町寺	谷口 勝吉
大野郡小山村上舌	大谷 峯松
大野郡上庄村木本	小野田 理由輝
坂井郡下庄村中荒井	荒木 政吉
大野郡平泉寺村平泉寺	牧野 鹿之助
大野郡大野町清水	松田 好一
今立郡河和田村西袋	山田 兼松
今立郡鯖江町下深江	矢部 喜代吉
今立郡粟田郡村	長谷川 久次郎

今立郡上池田村定方	西村 佐太郎
教賀郡教賀町神樂	伊藤 謙次郎
教賀郡愛登村刀根	大岸 平吉
教賀郡栗野村長谷	田中 市郎
教賀郡教賀町神樂	行壽 菊五郎
教賀郡教賀町大金	石田 政治郎
遠敷郡西津村湊	岡本 小作
遠敷郡今富村庄守	松宮 助之丞
遠敷郡今富村湯岡	畑中 政雄
遠敷郡西津村松湊	岡島 百三郎
三方郡十村井崎	川島 徳壽
三方郡西郷村日向	榎本 昌治
三方郡西郷村久々子	竹岡 雄次
福井市老松中町	山田 茂
坂井郡木部村清水	山形 四方太郎

○縣達第四拾五號 明治廿五年九月七日  
 小學校標札ハ自今左ノ通記載スヘ

福井市毛矢町	岸田 安人
足羽郡下字坂村高田	谷口 實龍
丹生郡西安居村末	山室 兼造
今立郡鯖江町下小路	菊池 周藏
三方郡西郷村久々子	竹岡 昌徳
坂井郡丸岡町石城戸	甲斐 廣太
今立郡味真野村西尾	山室 甚兵衛
今立郡鯖江町南小路	西澤 澤二
今立郡鯖江町上小路	茂木 重衛
今立郡鯖江町上小路	堀内 水門
丹生郡吉川村冬島	五千嵐 初治
丹生郡國見村三本木	真杉 諒平
大野郡下庄村小矢戸	石本 勇太郎

郡市町村 小學校

何郡(市)何町(學校組合)(私立)  
何尋常(高等)(尋常)小學校

○訓令第廿三號 明治廿五年九月七日

那市町村

市町村立小學校ノ學級ノ編制ハ市町村長ヨリ本廳ニ届出ツヘシ但爾後編制ヲ變更スルトキハ其都度届出ツヘシ

○縣令第五拾一號 明治廿五年九月九日

明々廿四年十一月文部省令第九號小學校教員檢定等ニ關スル規則施行以前ニ授與シタル小學校教員免狀狀又ハ之ト同一ノ效ヲ有スル小學校師範學校卒業證書ニシテ本年四月以後一箇年間ニ有効期限ノ滿ツルモノヲ所持スル者ハ其經歷ヲ調査シ該免狀狀又ハ卒業證書ノ有効満期ノトキヨリ更ニ三箇年以内延期スルコトアルヘシ

○訓令第二十五號

明治二十五年九月九日

那市町村 小學校

學事表簿様式別冊ノ通相定ム但別冊ハ別ニ配付ス

明治廿二年二月訓令第廿六號様式甲號及ヒ乙第一號ハ之ヲ廢止ス

(別冊)

明治廿五年九月

訓令第廿五號別冊

様式ハ最簡ナルモノヲ用スモノナレハ更ニ細密ノ表簿ヲ製スルハ適宜ニ任スト雖様式中ノ事項ヲ缺ク表簿ヲ製スル得ス

學事表簿樣式目錄

- 第一號 學齡簿
- 第二號 學齡兒童就學簿
- 第三號 學齡兒童不就學簿
- 第四號 學籍簿
- 第五號 出席簿
- 第六號 出席月次調查簿
- 第七號 生徒成績報告
- 第八號 甲乙種校具目錄
- 第九號 賞與簿
- 第十號 處罰簿
- 第十一號 卒業證書劃印簿
- 第十二號 修業證書劃印簿
- 第十三號 教員履歷簿
- 第十四號 未就學者報告

- 第十五號 缺席生徒報告
- 第十六號 卒業生徒報告
- 第十七號 臨時入退學生徒報告
- 第十八號 出席停止報告
- 第十九號 統計表
- 第一號ハ市役所町村役場及學校ニ備置シヘキモノトス
- 第二號ハ市役所及町村役場ニ於テ調製シ學校ニ報告スヘキモノトス
- 第三號ハ市役所及町村役場ニ於テ調製スヘキモノトス
- 第四號ヨリ第十二號迄ハ學校ニ備置シヘキモノトス
- 第十二號ヨリ第十八號迄ハ學校ニ於テ調製シ市役所若クハ町村役場ニ報告スヘキモノトス

第一號 學齡簿

(用紙美濃紙)

本籍		戶主又ハ誰男女弟妹等		氏名		住所		出生		保		族籍		職		氏名	
籍		氏名		氏名		所		年月日		者		籍		業		名	
明治	年	明治	年	明治	年	明治	年	明治	年	明治	年	明治	年	明治	年	明治	年
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
就學		何小學校		何ヶ年課程		明治年月日		明治年月日		明治年月日		明治年月日		明治年月日		明治年月日	
卒業		何ヶ年課程		何ヶ年課程		明治年月日		明治年月日		明治年月日		明治年月日		明治年月日		明治年月日	
一學年		明治		明治		明治		明治		明治		明治		明治		明治	
出席		明治		明治		明治		明治		明治		明治		明治		明治	
停止		明治		明治		明治		明治		明治		明治		明治		明治	
事由		何ヶ年課程		何ヶ年課程		明治年月日		明治年月日		明治年月日		明治年月日		明治年月日		明治年月日	
事由		何ヶ年課程		何ヶ年課程		明治年月日		明治年月日		明治年月日		明治年月日		明治年月日		明治年月日	

備考


注意 (本簿ハ便宜半葉ヲ以テ一人ニ充ツルモ妨ケナシ)

市町村ノ學齡兒童ヲ網羅シ各大字又ハ學校通學區域毎ニ別簿ト爲シ學齡順ニ編綴シ學齡兒童就學及家庭教育等ニ關スル規則ニ依リ各欄ニ事項ヲ記入ス。男女別簿ト爲ス。市町村ノ適宜トス族籍ハ華士族平民職業ハ庶業。官吏學者醫農工商、勞力、漁樵備ノ別ヲ以テ記入ス。住所ハ大字番地等ヲ記ス。以下各表亦同。又備考ノ欄ニハ修學上ニ關スル臨時ノ事故其他参照トナルニキ必用ノ事項ヲ簡記ス。ニ欄内ニ記入ス。ハ餘白ナキニ至リテハ掛紙ヲナシテ記載シ又ハ備考ノ欄ニ記入ス。

第二號 學齡兒童就學者名簿

出生年月日	從前ノ教育	住 所	兒童氏名	族籍	職業	住 所	保護者氏名

注意 學齡兒童就學及家庭教育等ニ關スル規則ニ依リ編製スヘキモノトス其兒童氏名ニハ雖男女弟妹等ナラハ書スベシ

第三號 學齡兒童不就學者名簿

事由	猶豫若クハ免除	出生年月日	從前ノ教育	住 所	兒童氏名	戶數	課稅	課數	族籍	職業	住 所	保護者氏名

注意 學齡兒童就學及家庭教育等ニ關スル規則ニ依リ編製スヘキモノトス

第四號 學籍簿

(用紙美濃紙)

退學 日年月	卒業 日年月	修業ノ經歷						入	本						
		補習科			尋常科				族籍	職業					
明治 年 月 日	明治 年 月 日	第 三 年	第 二 年	第 一 年	第 四 年	第 三 年	第 二 年	第 一 年	學 年	年 月 日	現 入 學 年 月 日	入 學 明 治 年 月 日	出 生 明 治 年 月 日	住 所	保 族 籍 職 業 住 所 氏 名
		名 中 番	名 中 番	名 中 番	名 中 番	名 中 番	名 中 番	名 中 番	點 順 出 席 欠 席						
理由	修業 年限 修業 年限	日	日	日	日	日	日	日							

學籍簿										
履 歷										

注意 學齡ニ達シ學校ニ入ルモノハ總テ之ヲ編羅シ入學ノ順序ニ依リ又ハ更ニ男女ナ別  
簿ニナス等ハ學校ノ適宜トス記入方ハ學齡簿ニ同ク本簿ハ便宜半葉ヲ以テ一人ニ  
充ツルモ妨ケナシ



第五號 明治廿 年月小學校生徒出席簿 訓導 (用紙美濃紙)

席生徒	順姓名		日々出席數	在籍生徒數	出席生徒數	日々出席平均數	本月出席計
	日	姓					
一	二	三	四	五	六	七	八
九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六
十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四
二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	合計

注意 生尋ノ姓名ヲ席順ニ依リ列記シ日々點檢シ出席若クハ欠席ノ符號ヲ其日ノ欄内ニ填記

第六號 明治廿 年 小學校生徒出席月次調査簿

在籍生徒	出席生徒數	日々出席平均數	退學生徒	入學生徒	一月		二月	
					合計	補習生	合計	補習生
一年生								
二年生								
三年生								
四年生								
合計								
補習生								
合計								

席ノ人員ヲ合計シ之ヲ日々出席數ノ欄ニ掲クヘシ男女ヲ分テ別簿トナスト否トハ學校ノ適宜トス月末ニ至レハ毎生徒一月間出席ノ日數ヲ合セテ出席數本月ノ欄ニ記入シ又其各人ノ出席數ヲ合算シテ其最後ノ日數ヲ合セテ出席數本月ノ欄ニハ其以前ニ係ル各月ノ出席總數ヲ掲クヘキモノニシテ之ト本月分ト合セテ合計ノ欄ニ記スヘキモノトス故ニ自四月至前月ノ欄ニハ每學年始業ノ月ニハ掲クヘキノ數ナシトシ之ヲ一月ノ授業日數ヲ記入スヘシ在籍生徒數トハ本簿ニ列記セル生徒ノ總數ヲ云ヒ出席生徒數トハ在籍生徒中本月内一日ニテ出席セル生徒ヲ合セル數ヲ云フナリ日々出席平均數ハ其月ノ授業日數ヲ以テ出席數本月分ノ總計ヲ除クナリ數ヲ記入スヘシ

		三月					四月					五月					六月				
		一年生	二年生	三年生	四年生	合計	一年生	二年生	三年生	四年生	合計	一年生	二年生	三年生	四年生	合計	一年生	二年生	三年生	四年生	合計
在籍生徒	男																				
在籍生徒	女																				
出席生徒數	男																				
出席生徒數	女																				
日々出席平均數	男																				
日々出席平均數	女																				
退學生徒	男																				
退學生徒	女																				
入學生徒	男																				
入學生徒	女																				
入學生徒	計																				
入學生徒	計																				

注意 在籍生徒以下二欄ハ毎月末出席簿ニ依リ記入シ入學退學生徒ハ別ニ簿ヲ入學及退學者名簿ニ依リ記入スヘシ總計ノ項ニハ在籍生徒出席生徒ハ記入スルコト及ハス

		七月					八月					九月					十月				
		一年生	二年生	三年生	四年生	合計	一年生	二年生	三年生	四年生	合計	一年生	二年生	三年生	四年生	合計	一年生	二年生	三年生	四年生	合計
在籍生徒	男																				
在籍生徒	女																				
出席生徒數	男																				
出席生徒數	女																				
日々出席平均數	男																				
日々出席平均數	女																				
退學生徒	男																				
退學生徒	女																				
入學生徒	男																				
入學生徒	女																				
入學生徒	計																				
入學生徒	計																				

明治廿五年 小學校生徒出席月次調査簿

考 備	合 計		十二 月					十一 月				
	合 計	補 習 生	四 年 生	三 年 生	二 年 生	一 年 生	合 計	補 習 生	四 年 生	三 年 生	二 年 生	一 年 生

第七號 第何學年修業成績報告

試驗評点	出席日數	欠席日數	戒備度數	及落	氏 名

注意 學齡兒童就學及家庭教育等ニ關スル規則ニ依リ調製スヘキモノトス

第八號 甲種校具目錄

甲種校具目錄ハ圖書、器械、標本、ノ三部ニ大別ス其樣式左ノ如シ

番 號	番 名	著 者	部 數	冊 數	價 格	購入若クハ寄贈者	年 月 日	備 考

注意 備考ノ欄ニハ欠本破損ノ理由、年月日等ヲ記入シ價格、年月日ノ詳ナラザルモノハ價格ハ推定シテ記入シ年月日ハ欠クモノトス以下之ニ准ス

二、器械目録

番 號	品 名	個 數	價 格	購入者 若クハ 寄贈者	年 月 日	備 考

注意 小學校ノ種類ニヨリテハ更ニ之ヲ内別ノ理科器械体操器械等ニ分ツモ妨  
ナシ

三、標本目録

番 號	品 名	産 地	個 數	價 格	採集者若クハ 購入寄贈者	年 月 日	備 考

注意 小學校ノ種類ニヨリテハ更ニ之ヲ内別ノ動物標本、植物標本、礦物標本、産物標  
本等ニ分ツモ妨ケナシ

乙種校具目録

番 號	品 名	個 數	價 格	購入者 若クハ 寄贈者	年 月 日	備 考

第九號 生徒賞與簿

年 月 日	等 級	品 名	理 由	學 年	住 所	姓 名	生 年 月
	(何等賞)						

注意 學校コトヲ賞與シタル外縣廳又ハ郡役所ヨリ賞與セル者モ記入シ其由ヲ記シ置ヘシ

第十號 高等(尋常)小學校第何年生處罰簿

年 月 日	處 罰	理 由	姓 名
	(貶 席)		
	(何運 分校)		

第十一號		高等(尋常)小學校		何年修業年限卒業證書割印簿	
番號	割印年月日	住所	姓名	生年月	何直分立

第十二號

高等(尋常)小學校用何年修業(學習)證書割印簿

番號	割印年月日	住所	姓名	生年月

注意 學年別ニナスト又ハ各學年ヲ合スト若シハ數年兼用スト又ハ一年別ニナスト  
ハ學校ノ適宜トス

第十三號

何々小學校教員履歷簿

履歷書		族籍住所	
生所	姓名	生年月日	

注意 上欄ニハ年月日中欄ニハ事項下欄ニハ官廳學校立教師等ノ名ヲ記入スヘシ  
新任ノモノアルトキハ直ニ本人ヨリ教シ以后ノ事故ハ學校ニ於テ時々記入スヘシ

第十四號 就學者名簿中未就學者報告

住 所	保 護 者 氏 名	住 所	兒 童 氏 名
			離男女弟妹等 氏 名
			養人内 女 男 人 人 名

注意 本表以下十八號マアハ學齡兒童就學及家庭教育等ニ關スル規則第十四條ニ依リ調製報告スルモノトス

第十五號 缺席生徒報告

住 所	保 護 者 氏 名	學 年	月 欠	日 席	月 督	日 促	生 徒 氏 名
							離男女弟妹等 氏 名
							養人内 女 男 人 人 名

第十六條 卒業生徒名簿

卒業年月日	住 所	族 籍	生 徒 氏 名

第十七號 臨時入退學生徒名簿

入學生徒

入學年月日	學 年	住 所	族 籍	生 徒 氏 名
				養人内 女 男 養人 養人

退學生徒

退學年月日	退學事由	學 年	住 所	族 籍	生 徒 氏 名
					養人内 女 男 養人 養人



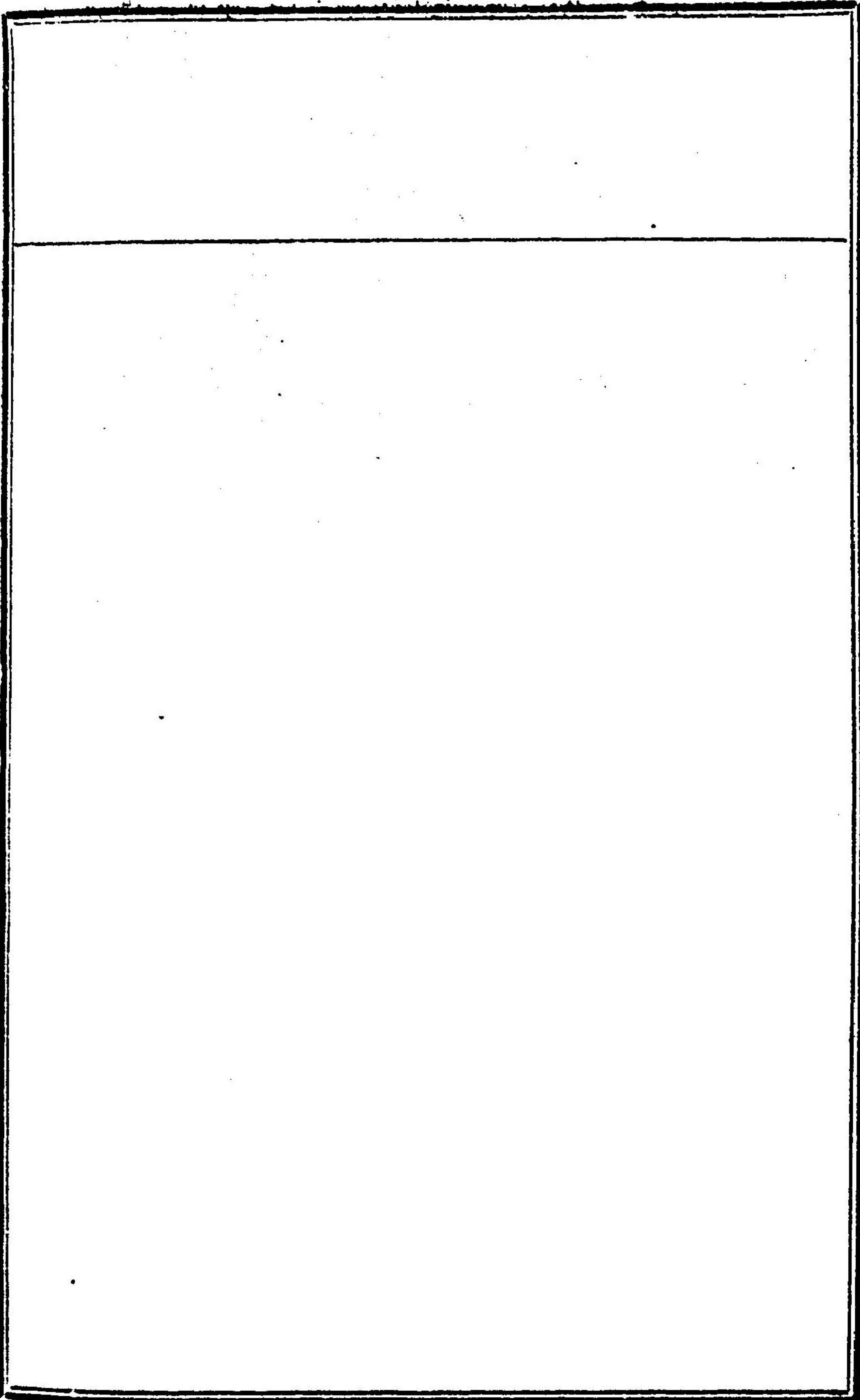
年中授業日數	本年各月中出席生徒平均數	本年各月中出席生徒最寡數	本年各月中出席生徒最多數	入學生徒		半途退學生徒		卒業生徒		別										
				女	男	女	男	女	男	合計										
										女	男									
本表ニ記載スヘキ生徒ハ年末ノ現在籍生ニシテ本年中出席シタルモノトシテ卒業生徒ハ本年中ニ卒業セシモノトシテ統計シテ掲ケヘタ半途退學生徒ハ退學生徒ノ内卒業退學者ヲ 導訓准及導訓 導訓准 導訓 高等 高等 女男 女男 女男 女男																				

除キタル數ヲ掲ケヘシ職業別庶業トハ官吏學者醫師僧侶ノ類努力トハ漁獲傭等ノ類ナリ  
 訓導及准訓導ノ欄ノ尋常高等ノ區別ハ其免許狀ノ種類ニ依ルヘシ又専科ノ者アルトキハ  
 同欄内ニ符合テ付シ別記スヘシ

○告示第六十五號 明治二十五年十月二十一日  
 今般左記ノ者ハ本縣小學校教員免許狀ヲ下付シ小學校教員候補者名簿ニ登録ス  
 尋常小學校准教員

- 福井市福井毛矢町 徳山しか
- 同 同日ノ出下町 小林さた
- 同 同賣永上町 橋本やす
- 福井市福井佐佳枝下町 小林小しけ
- 吉田郡殿下村 東林みどり
- 今立郡鯖江町上小路 齋藤なを
- 福井市福井松ヶ枝下町 大村はりの





衛生

○甲第六十四號 明治十四年六月七日  
不熟ノ菓實ハ概テ有害物コシテ之ヲ食スル時ハ往々不測ノ患害ヲ醸成スルヲ以テ故ニ以來  
右販賣不相成ハ勿論兒童アレ父兄ニ於テモ能ク注意可致此旨布達候事

○丙第十七號 明治十四年六月九日 郡役所 戸長役場  
人民願屆等ニ取添テ醫師診斷書ハ自今別紙書式ニ準據相認テ可爲差出此旨相達候事

(別紙)  
書式

診斷書

(縣)郡町(村)番地族及ヒ職業

姓 名

年 月 日 生

右ハ天資強實コシテ嘗テ病患ニ罹リシコトナリ  
本年何月何日田圃耕作中忽然惡寒發熱

歸家直チニ臥褥ニ就キ某ニ診察ヲ乞フ爾來水洩日ニ三四行舌乾口渴熱度隨テ昇進四十度ヲ越ヘ一周ノ後胸腹ニ於テ紅疹ヲ發シ肝脾ノ濁音廣大シ耳鳴重聽飲食ヲ思ハス  
 扶斯熱ト云々診察ノ規尼温頓挫法酸類ヲモナーア滋養飲食料醋水ノ洗身法等ヲ施シ  
 已ニ四周ヲ經過シ諸症漸次ニ快癒ニ赴キ候得共全身衰弱復セサルニ付  
 歩行ナシ難ク及診斷候也或ハ何々症ヲ繼發シ所詮治癒ス可カラサル者ト及診斷候也

(縣)郡町(村)番地醫業

治療主任

何 某印

年 號 月 日

○甲第十五號 明治十五年一月二十六日

從來骨接ト稱ヘ整骨業相營候者ハ舊醫業同様鑑札可願請之處當時全ク接骨業ノ醫術ニ屬ス  
 ヘキヲ誤解シ鑑札下附不願出向間々有之哉ニ相聞候ニ付明治十年已前ヨリ開業シテ履跡  
 有之者ニ限リ試驗ヲ要セス舊整骨醫ノ鑑札下附候條來ル二月二十八日迄ニ履歷書相添郵投  
 所ヲ經テ縣廳ニ可願出自然右期限ヲ過去リ願出候者ハ何様ノ情實有之候トモ試驗ヲ要スル  
 ニ非ヤンハ開業不差許候條此旨布達事

明治廿一年  
告第七號

○甲第五十六號 明治十五年三月廿八日

近來アコリシ其他鑛屬製ノ繪具染料ヲ以テ飲食物及ヒ玩弄品(小兒ノ手遊ニ供スルモノ)ニ着色スルモノ不尠右ハ自然人身ノ健康ヲ害スルハ勿論往々其毒ニ中リ危難ヲ致ス者有之ニ付右等ノ品類ヲ以テ着色候儀不相成候條自今左ニ列記スル品ニ限リ相用フヘシ此旨布達候事  
 但左ニ掲ケル品類ノ外ニ飲食物玩弄品ノ着色料ニ相用度品アラハ其品名産出所及履歷セ  
 ヲ無害ノ理由等ヲ詳記シ現品相添郵廳ニ願出許可ヲ受クヘシ尤産出所並無害ノ理由不分  
 明ノモノハ關如スルモ妨ケナシ

無害着色料

赤色之部

- 一 ベンガラ (一名鎮丹、即チ第二酸化鐵)
- 一 鴉片脂 (コチニールヲ以テ製スルモノ)
- 一 茜草
- 一 蘇木
- 一 日本紅 (笹紅、小町紅ノ類ニテ紅花ヲ以テ製スルモノ)

一 油煙	一 木炭	一 紫根	一 末茶	一 青粉	一 日本藍	一 體金粉	一 山花子	一 泊美蘭	一 黃柏
	黑色之部	紫色之部		(野菜ヲ以テ製スルモノ)	(藍玉藍紙ノ類ニ、藍葉ヲ以テ製スルモノ)	青色之部	(棠梨ノ皮ヲ以テ製スルモノ)		黃色之部

一 代緒知	一 黃土	一 地粉	一 砥粉	一 石膏	一 角粉	一 錫箔	一 銅箔	一 真鍮箔	一 胡粉	一 妨ケナキ
									(炭酸石灰)	以上十八種ハ、飲食物并玩具品ニ用フニ着色料ニシテ此品類ノ内單味或ハ調合ニ用フニモ
										金色並ニ銀色之部

一 賦 購 場  
 一 玉 墨  
 以上十二種ハ玩弄品ニ用フニ若色料ニシテ此品類及前項十八種ノ内單味或ハ調合ニ用フ  
 ンモ妨クナシ

明治十七年七  
 月外途但香  
 差者

○甲第九十二號 明治十五年五月七日

從來開業醫 內務省免狀所持ノ者ト本ノ子弟コシテ其助手ト相成居醫業ヲ以テ家名相續致度  
 縣鑑札所持ノ者ト云  
 志願者ニシテ年齢本年六月滿二十五年以上ノ者ニ限リ診察ノ上試驗ヲ要セス醫術開業鑑札  
 下渡候條來ル八月三十一日限リ履歷書相添那役所ヲ經テ縣廳ニ出願スヘシ此旨布達候事

號外 明治十六年五月二十八日

公立 病院 醫師  
 私立

中央衛生會委員トクトル、ヘルツ氏ヨリ別紙肺肝二病ノ意見書差出候ニ付右病是有之候ハ  
 ハ報告致スヘキ旨其筋ヨリ申越ノ次第有之候條右ニ應當スル病症發見候ハ、其主候ヲ概記  
 シ人名住地職業年齢等ヲモ併セテ可届出此旨相達候事  
 (別紙)

ドクトル、ヘルツ氏意見書

余一千八百七十八年而來日本國ニ於テ肺「ヂストマ」(Distoma Pulmonale)ト稱スル一種ノ寄  
 生蟲ニ由リテ起ル一新病ヲ發見シ之ヲ寄生蟲肺血(Parasitäre Haemoptoe)ト名シテ抑モ此  
 疾病ハ日本ノ外ニ於テハ唯二人ノ台灣人カ病ミタルコト有リテ其他ハ余カ曾テ發見セタル一  
 人ノ朝鮮人ニ之ヲ見シテ有ルノミナレド日本ニ於テハ實ニ不問ニ措ク可カラサル一大疾患  
 タリ然レド余モ亦曾テ該病患者ニ就キテ未ダ蟲卵ヲ發見セサル前ハ唯肺勞トノニ認定セタ  
 ルヲ以テ隨ヒテ診斷發後及ヒ治療モ亦其當ヲ得スノ大ニ考按ニ苦ミシコト多カリキ  
 該病ハ今日日本ニ夥シク之アリ余一人ニテモ百人以上ノ患者ヲ認メタル程ナレハ衛生上ニ於  
 テハ最モ注意ヲ加ヘ其國中ニ存スル實況ヲ究メンカ爲官府ニ於テ特ニ該病ノ統計法ヲ舉行  
 セラレシコトハ最モ緊要ノ件ト爲スヘシ然レド該病ニ罹ル者ノ多寡及ヒ其死ヲ免ル、カ否  
 ナ知ルヲ得以テ公衆ヲシテ其所患ノ狀況ヲ曉ラシメ且ツ其蔓延ノ勢ヲ抑制スルヲ得ルニ至ラ  
 シムル疑ナカレヘシ此理由ヲ以テ余ハ謹テ衛生局ニ向ヒテ建言ニ切ニ望ム荷クモ願做候ヲ用  
 ヒテ診斷ヲ施行シ得ルノ醫師アル病院ヨリハ此寄生蟲肺血病ノ數ニ就キテ報告ヲ蒐集セテ  
 シンコト余カ從來ノ經驗ニ據リテ考フルニ該病ハ日本ノ西南ノ兩地方殊ニ岡山縣熊本縣ノ  
 如キ山多キ地ニ多ク存セル者ナラン

余ハ又六年來一種ノ肝臟病ヲ發見シテ其病候ハ肝臟顆粒變性或ハ肝臟毒ト甚ク相似シ  
 シ此病原及ヒ其他諸多ノ關係ニ於テハ全ク二病ト異ナル者ナリ此疾病ハ今マラ學問上ニモ  
 未ダ論ヲ來ラザル所コソ但ツ余ハ未ダ曾テ其解剖ヲモ行ハサレハ病變ノ實況如何ニ至リテ  
 ハ之カ明辨ヲ爲スニ能ハス唯該病ハ寄生蟲ヨリ起ル者ト想像スルニ止ルノミ因リテ余ハ曾  
 テ余カ知ル舊生徒ノ諸醫院ニ赴任スルニ當リテハ皆該病ニ注意アラントテ依頼シタリ然  
 ルニ頃日岡山ニ於テ行ヒタル解剖ニ據レハ同地ニ在リテモ尙ホ寄生蟲該病ノ原因ト爲レリ  
 因リテ考フルニ或ハ全國處々ニ地方病ト爲リテ存セル者ナラシカ故ニ余ハ海濱ニ位セル府  
 縣各地方ノ住民間ニ於テ肝臟肥大、下利、食食及ヒ麻痺ノ四大症候ヲ具フル疾病ノ地方病ノ  
 狀ヲ爲シテ現存セルカ否ヲ知ラシカ爲特ニ其報告ヲ徵集セラントテ切望ス殊ニ他國ニ於テ  
 未ダ曾テ見ザル所ノ此疾病コソ已ニ現ニ岡山縣下ニ行ル、ノ實況アレハ衛生局ニ於テ最モ  
 注意ヲ要セラレヘキ事ト信スルナリ

一千八百八十二年十二月十四日

ドクトル、エルクソン、ベルツ

○論第七號 明治十六年六月二十一日

飲料水ハ人生ノ命脈ヲ保持スルニ最モ緊要ニシテ日常欠ク可ラザルモノナレハ人々心ヲ用

明治二十一年  
 衛生局第八號

テ其性ノモノヲ採用セザルヘカラス常ニ不其ナル水ヲ飲用スルモノハ平素腸胃病其他種々  
 ノ疾病ヲ醸生スルノ憂ヲ免レザルナリ而シテ我地方ノ習慣タル多クハ河水ヲ用ヒ又井水ヲ用  
 シモノアルモ其井戸ハ概テ厠廁厨浴室等ノ近傍ニ鑿テ且ツ其構造ノ宜キヲ得ザルヲ以テ  
 汚物ハ漸々地中ヨリ滲透シテ遂ニ井水ニ混入ス其命脈ヲ保持スルニ緊要ナル飲料水ニシテ  
 却テ病患ノ本源ヲラシムルニ至ル豈忍レザルヘケンヤ曩年惡疫流行ニ方リ河水或ハ不其ナ  
 ル井水ヲ飲料ニ供スル町村ニハ著シク病毒ノ傳播セシテ實見セリ是ニ由テ之ヲ觀レハ不其  
 ナル飲水ハ惡疫ノ感染ニモ亦大ニ關係ヲ有スルコト疑ハカラス故ニ自今新ニ井戸ヲ  
 鑿ツ者及從來不其ノ飲料水ヲ用ヒ來リモノハ左ノ飲料水注意法ニ隨ヒ專ラ改良除害ニ注  
 意スヘシ此旨諭告候事

飲料水注意法

凡ソ日常飲料ニ供スル水ノ其否ヲ概別スルニ無味無臭コソ清ナルモノハ飲用ニ適シ其無味  
 ニシテ清ナルモ或ハ些少臭氣ヲ帯ヒ又ハ僅ニ濁アルモノハ必ス濾過セザルテ得ズ而シテ其有害  
 物ノ多少ニヨリ濾過スルモ尙ホ煮沸シテ後初メテ飲用ニ適スヘキモノアリ然レバ其味  
 濁ノ甚キモノニ至テハ決シテ飲料ニ供ス可ラス抑モ水ノ其性ナルモノハ深井水及清泉  
 多クシテ河流ニ少クシテ故ニ井戸ヲ區別シ左ノ注意法ノ一查ヲ示ス

井戸

一 井水ハ地下深在ノ真水(地底水)ヲ求ムルモノナレハ成ルヘク深穿スルヲ要ス淺層ノ水ヲ得ル處ノ水ハ常ニ不潔物ヲ混スルカ故ニ飲料ニ供ス可ラス

一新ニ井戸ヲ鑿ツモノハ井戸側及ヒ井底ノ構造ヲ密ニシ其接續ノ間隙アル場所ハ堅土等ヲ以テ之ヲ充填シ専ラ汚水ノ浸入ヲ防止スヘシ

但 戶外路傍等ニ設置シ塵芥ノ入易キ箇所ハ常ニ蓋ヲ以テ覆フヘシ

一 従前ノ井戸ヲ修繕スルモノハ都テ前條ニ倣ヒ改良スヘシ

一 井戸ヨリ三箇以内ハ溝渠、厩廁、浴室、及ヒ團圓、芥溜等ハ成ルヘク新設スヘカラス

但 現在設置ノ分ハ修繕等アルモノニ改設スルヲ要ス

一 井戸ノ周圍ハ必ス流石ヲ設テ適宜下水ヲ流通セシメ汚水ヲ停滯ナカサシムヘシ

一 井戸ノ近傍ニ於テ糞糶、便器等汚穢ノ物品ヲ洗濯シ及ヒ魚鳥ノ骨骸等ヲ棄テ可ラス

一 毎一年一度以上井戸浚ヲナスヘシ若シ井戸側ノ破損シテ汚水ノ滲透スルモノハ速ニ修繕ヲ加フヘシ

一 埋葬地及深淺近傍ノ井水ハ精密検査スルニテラキレハ決テ飲料ニ供ス可ラス

河川

一 河水ハ其原々深山ノ地底水ニ採ルモノ多キカ故ニ流通ノ經過短クシテ不潔物ノ混入少キモノハ飲料トナスモ妨ナシ然レハ漸ク下流ニ至リ人家稠密ノ地ニ近クニ從テ種々ノ不潔物ノ混入スルヲ以テ成ルヘク飲料ニ供ス可ラス

但 従來ノ習慣ニ依リ河水ヲ飲用スルモノハ鑿井ヲテ真水ヲ求ムヘシ

一 鑿井不便コトヲ止ムテ得ス河水ヲ以テ飲料ニ供スル町村ハ成ルヘク水質精潔ナル水源ヲ撰ミ石材或ハ木材ヲ埋糶トナシ水道ヲ構造シ専ラ汚水ノ滲透ヲ防止スヘシ

一 止ムテ得ス河水ヲ飲料ニ充ルモ供給區域ノ戸口僅少コトヲ客易ク水道ヲ構造シ能ハサル者ハ其水ヲ濾過シ向煮沸シテ後飲用スヘシ

但シ井戸水ト雖ハ水質精潔ナラザル者ハ本條ノ手續ヲナスヘシ

一 傳染病ノ流行スルモノハ其性ノ水ト雖ハ煮沸シテ後飲用スヘシ

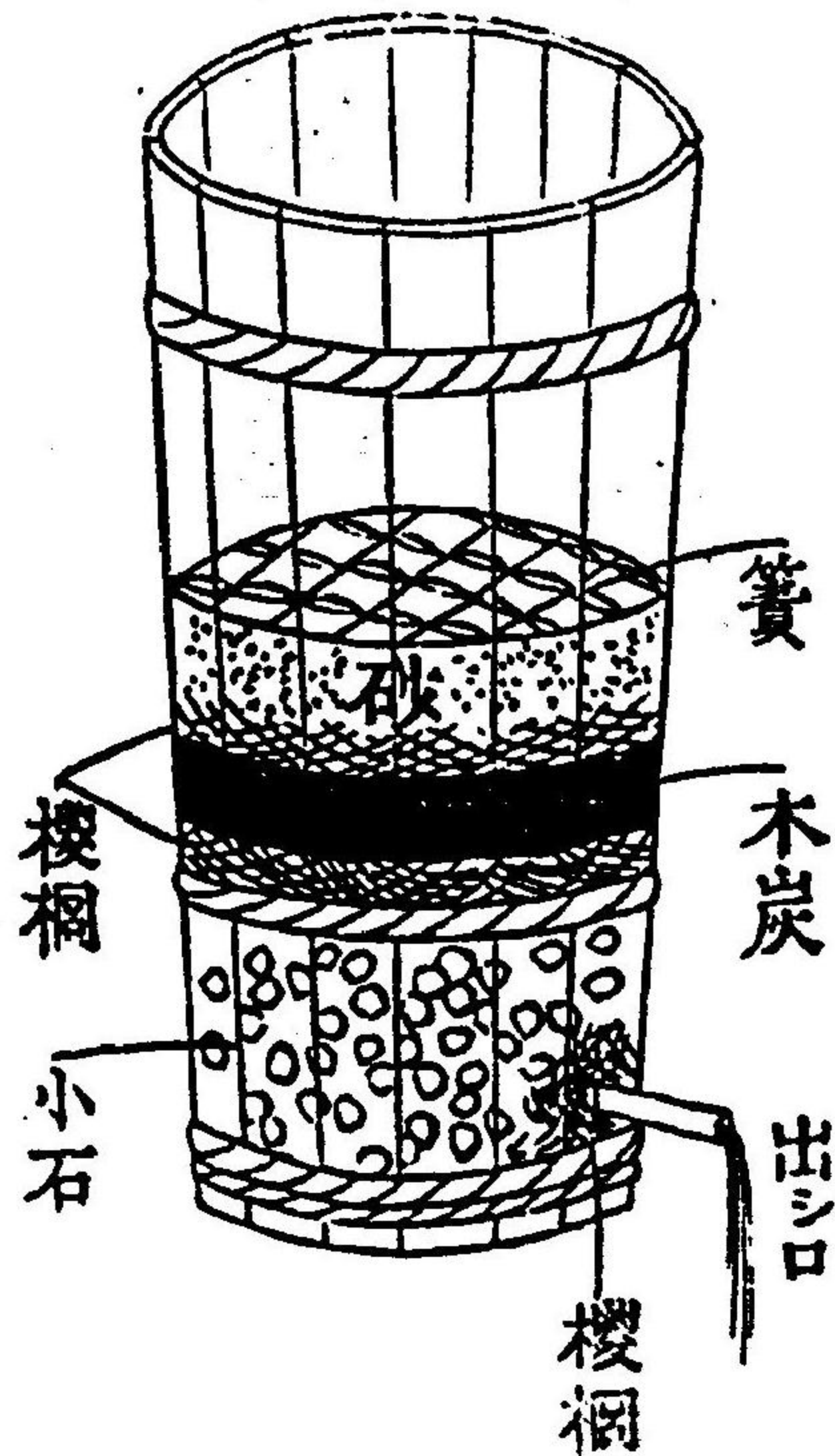
濾過 法

一 濾過ノ方法數種アリト雖モ左コ掲ケルモノハ構造簡易コトヲ効驗少シトセス故ニ成ルヘク之ニ倣ヒ製造スヘシ

濾過器ハ高サ三尺直徑一尺五寸許ノ桶長トシ下湖面ニ一小口ヲ穿テ出口ヲ挿入シ櫻桐毛ヲ以テ其内口ヲ蔽ヒ桶内ノ最下ニ一枚枚大ノ小石ヲ敷テ厚サ壹寸許ヲ其上

ニ尋常ノ木炭豆粒大ノモノヲ厚キ五寸許リ敷キ炭ト石トノ間ニ櫻桐毛ヲ敷キ界トナシ  
 又炭ノ上ニコモ櫻桐ノ毛ヲ敷キ其上ニ清潔ナル砂ヲ厚キ一尺許リ敷キ櫻桐ノ如キ者ヲ以テ  
 之ヲ覆ヒ水ヲ上ヨリ傾瀉スレハ漸々下口ヨリ流出スヘシ但日常初ニ流出スル水ハ濾過  
 前ヨリ溜リ居ルモノナレハ取除ク可トス  
 右ノ砂小石等ハ少ナクモ一月一回桶ヨリ取出シ洗浄スヘシ尤モ木炭ハ其都度更換スル  
 事要ス  
 一凡テ貯水器ハ成ルヘク石造又ハ磁製ノモノヲ用ヒ時々沈降物等ヲ洗除シ且ツ常ニ蓋ヲナ  
 シ塵埃等ノ散入ヲ防クヘシ

圖式



甲部第六號 明治十六年六月廿五日

娼妓並貸坐敷所在處

娼妓徵毒検査規則別紙之通相定候條此旨布達候事

但從前ノ總指令等本則ニ抵觸ノモノハ總テ取消ス

(別紙)

娼妓徵毒検査規則

- 第一條 凡娼妓タル者ハ毎月三回醫館院又ハ檢査所ニ出テ徵毒ノ検査ヲ受クヘシ  
 但検査ノ日時ハ別ニ之ヲ定ム
- 第二條 検査ノ上徵毒アルモノハ直ニ入院療養セシム
- 第三條 療養中ハ廢業スルコトヲ許サス
- 第四條 入院中ハ外出ヲ許サス  
 但已テ得サル事故アル時ハ其事實ヲ證明シ寄留戶主 自宅ヨリ出陣及同行事連身ノ書留  
 ナリテ該院へ申出許可ト受クヘシ
- 第五條 入院中ハ醫員ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他人ノ面晤ヲ許サス
- 第六條 入院ノ節ハ別紙書式ノ證書差出スヘシ

明治十六年甲部第六號  
 娼妓並貸坐敷所在處  
 娼妓徵毒検査規則  
 別紙之通相定候條  
 此旨布達候事  
 但從前ノ總指令等  
 本則ニ抵觸ノモノハ  
 總テ取消ス

明治十六年令第百三十五號ヲ以テ改正シテ元ノ第十二條以下順次總下シ  
 明治二十年令第百三十五號ヲ以テ改正  
 明治十六年甲第七十五號ヲ以テ罰金ヲ過科ト改正同甲第七十二號ヲ以テ罰金部ヲ改正同甲第五號ヲ以テ改正

第七條 徵毒アル者ハ總テ營業ヲ許サズ故ニ營業證札及檢査證ヲ屬徵院又ハ檢査所ヘ預テ置クヘシ

第八條 己ヲ得ナル事故アリテ他行ヲ要シ定日ノ檢査ヲ受クル能ハサルモノハ前以テ檢査ヲ受クヘシ

第九條 檢査定日外ハ雖モ徵毒其他陰部ニ關スル病アリト自覺スルトキハ速ニ檢査ヲ乞フヘシ

第十條 他ノ疾病アリテ當日不參スル者ハ醫師診斷書ヲ添ヘ屬徵院又ハ檢査所ヘ届出ヘシ尤モ全快ノ上ハ臨時檢査ヲ受クルニ非ナレハ營業ヲ許サズ

但時宜ヨリ該家ニ就テ診察セシムルコトヲ許サズ

第十一條 檢査室ヘハ檢査醫員ノ外入ルコトヲ許サズ

但掛官吏並ニ附添婦人ハ此限ニ非ス

第十二條 患者ノ藥價其他治療ニ係ル費用ハ官費ヲ以テ支給スヘシ

但他病ニ係ル者ハ此限ニ非ス

第十三條 此規則中第一條第四條第五條第七條第八條第九條第十條ニ違背シタル者ハ二日以上一月以下ノ苦使ニ處シ又ハ五拾錢以上拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

二年以テ改正同二十二年令第百三十五號ヲ以テ改正同甲第七十五號ヲ以テ罰金ヲ過科ト改正同甲第七十二號ヲ以テ罰金部ヲ改正同甲第五號ヲ以テ改正

(別紙)

證書式 用紙證券界紙

證

私儀今般徵毒ニ罹リ入院療養被命候ニ付テハ御規則堅ク相守リ候ヘ勿論食費其他入院中ノ諸雜費ハ御成規ニ從ヒ相納可申萬一相滞候節ハ保證人ヨリ辨償可仕仍テ證書如斯候也

年月日

住所

籍姓 何ノ 職印

住所

右寄留戸主(或ハ戸主)

保證人 何ノ 職印

行事 何ノ 職印

何病院御中

甲部第十二號

明治十六年十一月五日

娼妓貸坐敷所在地

本年六月本縣甲部第六號布達娼妓徵毒檢査規則左之通、改正追加、從前第二條、第三條、



明治二十年甲午令第百三十五號ヲ以テ改正

明治十九年甲午部第五号布達ヲ以テ改正

明治十六年甲午第百十三號布達及同十八年甲午第八十五號布達但書並ニ

以下順次操下候條此旨布達候事

第一條ノ次へ左ノ一條挿入

第二條 新ニ娼妓ノ許可ヲ受ケタル者ハ直ニ驅逐院又ハ病院檢査所ニ就テ檢査ヲ受ケル

從前第十三條ヲ左ニ改正

第十四條 此規則第一條第二條第五條第八條第九條第十條第十一條ニ違背シタル者ハ二日以上一月以下ノ苦使ニ處シ又ハ五拾錢以上拾五圓以下ノ過料ニ處ス

○甲第九十五號 明治十六年十一月八日

賣藥部外製劑販賣規則左ノ通相定明治十七年一月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但從前當縣ノ許可ヲ得タルモノハ其願書其相添本文施行期日迄ニ鑑札ヲ請求シ又從前他管ノ製劑ヲ請賣スルモノハ同期日迄ニ那役所へ出願シ許可ヲ受ケル

賣藥部外製劑販賣規則

第一條 賣藥部外製劑トハ鼠取藥、驅蟲藥、防臭藥、滋養藥、主トシテ功能ヲ用スル飲食物其他飲食物ノ損敗ヲ修治防止スル諸藥等總テ人畜治病ノ目的ニテラナル製劑ヲ云フ

第二條 前條ニ掲ケル製劑ヲ販賣セント欲スル者ハ藥味分量製法用法功効ヲ詳記シテ第一號式ノ書面ニ製劑ヲ添ヘ縣廳へ願出免許鑑札ヲ受ケル

但他管ニ於テ販賣ノ免許ヲ得タル者當縣下ニ轉籍若シハ寄留シテ營業セント欲スル者ハ亦本條ニ準シ出願スル

第三條 製劑ニハ必ズ製造者ノ住所姓名ヲ明記スル

第四條 既ニ許可ヲ得タル製劑ニシテ方名又ハ藥味分量製法用法能書ヲ改正セント欲スルトキハ一旦鑑札ヲ返納シ更ニ第二條ノ手續ヲ經新鑑札ヲ願受ケル

第五條 他管營業者ノ製劑ヲ當縣下ニ於テ請賣セント欲スル者ハ第二号式ノ書面ニ其管轄廳免許書ノ寫ヲ添ヘ那役所へ願出許可ヲ受ケル

第六條 既ニ許可ヲ得ルト雖モ其製劑有害品ナルコト更ニ發見スル時或ハ營業者製劑ヲ粗惡ニスル等ノコトアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコトアル

第七條 營業者ハ常ニ請賣者及ヒ賣子ノ名簿ヲ備ヘ置發賣ヲ禁止セラルトキハ速ニ其由ヲ請賣者及ヒ賣子ニ通知スル

請賣者及ヒ賣子共前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ其販賣ヲ止ム

第八條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡シテ欲スルトキハ雙方連印シテ第三號式ノ書面ヲ縣廳へ差出シ鑑札書換ヲ請フ

第九條 鑑札ハ本人死亡スルカ又ハ廢業若クハ禁止セラレタル時ハ之ヲ返納シ轉居代替ノ  
 其他住所姓名等ニ異動ヲ生シタルトキハ書換テ請フヘシ但禁止ニ由テ鑑札ヲ返納スルト  
 キハ請賣者及ヒ賣子ノ住所姓名ヲ届出ヘシ

第十條 鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難等ニ由テ毀失シタルトキハ其仔細ヲ詳記シ再渡テ請フ

第十一條 此規則(第一條第六)ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ處分ス

第一號 用紙中折野紙三通内一通ハ郡役所ニ留メ置ヘシ

賣藥部外製劑發賣願

一方名

藥品分量

製法

用法

功能

右ノ製劑發賣仕度候間御検査ノ上免許鑑札御下渡被下度仍テ製劑相添此段奉願候也  
 住所族籍

年月日 縣令宛

姓名印

戶長

姓名印

衛生委員

姓名印

第二號 用紙同上二通

賣藥部外製劑請賣願

一方名

一方名

一方名

住所族籍

右營業人

姓名

營業人異ナレハ縱令一方タリトモ必ス各營業者ノ住所族籍姓名ヲ上ノ例ニ倣  
 ヒ區別シテ記載スヘシ

右ノ製劑幾方請賣仕度依テ何府縣ニ於テ營業者ニ御免許ノ御指令並鑑札寫相添此段奉願候  
 也

住所族籍

年月日	那 長 宛	姓 名 印
	戶 長	姓 名 印
	衛生委員	姓 名 印
第三号	用紙同上三通内一通ハ郡役所ニ留置ス	
賣藥部外製劑讓渡願		
一方名		
製 品	分 量	
製 法		
用 法		
功 能		
<p>(製劑數種アレトキハ上ノ例ニ從テ連記スヘシ)</p> <p>右ハ何年何月御検査済紙札御下渡營業仕候處今般何某ハ讓渡申度依テ所持ノ紙札返納仕候間御査換被下度此段奉願候也</p>		

年月日	縣 介 宛	讓渡人 住所 族 籍 姓 名 印	讓渡人 戶 長 姓 名 印	讓渡人 住所ノ 衛生委員 姓 名 印	讓受人 戶 長 姓 名 印	住所ノ 衛生委員 姓 名 印
〇 告 第 八 十 一 號	明 治 十 六 年 十 一 月 十 三 日					

明治十六年甲第五號  
發布通告

醫師免許規則來十七年一月一日ヨリ施行可相成ニ付明治十年石川縣乙第九十四號同年滋賀縣甲第百廿八號布達之箇條ニ合格スヘキ醫師ヨリテ受職ヲ須キス内務省免狀下附方志願ノ者ハ來ル十二月廿日限履歷書及其他證書類相添出願スヘキ此旨告示候事  
但前布達箇條書末項ニ掲載シタル地方公立病院當直醫已上トハ明治四年滋縣己降同十年八月迄ニ奉職又ハ從事シタルモノニ限ルヘキ

(參照)

明治十年九月七日石川縣乙第九十四號布達

從來醫業ノ者ハ試驗ヲ要セス地方限リ無札相與ヘ候處維新以來該術ヲ以テ附官廳及各地方公立病院ニ奉職從事シ主トシテ醫療若クハ教授ノ任ニ當リタル者ハ志願ニヨリ試驗ヲ不須直ニ免狀可交付旨内務省ヨリ達有之候條相當ノ者ハ左ノ箇條ニ照觀テ願書及履歷書トモ本月三十日マテニ醫務取締總務區務所ヲ經テ可出此旨管内醫業ノ者ハ布達候事

但自今官立醫學校ニ於テ卒業證書ヲ得ルモノ、外總テ成規ノ試驗ヲ受ケ候條ト可相心得候事

一内務省警視病院醫員及醫事廳醫員但藥局專任ノ者ハ此例ニテ以下之ニ依ヘ

一陸軍省軍醫及軍醫試補以上

一海軍省軍醫副以上

一文部省及舊大學東校少得業生及醫學教官下醫當直醫以上並同省直轄諸學校醫員  
痘館掛ハ  
之ヲ除ク

一司法省及舊彈正臺醫員

一宮内省六等侍醫以上及舊少典醫官少侍醫以上

一開拓使病院醫員

一府縣病院及ヒ地方公立病院當直醫以上

明治十年九月三日滋賀縣甲第百二十八號布達

醫術開業ノ儀ニ付テハ本年二月乙第十二號ヲ以テ及布達置候處維新以降醫術ヲ以テ官廳及ヒ地方公立病院ニ奉職シ療療若クハ教授ノ任ニ當ル者ハ志願ニヨリ試驗ヲ要セス直ニ免狀可交付旨内務省ヨリ達有之候條左ノ箇條ニ當ル者ハ願書三通及ヒ履歷書二通當廳ヘ可差出此旨布達候事

但自今官立醫學校ニ於テ卒業證書ヲ得ルモノ、外ハ都テ成規ノ通試驗ヲ遂ケ候條此旨可相心得事

(左書ハ石川縣布達ト同一ニ付略ス)

甲第百五號 明治十六年十二月十三日

明治十六年告示第八十一号

明治十年石川縣乙第九十四號同年滋賀縣甲第百二十八號布達以後奉職セシ者ト雖モ該達箇條ニ比準スヘキ者ニシテ受験ヲ須キス内務省開業免狀下附方志願ノ者ヘハ特別ヲ以テ交附可相成候條本月三十一日限リ履歷書及證書類相添出願スヘシ此旨布達候事

○甲第百十三號 明治十六年十二月廿七日

本年十一月甲第九十五號布達賣藥部外製劑販賣規則來十七年一月一日ヨリ施行可致候ニ付テハ他管營業者ノ製劑ヲ當縣下ニ於テ請賣セント欲スル者ハ右規則第五條ニ據リ其管轄廳免許書ノ寫ヲ添ヘ郡役所ヘ願出許可可相受管ノ處規則施行以前受取置タル者ニ限リ同年六月三十日マテ右ノ手續ヲ經ス販賣差許候條此旨布達候事

諭第三號 明治十七年三月二十八日

近來人家稠密ノ場所ニ於テ牛馬類ヲ糞糞候モノ往々有之趣相聞ヘ右ハ明治六年太政官第百六十三號公布ノ趣旨ニ相戻リ不都合ノ儀ニ付心得違無之様可致此旨諭達候事

甲部第四號

明治十七年五月二日

福井 大野 坂井 市街 武生 敦賀 小濱

路傍便所構造并掃除規則左ノ通相定メ來ル六月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

路傍便所構造并掃除規則

第一條 路傍へ新ニ便所ヲ設置セント欲スル者ハ飲料ニ供スル河水又ハ井泉ニ隔絶シタル地ヲ撰ヒ塙所ノ圖面相添ヘ該地衛生委員及戶長 他町村人民ナレバノ奥印ヲ得テ所管警察署ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第二條 便所ニハ持主共有ナレハノ住所氏名ヲ記シタル左ノ雛形ノ標札ヲ掲クヘシ

堅五寸

持主	住所
○或ハ	氏名
受持人	中川 彌

第三條 便所ハ日光ノ直射ヲ防キ雨水ノ流入セサル様別紙圖式ニ倣ヒ往來ニ背キ構造スヘシ

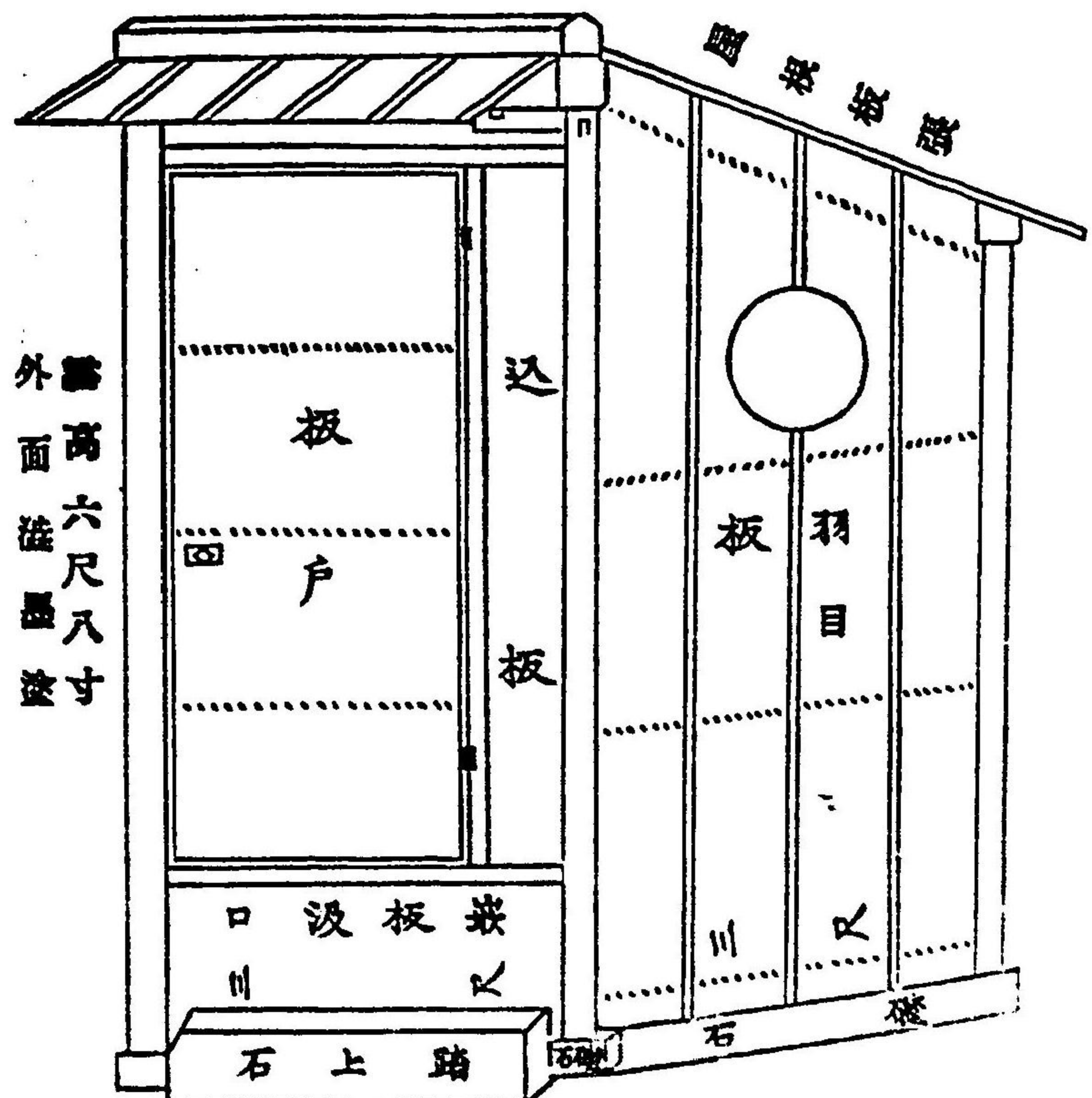
第四條 尿尿器ハ石製陶製若クハ古油樽ヲ用ヒ其周邊ハ石又ハ石灰ヲ以テ製作シ汚汁ノ浸出ヲ防クヘシ

但在來ノ分本條ニ適セキモノハ漸次改良セシム

- 第五條 便所ノ内外ハ必ス清潔ニ掃除シ破損アレハ速ニ修繕ヲ加ヘ常ニ臭氣ノ發散セラル様注意スヘシ
- 第六條 屎尿ハ堆溜セラル様忌リナク汲取ルヘシ
- 第七條 便所ヲ取拂ヒ若クハ構造ヲ變換セントスル時ハ其旨所管警察署ヘ届出檢査ヲ受クヘシ
- 第八條 此規則ハ裏長屋ノ組合便所ニモ適用ス
- 第九條 此規則ニ違背シタル者ハ違背罪ヲ以テ處分スルノ外向ホ行政ノ處分ヲ以テ便所ヲ取拂ハシムルコトアルヘシ

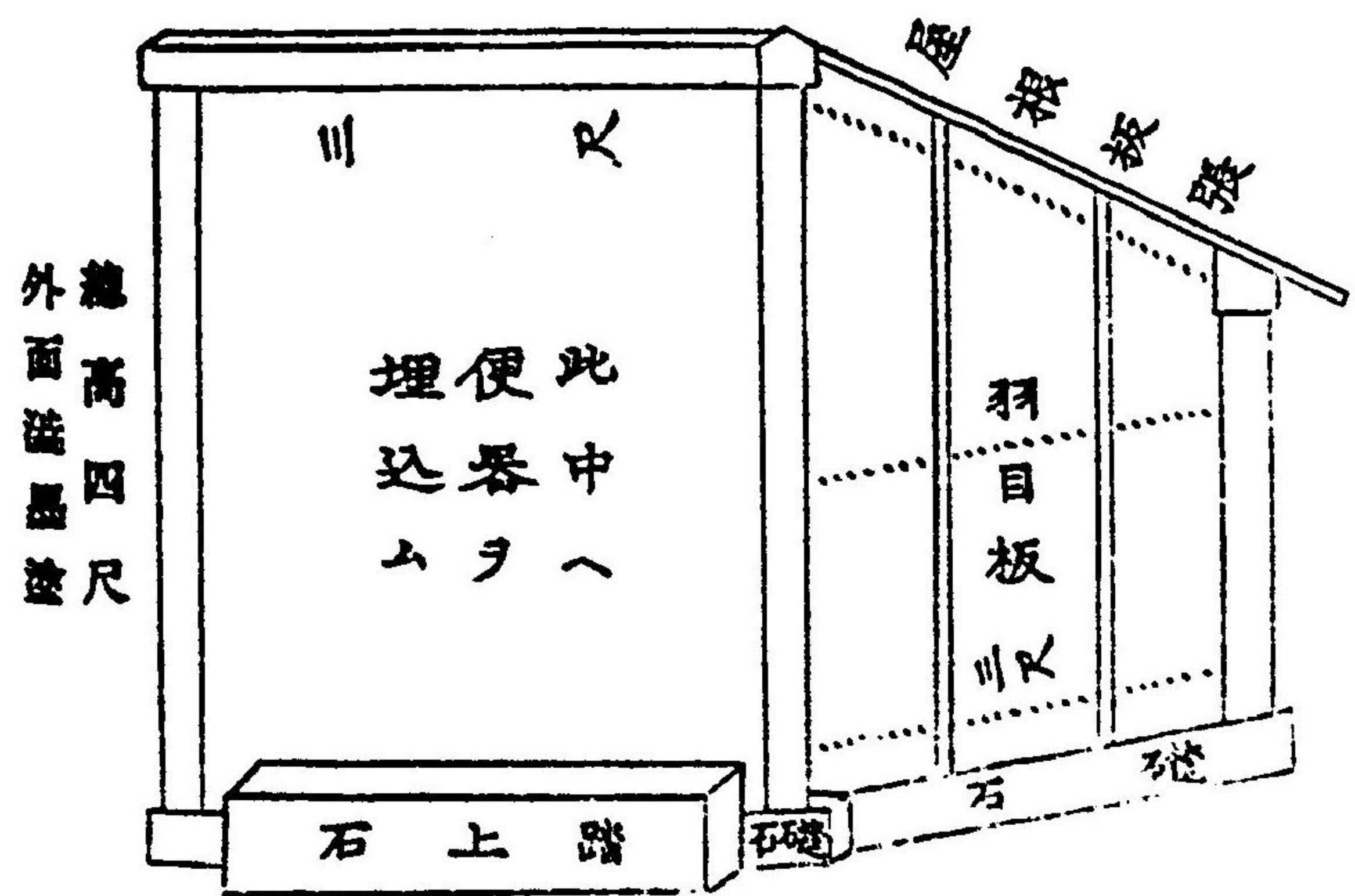
市街兩便所  
建設之畧圖

大 便 所



外面高六尺八寸  
溢蓋蓋

小便所



明治十七年五月廿七日

越前國坂井郡

舟津村 田中々村 二面村 畑江十樂村

今般其村々に於て預顧せし温泉は各善良なる性質にして特異の效能を有し其湧出も亦多量  
 ある故に將來温泉場と爲すに足れるものと信す抑も温泉場あるものは養病の所なるを以て  
 殊に清潔を要するは言を俟たず然るに即今家屋を建築するものを見るに徒らず工事の運成  
 に汲々として其地盛り地固め等を爲さず又溝渠を穿つことをせず爲に卑濕を除く能はざる  
 のみならず汚水停滞して悪臭を放つと斯の如くにして漸く市街と構成せは常に熱病等の  
 發生を促すは勿論一朝惡疾の侵襲するに遇はし其慘毒云ふに忍びざるものあらん實に此貴  
 重の養病地をえて反て畏るべき疾病媒介の區たらしむるは豈思はざるの甚しきものと云は  
 ざるを得んや惟ふに其地たる向來家屋の構造浴室の設置を始め百事計畫其宜きを得ば  
 來りて浴を取る者年一年より多きを加へ寂寞たる郊村も忽ち變じて熱鬧の街衢とあるや疑  
 を容れず然れども當初の計畫茲に出てす土地の卑濕なるも之を改良清潔ならしむるの方を  
 施さず汚水停滞するも之を排除疏通せしむるの計を盡さず僅かに粗造の屋舎劣惡の裝置以  
 て淺近の利益に走しるか如きものは永遠の福利も一朝姑息の爲めに滅却せらるゝや復未だ  
 知る可からず伏て今より新たに家屋を建築せんとする者は本年五月甲部第五號布達の制限に  
 従ふ勿論兼て能く前述の旨趣を辨へ充分に敷地を築き可成床下を高くし且適宜に溝渠を

穿通して悪水を排流する管最も深く衛生上に注意し將來本地の繁榮を計るへし此旨諭告候事

明治十九年甲部第廿  
調布達書類

甲部第五號 明治十七年五月廿七日 越前國坂井郡 舟津村 田中々村 二面村 堀江十樂村 其村々噴泉發願ノ地ハ頗ル卑濕ニシテ衛生上傷害不少ニ付自今家屋ヲ建設セントスル者ハ現在ノ地面ヨリ貳尺以上土石ヲ築立且惡水流通ノ具々様適宜溝渠ヲ穿ツヘシ此旨布達候事

號外 明治十七年七月三十一日

舊醫師

從前本縣ニ於テ下付ノタル醫術免許証札所持ノ者ハ今般更ニ内務省ヨリ免狀授與相成候條本縣鑑札ハ來八月十五日限リ其町村戸長役場ニ可差出此旨相達候事

但十五年本縣甲第九十二號達ニ依リ免許ノ者モ本文ノ通心得ヘシ

諭第六號 明治十八年四月三十日

麻疹漸次流行候ニ付別紙預防法心得ニ據リ預防方行届候様可致注意此旨諭告候事 (別紙)

麻疹預防法心得

麻疹ハ一種ノ傳染性發疹熱ニシテ一回此病ニ罹リタル者ノ外ハ各人皆感受性ヲ具フルモノナリ而シテ其流行ニ其性惡性ノ二種アリ其惡性ニアリテハ之レカ爲メ死ヲ致ス者尠カラズ故ニ須ラ病性ノ其惡ヲ酌量シ之カ預防法ヲ施行スヘシ此病毒ハ患者ノ鼻涕痰液痰腫下血脚血呼吸皮膚ノ蒸發氣及ヒ尿管等ノ諸排泄物ヨリ傳送シ又ハ衣服其他ノ物品ニ染着シテ遠近相傳染スルヲ今其預防法ヲ類別スル左ノ如ク

第一項 清潔法

第一條 患者ノ居室内ハ涕痰痰唾等ニ汚染セル手巾紙片等ヲ取除キ清潔ヲ專ラニシ且換氣法ニ注意スルヲ最も緊要トス

第二項 攝生法

第二條 此病毒ハ衣服飲食等ノ攝生ノヨリ以テ侵襲ヲ預防シ得ヘキニアラスト雖モ一般攝生法ニ注意スルハ勿論患者及ヒ其病毒ノ染着セル物品ニ觸接セキルヲ最も緊要トス 但該病ニ罹リタル疑アレトキ(感冒ノ氣味アル如キト云フ)ハ速ニ醫藥ヲ受ケヘシ 第三條 患者ハ其室ヲ異コシ(人家ニ隔リタル空家等)ニ患者ヲ移スハ頗ル良トス(看護人ノ外ハ要用アリト雖モ成テケ接近スヘカラス且成テケ外人ノ往來ヲ謝斷スヘシ)



第四條 看護人ハ一回該病ニ罹リタル者ヲ撰ムヘシ

第五條 病室内ニハ不用ノ物品ヲ置クヘカラス

第六條 家内ニ麻疹ヲ患フル者アルハ他ノ兒童ヲ學校ニ出スヘカラス

第七條 患者全癒死亡ノ後ト雖モ病室其他衣服物品等充分ノ消毒法ヲ施シタル後ニ非レハ決テ他人ニ接スヘカラス

第四項 消毒法

第八條 此病毒ハ患者ノ鼻涕涙液痰唾下血動血呼吸氣皮膚ノ蒸氣及ヒ尿尿等皆之ヲ傳染物トシ故ニ此等ノ諸排泄物ニ汚染シタル物品ハ必ス消毒法ヲ施行スヘシ今其物ニ從テ區別スルヲ左ノ如ク

第一患者及ヒ看護人等消毒法

第九條 患者治療ノ後テ他人ト交通スルトキハ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ必ス沐浴シ他ノ衣服若シハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ着スヘシ看護人及ヒ死体取扱人等ノ他人ニ接スルトキモ亦タ此法ニ從フヘシ

第十條 醫師ハ勿論親戚朋友等ノ一時見舞タル者ハ假令ヒ患者ニ直接セサルモ其家ヲ出ルトキハ必ス石鹼水ヲ以テ手面部ヲ洗フ等消毒法ニ注意スヘシ

第二死体及ヒ排泄物等消毒法

第十一條 死体ハ充分稀薄石炭酸水ニ浸シタル單衣若シハ綿布等ヲ以テ之ヲ包ミ成ラシメテ箱ニ納ムヘシ

但火葬ニスルヲ最モ良トス

第十二條 鼻涕涙液痰唾下血動血等ヲ拭ヒタル手巾及ヒ紙片綿布ノ類並ニ尿尿等ハ悉皆取集メ時々之ヲ焼却スヘシ

但水分剩多シテ燒盡シ難キトキハ稀薄石炭酸水ヲ注キ人家井泉等遠隔ノ地ニ搬送埋却スヘシ

第三衣服臥具等消毒法

第十三條 衣服臥具等ノ甚シク汚染シ洗滌ニ堪エサルモノハ之ヲ燒却シ其儘ニ破ラシメテ及ヒ洗滌ニ堪エルモノハ稀薄石炭酸水ヲ注キ浸シ置クヲ廿四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ之ヲ洗滌シ或ハ亞硫酸死私ヲ以テ煮沸セシ後テ日光若シハ大氣ニ曝スヘシ

第四家庭船舶等消毒法

第十四條 患者及ヒ死体ヲ置ク室ノ畳蓆ノ類ハ之ヲ柱ニ倚セ掛ケ戸欄等ヲ開放シ窓戸ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸死私ヲ煮シ然レ後ニ窓戸ヲ開キ畳蓆障子等ニハ更ニ稀薄

石炭酸水ヲ散布シ或ハ之ヲ以テ拭淨シ其他欄架及ヒ板敷等ハ稀薄石炭酸水ヲ以テ洗淨  
シ充分大氣若シハ日光ニ曝スヘシ

但亞硫酸ノ爲メ其色質ヲ變スルノ恐レアルモノハ石炭酸蒸氣ヲ用ニヘシ  
第五什具運搬器等消毒法

第十五條 病室ニ用ヒレル什具飲食器及ヒ玩具等ハ稀薄石炭酸水或ハ亞硫酸溶液ヲ覆キ然  
ル後石鹼水又ハ沸湯ニテ洗淨スヘシ其洗フヘカヲサレモノハ病室消毒法ヲ行フノ際其内  
ニ排列シ亞硫酸瓦斯或ハ石炭酸蒸氣ニテ蒸蒸スヘシ

第十六條 患者及ヒ死体ヲ運搬セシ器具等ハ稀薄石炭酸水ヲ澆注シ更ニ石鹼水若シハ沸湯  
ヲ以テ洗淨スヘシ其浮舟ノ如キハ海水ヲ以テ洗フモ可ナリ

○論第七號 明治十八年五月二日

麻疹預防法心得之儀ハ既ニ論第六號ヲ以テ相示シ置候得共抑モ麻疹病ハ人身體ノ血液ヲ侵  
シ劇熱ヲ發シ榮養機ト消化機トヲ衰弱セシムルヲ他ノ傳染病ニ異ナレモノナレハ綜合  
輕症ノ患者ト雖モ治癒後ノ發生ヲ怠ルハ爲ニ種々ノ餘病ヲ誘發シ甚キハ生體病身トナ  
リ或ハ死ニ至ルヲアルモノニテ現ニ西國計家ハ積年ノ實驗ニ據リテ麻疹病經過中直ニ

死ヲ致スモノハ左迄多カラサレモ其流行ノ後兩三年間ハ小兒ノ死亡數著クシ他時ヨリモ増  
加シ且ツ後日ニ起ル肺勞患者ノ原因ハ多ク前日ノ麻疹ニ在リテト履セリ是レ蓋シ麻疹後  
ハ種々ノ疾病ニ罹リ易キ體質トナリ且肺病ノ甚ク重症ナラザレモ輕キニ看過シ治後ノ傷  
生ヲ忽コスルニ因テ起ルトコロノ惡果アルニ外ナラズ然ラハ則チ麻疹ノ恐レハキハ重病中  
ニアラズメテ治療後ニ在リト謂フモ可ナリ幸ニ本年流行ノ麻疹ハ其性概テ善良ナリト雖モ  
若シ諸現症ノ速ニ消退スルニ安シ病後ノ養護ニ留メザレトキハ却テ不測ノ後害ヲ惹起  
スニ至リ不易次第ニ付尙キ左ニ麻疹後ノ養生法相示シ候條預防法ト共ニ精々注意ヲ加ヘ  
意外ノ不幸ニ陥ラザル様可致此旨諭告候事

麻疹後の養生法

一麻疹患者一定の時日を経過し已に解熱して食氣も振起し皮膚及眼の赤色消退し只咳嗽時  
痰と身体疲勞との外病苦を訴ヘサ落屑を始めての後二週間を恢復期と云ふ是れ他病の類發  
を預防するに必要なる時期なり從前健康強實の者は此二週間内發生を怠らざることは充分  
健康に復するを以て爾後ハ平常の如クにして可なり然れども虛弱なる者或ハ他病と併  
發せし者又は二週を経るも咳嗽尚止マサズ或ハ食氣も常に復せずして尙ハ衰弱の體なる  
者に至りては二週後と雖も恢復期中の養生法と持重し且ツ醫藥と怠る可からず然るに

世人或は瘰癧の消退と熱度の下降とを見て已に安全ありとし爾後の養生に注意せざるは遂に自ら他日の不幸を招くものあり

二 恢復期中は身体頗る疲勞せるを以て充分の安眠を取らしむるを要ありとす故に假令遊戯上精神を慰するが如き事あるも夜來寢に就くこと晚く或は晨旦寢を出づること早きに過ぐ可からず其他勤めて精神を感勵せしめ神思を勞するが如き事とは之を避くべし又時々服衣を交換して乾燥清潔にすべし是れ此時期中は多く空汗あるものなればあり而して晴期溫暖の日には戶外或は庭前に多少の遊歩を爲らしむるを善しとすれども長きに過ぎて疲勞するが如きに至らしむ可らず但し朝夕の如き温度の降り又は曇天雨天若くは風吹く時には決して戶外に出づべからず

三 身体の衰弱を、復するには新鮮の空氣を吸入するより必要あるは故に室内を清潔にし晴明溫暖の日には時々風なき方の戸障子を充分に開放して空氣を交換せしむべし又喉及び呼吸器は未だ本復せざるを以て煙草は塵埃を避く可し

恢復期中は非常に皮膚の癢痒を起す者なれば浴着を終りて後は入浴せしめて可なり(外出して入込洗滌に行くはよろしからず)然れども浴後は直に臥ししめ風寒に曝るゝべきを禁ず(し又海綿或は手巾を湯湯に濡し之を軽く絞めて充分に身体を拭ふも可なり)

四 飲食は恢復期中に在りて最も注意すべき要件とす夫れ瘰癧の経過中には熱の爲りに消化機を妨げらるゝと病苦の爲めとに由り食と消化とを思せしめ今や諸症の解散せしを以て自然の本能に由り病中に消費したる身体の損失を補償するが爲め類りに食食するを常とす然れども病後消化機の衰弱未だ復せず食物を消化するの力に乏しければ其食慾に任せて多食せしむべからず殊に不消化物の如きは胃腸に堪へざるを以て甚だ害あり故に最も消化すること易くして滋養の多き食物を少量づゝ數回に與へ一日三度の常食も五六度に分ちて食せしむべし又熱く或は寒冷に遇ぐる飲料も大害あるものなれば必ず微温の物と與ふべし

最良なる食物は柔軟なる鳥獸の肉、脂肪の多からざる魚肉、鶏卵、肉羹汁、牛乳、米粥、軟く煮熱したる蔬菜、豆類等にして不消化物は總て宜しからず酒は藥用の外可及的を用ゐざる可とす但し牛乳、肉羹汁、鶏卵は滋養多く且つ消化機を勞するところとを以て患者食費あらば病中と雖も始終これを與へて可なり然るに世俗の癩瘡患者を待つに食禁を嚴にするに偏し米粥、鹽梅の外は食はしめずして養生を得たる者と安宿する者少きにあらざる是滋養を不足せしめて衰弱を助長するの害あり戒しむべし

○告第六十四號 明治十八年五月四日

醫術開業試験出願人ノ内病氣或ハ事故等ニテ試験難相受セノハ内務卿宛ノ届書一通ヲ作リ  
戸長役場郡役所ヲ經テ本廳ヘ差出スヘシ此旨告示候事

○告第七十九號 明治十八年五月廿五日

明治十六年十月太政官第三十四號布達醫術開業試験規則第九條ニ據リ醫術開業試験出願者ハ  
該願書ニ其師若シバ他ノ開業醫師二名以上ノ保證アル履歷書ヲ附フヘキ若シ官立府縣立  
及私立醫學校又ハ其師タルモノ、授業年月明瞭ナル履歷書ヲ添ヘ差出スルハ別段履  
歷書ニ保證ナキモ不苦旨其筋ヨリ通知有之候條此旨告示候事

○甲第七十五號 明治十八年七月十日

入齒齒抜口中療治業ノ儀ハ明治十六年十月太政官第三十四號布達醫術開業試験規則ニ依リ試  
験ヲ經ルコアラサレハ新規開業不相成候條此際從來ノ營業者ニ限リ履歷調査ノ上本縣ニ於  
テ免許証札可下渡候ニ付來ル八月十日マテ願書ニ履歷書ヲ添ヘ所轄戸長衛生委員ノ奥印  
ヲ受ケ郡役所ヲ經テ當廳ヘ届出ヘシ此旨布達候事

○諭第十一號 明治十八年七月十四日

過日縣下各地概テ水害ヲ蒙リ淋下ノ土壤ハ勿論衣類器具等ヲ濡潤セシメタルヲ以テ知ラズ  
顯ラス衛生ノ法ニ背キ衛生ヲ誤ルルヨリ爲メ流行病ノ發生スルモ雖計假令幸ニテ流行病  
ノ發生ナキモ衛生上大害アルニ依リ左ノ心得書ニ據リ精々注意シ不測ノ疾病ヲ招カサル様  
可致此旨諭告候事

水害後流行病預防法心得書

- 第一條 先ツ井ヲ浚フヘシ汚敗ノ濁水ヲ汲ミ去リ汚泥ヲ浚ヒ不潔物ヲ除キ然レ後水再ヒ出  
テハ復テ之ヲ汲ミ去リ其水ノ清澄無臭且ツ不快ノ味ナキニ至リテ後之ヲ飲用ニ供スヘシ
- 第二條 洪水ニ遇ヒテ入レシ汚水ニ浸リタル家ハ退水ノ後清水ヲ以テ悉ク牀、柱、壁、天井  
等ヲ洗ヒ殊ニ朝夕起臥スル居室並ニ食物ヲ貯製スル庖厨、物置等ハ丁寧ニ洗滌スヘシ
- 第三條 善ク牀、壁及ヒ牀下ノ土壤ヲ乾カスヘシ又家具、衣類等モ乾燥スルニ至ラザレバ之  
ヲ用フヘカラス乾燥法ハ室内ニ於テ焚火ヲ爲シ時々窓戸ヲ開キテ乾燥ノ際發スル惡氣ヲ  
驅出スヘシ
- 第四條 大氣及ヒ日光ハ室内ニ蓄蓄シタル惡氣ヲ淨除シ且室内ヲ乾燥セシムルモノナレ  
ハ清朗ノ日ハ必ス日々窓戸ヲ開キ充分ニ大氣日光ヲ通セシムヘシ

第五條 板ヲ割テヘン牀下ノ土壤ヲ乾カスニハ極メテ瓦トス又石灰ヲ細末ニナシ牀下ノ地上ヘ凡八疊敷二三升ノ割合ヲ以テ敷布スヘシ又木炭末ヲ撒布スルモ可ナリ  
 以上掲ケル所ノ清潔法及ヒ乾燥法ヲ行ヘズシテ舊屋ニ復住スルトキハ不潔ノ疾病ヲ發スルノ惧アリ然レモ若シ已ムテ得ズシテ速ニ住セント欲スルトキハ次ニ舉ケル數項ノ注意ヲ用フヘシ

- 第一項 身體ヲ温包シ時々洗濯シタル衣服ヲ替換ヘ食物ハ成丈ケ濕物ヲ食スヘシ
- 第二項 時々火ヲ焚キテ室内ノ濕ヲ拂フヘシ但然ルトキハ戸ヲ開キテ空氣ヲ代換セシムルヲ要ス夜間臥ニ就クノ前ニ於テハ殊ニ然リトス
- 第三項 置戸欄簾筒ノ如キ家具ハ總テ壁際ヨリ一尺距離ヲ置クヘシ是レ壁中ノ濕氣蒸散スルヲ妨ケテランカ爲ニ且ツ衣服ノ如キハ濕氣ヲ引キテ變色黴敗スルノ憂アレハナ

○諭第十八號 明治十八年八月十九日

菓子團子煮賣物等直ニ食用ニ供スル品ヲ販賣シ物ヲシテ店頭ニ露列シ販賣スルトハ日常屢俟テ變リ殊ニ暑氣ノ候ハ蟻等ノ蟲類雜集シ汚穢甚シキノミナラス之カ爲メ固々危害ヲ人身

ニ與フルコトアリテ衛生上其害妙カラズ候條該營業者ハ以來右等ノ害ヲ防クカ爲メ適宜ノ蓋或ハ覆ヒ物ヲ設ケ不潔ナラザル様可致此旨諭告候事

○告第百十六號 明治十八年九月十七日

從來内務省ヨリ下附相成候醫術開業免狀左記ノ分今般替換下附可相成候條所持ノ者ハ本月三十日限リ該免狀當廳ヘ差出スヘシ此旨告所候事  
 一 明治十七年一月以前醫術開業試驗ニ及第シ免狀ヲ受ケタル者  
 一 官立學校及外國ニ於テ醫學卒業セシニ據リ明治十七年三月十七日以前ニ免狀ヲ受ケタル者  
 一 奉職履歷ニ據リ免狀ヲ受ケタル者

明治廿二年法  
 律第十號  
 取締規則  
 第三條

○告第百二十四號 明治十八年十月九日

石炭酸其他劇藥ハ明治十三年一月第一號布告藥品取扱規則第四條ニ照シ可取扱ノ處傳染病流行ノ際ハ本年十月本縣諭第二十二號諭告ニ從ヒ消毒藥ニ關製候分ニ限リ十三年五月第二十三號布告ニ基キ出願ニ據リ藥舖藥種商ニ於テ販賣免許ヲシ候條此旨告所候事  
 (參照明治十八年諭第二十二條諭告ハ同廿三年訓令第三十號ニシテ消滅シ沿革比照上必

要ナキヲ以テ本冊ニ掲出セス

○甲第百十號 明治十八年十月廿三日

入齒齒抜口中療治接骨營業取締規則左之通相定候條此旨布達候事

入齒齒抜口中療治接骨營業取締規則

第一條 入齒齒抜口中療治接骨ハ從來ノ營業者ニシテ當廳ヨリ下付ケタル免許證札ヲ所持スルモノニ非キレハ營業ヲ許サス

第二條 前條營業者ハ施術上如何ナル場合ト雖モ内服藥ヲ與ヘ又ハ外用藥ト雖モ明治十三年一月第一號布告藥品取扱規則第二類第三類ニ掲ケタル毒劇藥ヲ使用スルヲ許サス

第三條 他府縣免許ノ營業者本縣ニ轉籍又ハ寄留シテ營業セント欲スルハ原居書ニ該府縣ノ添翰若クハ免許證寫ヲ添ヘ所轄戶長ノ奥印ヲ受テ郡役所ヲ經テ當廳ヘ提出免許證札ヲ受クヘ

第四條 本縣免許ノ者管外ヘ轉籍又ハ寄留シテ營業セント欲スルトキハ其管廳ヘ添翰ヲ願受クヘ

第五條 免許證札ハ廢棄死亡若クハ管外ヘ轉居スルハ之ヲ返納シ氏名ヲ改メ又ハ水火空

明治二十二年法律  
第十號  
及二十三年法律  
第三十號  
施行  
規則  
ニ  
依  
ル

難等ニ因リ毀失シタルハ其事由ヲ具シ書換若クハ再渡ヲ願出スヘ

但管外轉居ニ係ルモノハ之カ訂正ヲ請フヘ

第六條 本業ニ關シ不正ノ行爲アルハ其業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘ

○諭第二十五號 明治十八年十一月二十一日

從來町村ノ習慣ニ依リ埋葬地ト墓地トヲ別設シ埋葬地ニハ死屍ヲ埋葬シ墓標ハ別ニ墓地ニ建設スル向モ間々有之越右ハ不都合ニ候條死屍ヲ埋葬セシ場所ヘハ必ス墓標ヲ建設候條可致此旨諭告候事

○甲第百二十九號 明治十八年十二月廿六日

本年十一月第三十四號布告種痘規則ニ依リ種痘細則左ノ通相定候規則施行ノ當日ヨリ實施候條此旨布達候事

但明治十五年三月本縣甲第四十九號布達ハ此細則施行ノ日ヨリ廢止ス

種痘細則

第一條 種痘ニ適スル時期ハ春三月四月五月(秋九月十月十一月)二季ヲ以テ最良トス故

明治十九年甲第四十五号布達ヲ以テ改正同十二年令加木條中創設但書

明治十九年甲第四十五号布達ヲ以テ改正同十二年令加木條及但書改正

明治十九年乙第七号及同甲第四十五号布達ヲ以テ改正同十二年令加木條下ノ條トシ以

ニ成レヘク此間ニ於テ行フヘシ  
第二條 初メテ種痘ヲ行フハ生後七十日ヨリ滿一年迄ノ間ニ於テ若シ不善感ナレトキハ三四週日ヲ隔テ再ヒ種痘ヲ行フヘシ  
第三條 種痘済ノ者ハ初種再三種ノ別ナク醫師ヨリ受領シタル種痘證ヲ局長役場ニ差出シ之ニ檢印ヲ受シヘシ  
但天然痘ニ罹リタル者モ本條ニ準テ檢印ヲ受クヘシ  
第四條 醫師ハ種痘ノ善感不善感ヲ檢診シ第一號式ノ種痘證ヲ與フヘシ  
第五條 醫師ハ天然痘ニ罹リタル者ヲ診察シタルハ第二號式ノ天然痘證ヲ與フヘシ  
第六條 醫師ニ於テ第四條第五條ニ記載セタル證書ヲ與フルニハ帳簿ヲ製シ置キ第一號第二號式ニ示ス如ク割印ヲナスヘシ  
第七條 種痘ノ期日ハ第一條ノ時期ニ於テ種痘受持醫適宜ニ之ヲ定メ豫メ其宅前ニ掲示シ且受持町村ハ廣告ノ手續ヲナスヘシ  
第八條 痘苗ハ春秋兩度都役所ヨリ配賦スヘシ  
但臨時拂下ヲ請ハント欲スル者ハ縣廳ニ申出ヘシ

明治十九年訓第三號訓示並書

明治廿一年縣達第三十四号訓示

明治十九年甲第四十五号布達ニ依リ本條ニ對スル第三號式ヲ更ニ第四號式トシ其書式ヲ改正シ同廿一年訓令第三十六號ヲ以テ改正

明治十九年甲第四十五号布達ヲ以テ本條中改正前條

明治十九年甲第四十五号布達ヲ以テ本條中改正前條

初 善 感 (天然痘)  
三 不善感

第九條 局長ハ時々戸籍帳ヲ點檢シ該町村内本籍寄留ノ別ナク未痘兒ハ勿論既ニ種痘済ノ者ト雖モ規則第一條第二條ノ旨趣ニ違ヒ怠慢ナク種痘スルヤ否ニ注意シ若シ怠慢者アラハ之ヲ督責スヘシ  
第十條 局長ハ種痘證天然痘證ヲ出シ檢印ヲ請フモノアルトキハ第一號第二號式ニ示ス如ク其證ニ檢印シ且戸籍帳各人名ノ上ニ朱書ヲ以テ左ノ通記入スヘシ  
明治何年何月再種  
第十一條 局長ハ種痘受持醫ヲ定メ置キ其町村ノ種痘ニ從事セシムヘシ  
但受持醫ノ住所氏名ハ縣廳ニ届出且町村内ニ廣告スヘシ  
第十二條 局長ハ町村内赤貧者無料種痘ノ方法ヲ設クヘシ  
但其方法ハ縣廳ニ届出ヘシ  
第十三條 局長ハ毎年兩度第三號式ノ種痘明細表ヲ製シ前半年分ハ七月二十日後半年分ハ翌年一月二十日限都役所ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ  
第十四條 臨時官吏ヲ派出シ種痘ノ實況ヲ監視シ戸籍帳ヲ點檢セシムルコトアルヘシ

第一號 用紙仙逸紙四ツ切  
種痘證書式

戸長檢印

帳簿ト割印

右初(再)(三)種痘済善或  
不善或

年月日

住所

醫師氏 名印

住所族籍 寄留ナレハ本籍  
ヲ併記スヘシ

何某(男)(女)

名 年 齡

第二號 用紙全上  
天然痘證書式

戸長檢印

帳簿ト割印

右天然痘済

年月日

住所

醫師氏 名印

住所族籍 寄留ナレハ本籍  
ヲ併記スヘシ

何某(男)(女)

名 年 齡



明治十九年甲第四十  
五式ニシテ其式  
更ニ付本式消減

第三號 種痘明細表式 用紙中折 明治何年

區別	初							合計
	一年未滿	二年未滿	三年未滿	四年未滿	五年未滿	六年未滿	七年未滿	
町	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘
	未種	未種	未種	未種	未種	未種	未種	未種
村	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘
	未種	未種	未種	未種	未種	未種	未種	未種
合計								
種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘
未種	未種	未種	未種	未種	未種	未種	未種	未種
合計								

第三號表式解釋

一 初種再三種ハ半年間ニ種痘セシ人員ヲ掲ケ未種痘人員ハ前半年表ナレハ六月末日後半年表ナレハ十二月末日ノ現員ヲ掲ケルモノトス

一 天然痘ニ感染セタルモノアルトキハ欄外ニ記載スヘシ

人員				合計
三年未滿	四年未滿	十六年未滿	小計	

○ 諭第二十九號 明治十八年十二月廿六日

種痘術ヲ施ス者ハ別冊種痘術心得書ノ旨趣ヲ遵守シ接種方等厚ク注意スヘシ此旨諭告候事

(別冊)

種痘術心得書

種痘術ヲ施スモノハ種痘ノ適否接種ノ方法痘苗採取及貯蓄ノ法善成不善成ノ區別種痘ノ注意等ヲ詳知セナル可カラズ其要左ノ如シ

第一 種痘ノ適否

- 第一條 種痘ハ左ニ掲クル者ニハ施サ、ルヲ可トス
  - 一 生後七十日ヲ經キタル者
  - 二 種痘ノ爲ニ一時増進スヘキ病患アル者
  - 三 丹毒流行ノ土地ニ居住スル者
  - 四 蔓延性ノ皮膚病アル者
  - 五 熱性病ニ罹リ居ル者
- 第二條 種痘ニ適スル時期ハ春(三月四月五月)秋(九月十月十一月)二季ヲ以テ最良トス然レモ四季共ニ之ヲ施シテ妨ナシ

第二 接種ノ方法

- 第三條 種痘ヲ施スハ上膊ニ於テ各々三針乃至五針受痘者ノ年齢體質等ニ隨フトシ各針ノ距離曲尺五分以上ニシテ痘疱ノ覺輪互ニ密接セサル様注意スヘシ
- 第四條 施術ニ先テ針尖ヲ拭淨シ一時ニ數人ニ接種スルトキハ一人毎ニ之ヲ拭淨スヘシ
- 第五條 眞性ナル痘漿ヲ採リテ移植スルヲ確實ノ其法トスレモ此法ヲ行フニ能ハサルトキハ貯蓄ノ痘苗ニシテ成ルヘク新鮮ナル者ヲ採ヒ用フヘシ但爾皮ハ用ヒサルトキ可トス

第三 痘苗採取及貯蓄ノ法

- 第六條 痘苗ハ左ニ掲クル者ヨリ採取スヘカラス
  - 一 痘疱ノ成形過度及過大ノ者 發覺非常ニ大ナル者 痘縁又ハ覺部ニ水泡ヲ生スル者 痘疱非常ニ隆起シテ澄明ノ漿液ヲ漏出スル者 一種ノ疑フヘキ色例ハハ紅藍色ヲ呈セルカ如キ者
  - 但此等ノ異常痘疱ノ近傍ニ在ル正痘モ亦同シ
  - 二 痘漿ノ血液ヲ混セル者 疱ノ中央ニ在ル痘漿ノ腐敗ニ向ハントスル者 痘疱ノ己ニ化膿ニ傾キシ者 肥瘠又ハ摩擦ノ爲ニ痘疱破潰セシ者
  - 三 梅毒腺病及ヒ皮膚病ニ罹リ居ル者 營養不良ノ者
  - 四 丹毒ヲ併發セル者 經過不整ニシテ不善感ノ疑アル者 第十四條ヲ參照スヘシ
  - 五 天然痘ヲ經タル者 再三種ノ者
- 第七條 痘漿ヲ採ルハ通常接種後第八日二十四時間ヲ以テ一日ト算ス下皆同シ一ヲ以テ佳トスト雖時侯ノ寒暖及各人ノ性質ニ隨ヒ第七日又ハ第九日ヲ以テ適度トスルヲ以テ痘疱ハ善感眞性ノ者ニシテ其合包セル所ノ漿液ハ渾濁セシ粘稠露滴ノ如クナルヘシ
- 第八條 痘漿ヲ採ルニハ痘疱ノ中心ヲ避テ痘面ヨリ斜ニ淺刺シ深シ刺シテ出血セシムヘカ

ヲス

第九條 痘痘一類ナル者ノ痘痘ハ其漿液ヲ探ル可カラヌ又數顆アルモ其一顆ハ傷クヘカラ

第十條 痘苗ヲ貯蓄シテ接種ノ用ニ供セントスルニハ硝子板間ニ貯ヘテ密封セ又ハ硝子製  
毛細管ニ吸入セシメテ其兩端ヲ固封シ日光及寒熱ノ劇度ヲ避ケ貯フヘシ(痘苗ノ貯蓄法  
甚宜シキヲ得ルモハ五箇月間充分ノ効力アリ)

第四 善感不善感ノ鑑別

第十一條 種痘ノ善感不善感ヲ鑑別スルニハ左ノ各項ヲ以テ要點ト爲ス

- 一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メザルヤ否
  - 二 痘痘常形ニシテ其大キ及硬キハ皮下皮上共ニ同一ナルヤ否
  - 三 紅暈ハ常形ナルヤ否
  - 四 經過整然トシテ其時期ヲ誤ラザルヤ否
  - 五 第八日ニ至リテ微熱ヲ發スルヤ或ハ然ラザルモ其他ノ徵候ヲ呈スルヤ否
  - 六 痂皮ハ黯褐色又ハ黑色ニシテ其厚キ及硬キハ常度ナルヤ否
- 第十二條 種痘善感ノ徵候ハ左ノ經過ニ就キテ知ルヘシ接種後第一日第二日ノ間ハ他ノ刺

傷ニ異ナルヲナシテ術後針痕ノ周圍ニ淡紅色ノ小暈ヲ發スレハ暫時ニ消失ス(或ハ此  
暈ヲ見ザルコトアリ)

第三日ニハ針痕ノ部ニ小ナル紅點ヲ生シ試ニ指頭ヲ以テ之ニ觸レシハ稍々隆起セルヲ覺  
ユ(經過緩慢ナル者ハ第四日第五日ニ至リ始メテ此紅點ヲ生スルコト有リ)

第四日ニハ紅色ニシテ硬ク且ツ隆起セル圓形若シハ橢圓形ノ小結節ヲ生ス

第五日ニハ結節細小ノ水泡トナリ其周圍ニ狭キ紅暈ヲ見ル

第六日ニハ水泡稍々増大シ其邊緣隆起シテ痘ノ中央ニハ陷凹ヲ呈シ痘中ニハ稀薄透明  
ノ稍々帶藍色ナル液ヲ充實シ周圍ノ紅暈稍々増大ス

第七日ニハ諸症益々増進ス

第八日ニハ痘痘全ク成形ス其大キハ豆大ニシテ周圍ニ微腫ヲ微シク疼痛アリ痘中ノ液ハ  
倍々充實シ紅暈モ亦著シク増大ス此期ニ當リ(或ハ此期以前)微熱ヲ發シ或ハ全ク熱候ナ  
シ顔面ハ蒼白色ヲ呈スルコトアリ又腋下ニ疼痛ヲ覺シ水脈脈腫起スルコト有リ

第九日ニハ紅暈更ニ増大シ其色澤モ亦加ル

第十日ニハ痘液化膿シテ白濁或ハ黃色ノ濃稠液トナリ痘ノ中央稍々凸隆ス然レモ其形必  
ス扁圓ナリ

第十二日ニ至ル迄ハ痘疱其形状ヲ變スルヲ無ク此日ヨリ收斂ヲ始メ疱ノ中央ヨリ邊縁ニ向ヒテ次第ニ乾固シ漸ク褐色ニ變リ周圍ノ紅暈ハ亦漸ク消退ス  
爾後暗褐色又ハ黒色ニシテ堅實ナル厚痂ヲ結ビ初ハ皮膚ニ緊著シテ容易ニ剝離セス結痂後八日乃至十日ニ至リ始テ剝脫ス其剝脫ノ後ニ遺セル痕痕ハ圓形又ハ橢圓形ニシテ淺キ凹窩ヲ爲シ其窩内ニハ更ニ數多ノ小凹點ヲ呈ス

但一回種痘セシ者ニ再三種シテ感染スルコトアルモ其痘顆小ニシテ七八日間ニ全ク經過スルヲ常トス

第十三條 種痘不善感ノ諸徴ハ左ノ如ク

- 一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メ常形ニ違ヘズ直ニ廣ク蔓延セル炎症ヲ發シ皮下ニ硬キヲ覺ヘスシ紅暈ハ不整形ナリ痘疱ハ速ニ化膿シ其隆起ノ狀或ハ半球形或ハ圓錐形ト爲リ乾固スレハ黃色ニシテ鬆疎ナル痂皮ヲ結フ(時トシテ第二日後ニ成形ヲ始ムル者アレハ其經過總テ不整ナルヲ以テ自ラ善感ノ者ト區別スルヲ得ヘシ又不善感ノ者ト雖モ腋下ニ疼痛ヲ覺シ微熱ヲ發スルコト無キニ非ス)
- 二 接種後第一日ニ大ナル赤色ノ疱ヲ生シ速ニ漿液ヲ充實シ上皮破レテ膿面ヲ呈シ或ハ濕潤セル淡色ノ痂皮ト爲ルヲ見ル

三 紅暈速ニ増大シテ隆起シ或ハ遂ニ潰瘍ニ陷ル

四 第八日ニ至リ數疱相合シテ一大潰瘍ト爲リ或ハ一面ノ痂皮ヲ結ビ其潰瘍又ハ痂皮ノ周圍ニハ廣ク赤色ヲ呈ス

五 痂皮剝脫ノ後ニ遺セル痕痕ハ深クシテ不整形ヲ呈シ其底面平滑ナリ

第五 種痘ノ注意

第十四條 初種ノ不善感ハ痘苗ノ不真ナルカ或ハ其人一時ノ不感性ヲ有セルニ因ル者ナルカ故更ニ三四週ノ後善感ナル痘苗ヲ接種ヒテ再ヒ接種スヘシ

第十五條 種痘ヲ施スニ當リテハ併發症ヲ防キ殊ニ天然痘流行ノ際ニハ接種後第八日乃至ルマテ嚴ニ其感染ヲ防禦スヘシ然レモ受痘者己ニ暗ニ天然痘ニ感染シ其潜伏期ニ於テ接種スルコト間々之アリ

第十六條 天然痘流行シ種痘ヲ猶豫ス可カラザル際ニハ第一條各項ニ掲グル者ト雖熱性病ヲ除クノ外ハ總テ接種スヘシ

第十七條 種痘中ハ寒冷ヲ避ケレメ成ルヘク清潔ノ空氣中ニ居ラシムヘシ平常慣習セル食物等ハ總テ禁忌スルニ及ハス又別ニ醫藥ヲ要セス

明治二十二年  
明令第二號  
以テ改正

甲部第五號 明治十九年一月二十五日 娑伎並貸坐敷所在地  
明治十六年六月甲部第六號布達娑伎敷檢査規則第十四條左ノ通改正候條此旨布達候事  
第十四條 此規則第一條第二條第五條第八條第九條第十條第十一條ニ違背シタル者ハ一月以下ノ苦使又ハ拾五圓以下ノ過料ニ處ス

○乙部七號 明治十九年二月九日

郡 役 所

客年十二月本縣甲部百二十九號布達第八條ニ記載セル痘苗ノ儀ハ縣廳ヨリ郡役所ヘ可相渡ニ付各種痘受持醫ヘ配賦ノ手續ハ左ノ條件ヲ標準トシ相定ムヘシ此旨相達候事

第一條 豫メ部内種痘受持醫ヲ數部ニ分チ各部ニ總代ヲ設ケシメ痘苗到達シタルトキハ直ニ各總代ヘ配賦スヘシ

第二條 各部内種痘受持醫ノ協議ヲ以總代ニ受ケタル痘苗ヲ本トシ適宜分苗及真苗保續ノ方法ヲ定メムヘシ

○訓第三號 明治十九年二月九日

郡 長 戶 長

種痘受持醫撰定ノ儀ハ種痘規則第十一條ニ相示置候處種痘料高貴ニテハ自然種痘普及上ニ

差響妨碍トモ相成儀ニ候條戶長ニ於テ種痘受持醫ト相謀リ初種金拾錢以內再三種以上金六錢以內ニテ成ルヘシ低廉ニ取極候様可致此旨訓示候事

○告第五十四號 明治十九年四月二十九日

明治十一年八月第二十一號布告藥用阿片賣買並製造規則第四條第十二條ニ掲ケル釐渡方之儀今般内務大臣ヨリ委任相成候ニ付自今當廳ヨリ下渡スヘシ右告所ス

○甲部第二十號 明治十九年五月十四日 越前國坂井郡

舟津村 田中々村  
二面村 廻江十樂村

明治十七年五月甲部第五號ヲ以家屋建設ノ際地面築立等ノ儀及布達候處自今地落成シタルトキハ家屋建設ニ先タテ所轄警察署ヘ届出檢査ヲ受シヘシ  
右布達ス

○甲部第二十一號

明治十九年五月二十九日

越前國坂井郡

舟津村  
二面村

田中々村  
廻江十樂村

其村内ニ於テ當分ノ内新ニ鑛泉ヲ穿ツコトヲ禁ス  
右布達ス

明治二十一年  
令第九十二号  
ナ以本條中  
削除但書追加

明治二十一年  
令第九十二号  
ヲ以テ改正

○甲第四十五號 明治十九年五月三十一日  
明治十八年十二月十九號布達種痘細則中左ノ通改正ス

第二條ヲ左ノ通改ム

第二條 初メ種痘ヲ行フハ生后七十日ヨリ滿一年迄ノ間ニ於テスヘシ若シ不善感ナルトハ三四週日ヲ隔テ再ヒ種痘ヲ行ヒ善感ナレハ此時ヲ以テ初種痘トス再ニ尙不善感ニシテ三種ヲ行ヒタルトキハ善感ナルト否トニ拘ラヌ初種痘濟トス

第四條ヘ左ノ但書ヲ追加ス

但第二條ニ掲ケル初再三種不善感ニシテ證書ヲ與ヘサル者ハ其氏名ヲ本人所轄戸長役場ニ報告スヘシ

第八條但書ヲ削除ス

第八條ノ次ヘ左ノ一條ヲ追加シ第九條ヲ十條トシ以下順次繰下シ

第九條 戸長ハ第三號式ノ種痘人名簿ヲ製シ年齢十六歳未滿ノ者ヲ遺漏ナク記載シ出生死亡及送入籍等ノ異動アル毎ニ加除スヘシ  
但全戸ヲ送籍スルキハ種痘人名簿ヲ送籍ニ添ヘ又ハ一月内ノ一人若シハ數人他ヘ轉ス

ルキハ其寫ヲ送籍ニ添フヘシ  
第十條 時々ノ下戸籍帳トアル種痘人名簿ト第十一條且ノ下戸籍帳各人名ノ上ヘ朱書き以テ左ノ通記入スヘシトアル種痘人名簿ヘ式ノ如ク記入スヘシト改メ及朱書きヲ削除ス  
第十四條第四號式ヲ別紙ノ通改ム  
第四號式ノ次ヘ解釋ヲ別紙ノ通追加ス  
右布達ス  
第三號

種痘人名簿式

既痘		未痘		種別		姓名
事	由	種	再種	初種	種	
明治十九年 何々	明治十九年 何々	明治十九年 何々	明治十九年 何々	明治十九年 何々	明治十九年 何々	長男 何某
<p>何町何番地 族籍 戸主(後見人) 某</p>						

姓名	長女 何某 年月日生	初種	再種	三種	事由	既痘		
						未種	痘種	別種
次男 何某 年月日生								
雇人 何某 年月日生								
何々 何某 年月日生								

明治二十一年  
三月三十一日  
午前十時  
午後四時

第四號 痘症明細表式

區別	初種		再種		三種		合計
	善感	不善感	善感	不善感	善感	不善感	
何郡何町外何ヶ村							
以滿一年以上二年以下							
以滿二年以上五年以下							
以滿五年以上十年以下							
以滿十年以上十五年以下							
十五年以上							
合計							

解釋 痘症人名簿

一初再三種欄内ノ記入ハ終テ種痘規則第一條第二條ノ時期ニ種痘ヲ行ヒタルトキニ隔ルモ  
ノトス

一種痘規則第三條ニ據リ種痘ヲ行ヒタル者ハ事由欄内ニ其月日或否等ヲ記入スヘキモノト  
ス

種痘明細表

一種痘明細表ハ本籍寄留ノ別ナシ其町村内ニ住シテ種痘セタル者ノ同數ヲ掲載スヘシ

一種痘規則第三條ニ據リ種痘セタル者ハ表中ニ算入セズ相外ニ其人員及感否ノ別ヲ左ノ通  
記載スヘシ

但規則第一條第二條ノ時期ニ當リタル者ハ此限リニアラス

一種痘規則第三條ニ據リ種痘セシ者

男何人	善感何人
	不善感何人
女何人	善感何人
	不善感何人

○論第八號

明治十九年七月二十三日

福井市街

芝原用水ニ關スル各町

水ハ人ノ性命ヲ保護スルニ至要ノ物ニシテ一日モ缺ク可ラザルモノナレハ力ヲ清淨無害

ナルモノヲ撰ミ飲料ニ充テザル可ラザルハ勿論ノ事ナリ然レニ福井市街中松北ノ各町ハ概  
 子芝原用水ヲ以テ飲料ニ充ツルト雖モ抑モ同用水ハ其源ヲ九頭龍川ニ取リ福井市街ニ達ス  
 ル迄ニハ殆ント二里余ヲ經過シ其間専ラ田地ノ灌溉ニ用フルカ故ニ自然ニ漂物ノ混入スル  
 一アリ又降雨ノ際ハ道路ノ汚水流入シ到底飲料水トシテ用フルニ堪ヘザルモノナリ頻年虎  
 列刺病各地方ニ流行スルニモ拘ラス此不潔水ヲ用フル市街ニ於テ間々特種患者アルニモ  
 シテ甚クク傳播スルニ至ラザルモノハ實ニ僥倖ト云フヘキナリ若シ夫レ一朝病毒ノ其威ヲ  
 逞フスルニ遇ハ、其慘毒如何シヤ須ラ去十二年ノ慘狀ニ鑑ミテ知ルヘシ同年全市街ノ患  
 者ハ總計七百四十八名其内八十一名ハ橋南ニ屬シ其他六百六十七名ハ皆橋北ニ發シモ  
 ノン之チ人口ニ比例スレハ人口千ニ付橋南ハ患者八名五歩八厘橋北ハ二十一名五歩五厘ニ當ル  
 ニ基カサルハナシ本年京坂地方虎列刺病流行ノ景況ヲ見ルニ大阪府下ハ日ニ百余名ノ患者  
 ナシ發生スルモ京都府ハ僅々ノ數ニシテ是レ又飲料水ノ其否ニ關セザルモノナキヲ知シヤ縱令  
 ハ惡疫ノ流行ナキモ不潔ノ飲水ヲ用ルモノ人身ニ有害ナルハ世人ノ夙トシテ熟知スルトコ  
 ロナリ況シヤ近年惡疫流行ノ頻々タル豈速カニ之レカ改良ニ着手セザル可クシヤ芝原用水  
 ハ前述ノ如ク到底飲料ニ供ス可カラザルモノトスレハ清淨ノ水ヲ得ルハ只井ヲ穿ツコト  
 ノミ相貫井ハ地底ノ水ヲ取ルモノナレハ病毒浸入ノ憂少ク飲料水中最モ安全ナルモノナリ



依テ各町協議ヲ遂ケ適宜ノ場所ヘ掘貫井ヲ穿テ各戸ノ需用ヲ充テ不幸コレヲ惡疫ノ侵入ニ會フモ憂慮ヲ懷シコナシ各其堵ニ安シクテ生業ヲ營ムヲ得ル様其計畫ヲ爲スコト目下ノ急務ナリ  
右諭告ス

○訓令第十五號 明治二十年三月十七日 郡長 戸長  
天然痘檢疫ニ從事セシムヘキ者ハ必ズ天然痘濟又ハ規則ノ體證ヲ行ヒタル者ノミニ限リ候儀ト心得ヘシ

○縣令第五十八號 明治二十年四月六日  
醫師組合規則左ノ通相定ム

醫師組合規則

第一條 本則ハ醫師相互ニ規約ヲ定メ其業務ニ關スル法律規則ヲ遵守シ併セテ左ノ目的ヲ達セシメシカ爲メ設ケルモノトス  
一 醫風ヲ改良シ及ヒ醫術ヲ講究スルコト

一 地方病ノ原因ヲ探究シ及傳染病豫防ノ方法ヲ講究スルコト  
一 衛生上ニ關スル利害得失ヲ講究スルコト

第二條 組合區畫ハ郡長ニ於テ一郡内一郡若クハ數郡ニ分テ之ヲ定メ縣廳ヘ届出ヘシ

第三條 毎組合ニ於テハ少クモ一ヶ年四回會議ヲ開キ臨時議件アルトキハ臨時會ヲ開キ得

第四條 管内ノ醫師ハ都テ其地ノ組合ニ入ルヘキモノトス

明治二十年  
令第六十六號  
改正

第五條 組合規約ハ會議ニ關スル規程及違約者處分ノ方法等其組合ニ於テ必要トナスヘキ事項ヲ記載シ郡役所ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受テヘシ

但縣立醫學校及全病院ニ在職ノモノハ此規約ニ關ラサルコトアルヘシ

第六條 組合毎ニ組長及ヒ幹事ヲ公選シ組合一切ノ事務ヲ整理セシムヘシ

第七條 組長幹事ノ人名及會議ノ場所開會ノ期日ハ豫メ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ヘシ

第八條 組合ノ名稱ハ何郡何部組合ト稱スヘシ

第九條 會議ニ於テ議決セシ條件ハ其要領ヲ記シ郡役所ヲ經テ縣廳ニ開申スヘシ

第十條 衛生上ノ利害ニ關シ意見アルトキハ會議ノ決テ經テ縣知事又ハ郡長ヘ建議スルコトヲ得



明治廿五年縣令第百廿  
號及明治廿六年縣令第  
百廿五號並明治廿七年  
縣令第百廿五號並明治  
廿八年縣令第百廿五號  
並明治廿九年縣令第百  
廿五號

明治廿年縣令第百廿  
號及明治廿一年縣令第  
百廿二號並明治廿二年  
縣令第百廿三號並明治  
廿三年縣令第百廿四號  
並明治廿四年縣令第百  
廿五號

火葬ノ儀ハ明治十八年六月本縣甲第六十五號布達墓地埋葬取締規則第十條ニ依リ可成日没後  
執行スヘキ管ノ處往々白晝火葬スルモノ有之趣相聞ヘ右ハ人身健康上有害トモ相成候條無  
餘儀場合ヲ除クノ外勉メテ日没後ニ火葬ヲ致スヘシ

○縣令第八十三號 明治二十年七月七日

塵芥掃除規則左ノ通相定メ來ル八月一日ヨリ福井大野勝山坂井丸岡武生越前江敦賀小濱並ニ  
右市街ニ連接接續ノ地ニ施行ス其他人家稠密ノ場所ニ於テハ此規則ニ準テ漸次掃除法ヲ設  
クヘシ

塵芥掃除規則

- 第一條 毎月ノ塵芥ハ各戸若シハ近隣兩三戸申合ヘテ取集メニ便ナル場所ヘ芥溜ヲ設置シ  
之ニ投棄スヘシ但芥溜ハ汚汁ノ漏洩セラル箱又ハ桶並ノ類ヲ用ヒ且成ルヘク蓋ヲ備フル  
ヲ要ス
- 第二條 掃除ノ負擔各戸ニ屬セラル街路橋梁共同物揚場等ノ塵芥モ亦前條ニ依ヒ其負擔者  
ニ於テ芥溜ヲ設ケ置キ之ニ投棄スヘシ
- 第三條 全市街又ハ數町村便宜區域ヲ定メ渾テノ塵芥ヲ合棄スル爲メ市外衛生上無害ノ地

ヲ撰ヒ所轄警察署ハ其分署ノ認可ヲ得テ共同芥溜ヲ設置スヘシ

第四條 前條ノ市街又ハ町村ニ於テハ芥溜掃除負擔人ヲ定メ置キ少クモ二三日毎ニ第一條

第二條ノ塵芥ヲ取集メ共同芥溜ヘ輸送セシムヘシ

第五條 共同芥溜ヘ輸送シタル塵芥ハ毎月三回以上之ヲ除却スヘシ

但成ルヘク肥料等ニ供用スルノ方法ヲ設ケルヲ要ス

第六條 芥溜ノ外ヘ塵芥ヲ投棄スルヲ許サズ

第七條 第二條第三條第四條第五條ニ關スル費用ハ町村費ヨリ支辨スヘシ

○訓令第四十二號 明治二十年八月二十七日 郡長 戶長

縣令第八十三號塵芥掃除規則ノ儀本月一日ヨリ施行ノ處其方法宜ク得サル向モ有之就テハ  
右規則施行ノ儀左ノ通相心得其方法ハ詳細書簡ヘ届出ヘシ

- 一本則第七條ノ經費市街ハ全市ノ聯合費市街ニ連接シタル場所ハ地係村ノ村費ヲ以テ負  
擔スルヲ要ス但市街ニ連接シタル村落ニシテ既ニ市街ト共ニ聯合町村會ノ開設シタル  
地方ハ其聯合町村費ヲ以テ負擔スルモ妨ナシ
- 一塵芥ヲ直ニ燒却場ヘ運搬シ又ハ人家遠隔ノ地ニ運搬シテ肥料等ニナスノ方法ヲ設ケル

ルモノハ別ニ共同テ設置スルコト及ヘス

○縣令第二百二十二號 明治二十年十月四日

本年七月 縣令第八十三號塵芥掃除規則施行箇所ノ内ニ温泉地ヲ加ヘ來ル十一月一日ヨリ施行ス

○縣令第三百三十五號

明治二十年十二月一日

糞技并糞座敷所在地

明治十六年六月 甲部第六號布達糞技敷毒検査規則中左ノ通改正追加ス

第二條 左ノ通改ム

第二條 新ニ糞技ノ許可ヲ受ケタル者ハ直ニ検査ヲ受ケヘシ廢業セントスル者亦同

第十一條 次ヘ左ノ一條ヲ追加シ第十二條ヲ第十三條トナシ以下順次繰下シ

第十二條 免許地ニハ検査所ヲ設ケヘシ尤モ其費用ハ醫務器械藥品ヲ除クノ外營業者ノ負擔トス

但免許地外ト雖モ其接近ノ地ニ限リ時宜ニ依リ許可スルコトアルヘシ

第十三條 左ノ通改ム

第十三條 検査中ハ醫員及手傳婦人ノ外其室内ニ入ルコトヲ許サス

明治二十年  
第五十六號令

○縣令第五百五十一號 明治二十年十二月二十七日

下水溝周圍設置取締規則 左ノ通相定候條福井大野勝山丸國坂井鯖江武生敦賀小濱高濱并ニ温泉場其他人家稠密ノ場所ニ於テハ此規則ニ依リ漸次改良スヘシ

下水溝周圍設置取締規則

第一條 凡下水溝周圍ハ此規則ニ據リ設置構造及掃除ヲ爲スヘシ

下水溝

第二條 下水溝ヲ分ツテ本幹支管細管トシ其區別左ノ如シ

本幹 支管又ハ細管ヨリ汚水ヲ受ケ之ヲ無害ノ地若クハ河海ニ排泄スルモノ

支管 細管ニ接続シテ本幹ニ通スルモノ及ヒ其直チニ河海ニ通スルモノ

細管 毎戸ヨリ支管ニ通スルモノ及其直チニ本幹又ハ河海ニ通スルモノ

第三條 本幹支管細管ハ石材煉化石又ハ精煉セラレタル陶管ヲ以テ卵圓形ノ暗渠ニ築造スヘシ

第四條 前條ノ構造法ニ據リ難キトキハ左ノ方法ヲ採用シ成ルヘク覆蓋ヲ設ケヘシ

- 一 兩側底面トモ石ニテ敷キ若シハ底面ハ三和土ニテ敷キ固メタルモノ
- 二 兩側底面トモ草蓆、栗、松等ノ厚板ヲ以テ造リタルモノ  
但細管ハ適宜不滲透質ノ材料ヲ以テ構造スルモ妨ケナシ
- 三 兩側ハ厚板ヲテ敷キ底面ハ三和土ニテ敷キ固メタルモノ或ハ全部漆喰敷キ爲メタルモノ
- 四 常ニ流水アリテ汚物ノ停滞セザル向キニ在リテハ兩側ハ前敷項ニ依リ築造シ溝底ハ壘マキルモ妨ケナシ
- 第五條 暗渠露渠ノ別ナク其幅員深淺ハ受クル所ノ水量ニ應ジ且適宜ノ勾配ヲ用スヘシ
- 第六條 土地ノ狀況ニ據リ汚水ノ細管ヨリ支管本幹又ハ河海ニ排除シ難キモノハ郡長若クハ戸長ニ於テ其實況及ヒ排除ノ方法ヲ具シ當廳ノ指揮ヲ請フヘシ
- 第七條 肥料用ノ爲メ汚水溜ヲ設クルヲ要スルモノハ飲料水(井泉等)ヲ隔レ二間以上ノ地ニ於テ第四條若クハ第十一條ニ準據シ汚水ノ地中ニ滲透セザル構造ヲ相當ノ覆蓋ヲ設ケ向ホ支管若クハ河海等ニ通スル細管ヲ敷設スヘシ
- 第八條 本幹支管ハ毎年二回以上細管ハ時々深潔シ其汚物ハ無害ノ地ニ運搬スヘシ
- 第九條 本幹支管ニ係ル築造及深潔費ハ町村費ヨリ支辨シ細管ニ係ル費用ハ各自ノ支辨ス

ルヘシ

第十條 第三條第四條ニ掲グル本幹支管ノ構造方法及施工期限ハ町村會ノ評決ヲ取リ郡長若クハ戸長ニ於テ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

廁 園

第十一條 廁園ノ構造ハ左ノ方法ニ據ルヘシ

- 一 尿尿壺ハ釉藥ヲ施シタル壺又ハ石製ノ壺ヲ地中ニ埋メ其周邊ヲ漆喰敷ニ爲シタルモノ
- 二 質ノ緻密ナル木材ヲ以テ移動スヘキ尿尿桶ヲ作り尿尿ノ漏ラレニ先ヲテ同様ナル他ノ受器ト交代シテ之ヲ送去スルモノ
- 第十二條 廁園ノ踏板下ニハ周圍ニ壁ヲ設クヘシ
- 第十三條 廁園ハ飲料水(井泉等)ヲ隔ツル二間以上タルヘシ
- 第十四條 尿尿ハ渾ヲ漏ツルニ先ヲテ汲取ルヘシ
- 第十五條 尿尿ノ汲取及輸送ハ可成日出前或ハ日没後ニ於テナスヘシ
- 第十六條 廁園築造及掃除ニ係ル費用ハ其持主ノ自辨スルヘシ

○訓令第五十六號 明治二十年十二月二十七日

那長 戸長

縣令第五十一號 下水道周圍設置取捨規則實施ニ關スル件々左ノ通相心得成ヘク速ニ改良方着手致スヘシ

- 一 規則第二條ノ本幹支管ハ地形ノ便宜ニ從ヒ下水ノ疏通ヨ易キ様十分調査測量ヲ爲シ之ノカ線路ヲ撰定スヘシ
- 二 前項ノ調査測量ヲ爲スニ就テハ實地ノ便宜利害ニ精シキモノ及測量技術ニ通スルモノヲ使用スルノ必要アルヘシ是等ノ目的ヲ達スル爲ニ會議ノ評決ヲ取リ便宜委員ヲ設ケ又ハ技術者ヲ雇ヒタル場合ニ於テハ其給料等ハ土木費中ヨリ支辨スヘシ
- 三 施行ノ豫算ヲ立ツルハ先ツ實地調査測量等ニ關スル費用ヲ豫セシメ施設ノ計畫順序ヲ定メ而シテ後本費ノ豫算ヲ議セシムヘシ
- 四 細管ノ成功期限ハ各其本幹支管ノ成功期限ニ伴フヘキモノトス
- 五 規則第六條ハ地形ニ於テ汚水ノ疏通ニ能ハサルモノニ限リ僅ニシテ其申書ニハ實地ノ繪圖面汚水溜ノ構造職員汚水汲取度數等詳細ナル方法書ヲ添フヘシ
- 六 規則第十一條ノ構造方法ニ依リ周圍ハ一般改造スヘキコト勿論ト雖モ就中學校病院寺院旅舍貸座敷劇場人寄席貸家其他人民群集スル所ノ周圍ハ成ルヘク速ニ改造セシムヘシ

七 貧民群居ノ場所其他土地ノ狀況ニ依リ各自ノ改造設置ニ委スルトキハ容易ニ實行セラレ難キ等ノ事狀アル向ハ其町村又ハ最寄ノ組合ニテ協議ノ上之ヲ負擔改造ノ費用ハ尿尿費却代又ハ勞力ヲ以テ償却セシムル等便宜ノ方法ヲ設ケシムルヲ要ス

八 前各項實際施行ノ順序方法ニ關シテハ當廳主務部課ヲシテ商議ニ與ラシムヘキコト付下開其他トモ豫メ打合ハセ計畫スヘシ

○告示第四百十號 明治二十年十二月廿八日

縣立福井病院診療規定左ノ通之ヲ定ム

縣立福井病院診療規定

第一章 患者診療手續

- 第一條 凡外來ノ患者診療ヲ請フトキハ先ツ受付掛ヘ住所氏名職業年齡等ヲ申述ヘ番號札ヲ受ケ患者溜所ニ於テ診察順ノ至ルヲ待ツヘシ
- 第二條 患者診察ヲ受ケルノ後處方箋ヲ藥價收納所ヘ持參シ藥價ヲ支拂ヒ藥ヲ受ケヘシ但藥取ハ受付掛ニ至リ番號札ヲ受ケ直ニ診察所ニ至リ患者ノ容体ヲ述ヘ處方箋ヲ受ケ

第三條 受付時限ハ午前八時ヨリ午後第二時迄暑中ハ午前第七時ヨリ正午十二時迄トス

但急病及遠來患者ハ此限ニアラス

第四條 年中休暇ヲ定ムルコト左ノ如ク

日曜日

年 始 一月一日ヨリ同三日マテ

孝明天皇祭 一月三十日

紀元節 二月十一日

春季皇靈祭

神武天皇祭 四月三日

秋季皇靈祭

神嘗祭 十月十七日

天長節 十一月三日

新嘗祭 十一月二十三日

歳末 十二月二十九日ヨリ同三十一日マテ

右ニ定ムル休暇日ヨリトモ職員ハ必ス當直スルヲ以テ診察ヲ受ケルニ於テ差支ア

ルコトナク

第五條 大患或ハ急病ニシテ病院ニ來リテ診察ヲ受ケルコト能ハサル者ハ其旨受付掛へ申

出レハ往診ヲナスヘク

第六條 往診ヲ請フ者ハ左ノ往診料ヲ納ムヘク

一 往診旅費ハ片道一里ニ付正副院長ハ金三拾錢正補當直醫ハ金貳拾錢トス

一 宿泊ヲ要スルトキハ正副院長ハ金五拾錢正補當直醫ハ金三拾錢ヲ納ムヘク

但患者ノ自宅ニ宿泊スルトキハ此限ニアラス

一 甲地ノ往診先へ乙地ヨリ往診ヲ請フトキハ甲乙兩地間并ニ乙地ヨリ歸院迄ノ里程ヲ

算シ往診旅費ヲ納ムヘク

一 火急ノ往診或ハ惡路等ニシテ通常旅費ニテ支辨シ難キトキハ其實費ヲ納メムルコトアルヘク

第七條 診断書ヲ請フ者ハ其事柄ノ難易ニヨリ金拾錢ヨリ金七拾五錢迄ノ診断書料ヲ納メ

シムヘク

第八條 薬價ヲ定ムルコト左ノ如ク

但藥品ニヨリ原價ヲ以テ薬價ヲ納メムルコトアルヘク

内服薬

明治二十二年  
示第百五號ヲ以  
テ本項中改正

明治二十三年告示  
第二十三號  
以テ水薬項改正

一 水藥	一日量	大人 金五錢 小兒(十歳未満) 金三錢	一 散藥	一包	同 金貳錢
一 丸藥	一包	同 金貳錢	一 煎服藥	一回	同 金三錢
一 滴藥	十五瓦	金五錢			
外用藥					
一 點眼藥	十五瓦	金五錢	一 塗擦藥	十五瓦	金六錢
一 撒布藥	十五瓦	金六錢	一 含嗽藥	一劑	金四錢
一 洗滌藥	一劑	金五錢	一 灌腸藥	一劑	金五錢
一 膏藥	八瓦	金貳錢			
一 浴藥	一日量	金五錢	但局所浴脚浴半身 浴等ノ用藥ハ	一日量	金三錢
一 皮下注射料	一回	金五錢	一 藥液吸入料	一回	金三錢
一 吸角料	一回	金三錢	一 接電料	一回	金五錢
一 點眼料	一回	金貳錢	一 塗擦料	一回	金貳錢
一 注射料	一回	金貳錢	一 蒸餾藥	一劑	金貳錢
一 疋布	一劑	金貳錢			

以上内外用藥列記外ノ藥劑ハ各相當ノ代價ヲ納メムヘシ

手術料

一 手術料 金拾錢ヨリ金三圓マテ  
但カテーテル抜齒等ノ小手術ハ金貳錢以上金拾錢以下特殊ノ大手術ハ金三圓以上金五圓以下ヲ納メムヘシ

一 繃帶等交換料 金貳錢ヨリ金三拾錢マテ  
右ノ外治療用品ノ價ハ其都度之ヲ示スヘシ

第九條 前條ニ定ムル藥價手術料往診料ヲ納ルノ外謝儀或ハ獎勵等ハ一切之ヲナスベカラズ醫員ニ於テハ決メテ之ヲ受ケザルモノトス

第二章 患者入院手續

第十條 患者入院セント欲スルトキハ院長ノ許可ヲ受ケ其差額ニ從フヘシ

第十一條 入院患者ハ福井又ハ福井近傍ニ居住シテ身元儘カナル者ヲ引受人ニ立テシメテ下ニ示シタル書式ニ照準シテ差出サシムヘシ尤モ福井又ハ其近傍ニ相當ノ引受人ナキ者ハ患者所在ノ町村ニ居住シ身元儘ナル者ヲ以テ引受人トナスコトヲ得

第十二條 患者賄料ハ物價ノ高低ニ依リ多少増減スルコトアリト雖モ現今定ムル所ヘ左ノ如シ



明治二十二年  
示第百五號ヲ以  
テ改正同廿三年  
告示第五十號ヲ  
以テ改正

一等	一日分	金八錢	外ニ院内雜費	金三錢
二等	一日分	金六錢	同	金三錢
三等	一日分	金五錢	同	金貳錢

第十三條 入院患者ノ藥價及賄料ハ毎月十日二十日三十日ニ庶務局ヘ仕拂ニナニヘ  
 第十四條 看病人ハ院中ニ備ヘアソトモ患者ノ望ニヨリ別ニ召達セ、モ妨ケナシ  
 第十五條 入院患者ハ院中ノ取締ニ從フヘキハ勿論院長醫員等ヨリ示セラルル振生方其他一  
 切ノ事ヲ固ク相守ルヘシ若シ之ニ背キ説諭ニ從ハサルトキハ退院セムルコトアルヘシ  
 入院患者引受證書式 用紙半紙ニテ一通 但印紙ヲ貼用スヘシ

入院患者引受證書  
 何府縣平民(士族)何國何郡何町(村)  
 何番地住(寄留)何某父或ハ何々  
 職業 姓名 年 齡

右ノ者此度入院治療相受候ニ付テハ本人身上ノ儀ハ萬事引受可申若シ入院中費用相滞候節  
 ハ抽者ニ於テ悉皆辨償聊モ貴院ヘ御迷惑相掛申問敷仍テ引受證如此候也  
 何郡何町(村)何番地

年 號 月 日 身 引 受 人 氏 名 年 齡

關井縣々立關井病院御中

○縣令第一號 明治二十一年一月九日  
 屠場取締規則左ノ通相定ム

屠場取締規則

第一條 屠場ハ自用ト販賣トナ間ハス總テ食料ニ供スル牛馬羊豚ヲ限リ屠殺スル所トス其  
 場外ニ於テハ一切屠殺スルコトヲ得ス若シ之ヲ犯シ屠殺セラルル獸肉ハ不買肉ト見做ス  
 第二條 屠場ハ一人若クハ一社ニ付一箇所ヲ限リ免許スルモノトス但土地ニ依リ屠場ノ數  
 不相當ト認ムルトキハ新設ヲ許可セサルコトアルヘシ  
 第三條 屠場ヲ新設若クハ移轉セントスルハ第一號書式ニ準シ其場所(借地ナシハ其地  
 主連署)並ニ構造ノ圖面及ヒ接續地主ノ承諾書ヲ添ヘ所轄警察署(分署部内ノモノハ同

署ヲモ)ヲ經テ縣廳ニ願出免許證ヲ受クヘシ

第四條 屠場賣渡又ハ讓與セントスルトキハ買受人又ハ讓受人(借地ナレハ其地主トモ)連署書面ヲ以テ所轄警察署(分署部内ノモノハ同署ヲモ)ヲ經テ縣廳ニ願出免許證ノ書替ヲ乞フヘシ

第五條 免許證ハ代替、轉居、改氏名ヲナシ又ハ遺失毀損等ニ係リタルトキハ其都度事由ヲ詳記シ前條ノ手續ヲ經テ縣廳ニ願出書替又ハ再渡ヲ乞フヘシ

第六條 廢業セントスルトキハ其五日日前第四條ノ手續ヲ經テ縣廳ニ願出免許證ヲ還納スヘシ

第七條 屠場ノ建物ヲ増減變換セントスルトキハ圖面相添ヘ第四條ノ手續ヲ經テ縣廳ニ願出落成ノ上ハ所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ受クヘシ

第八條 第三條ノ免許證ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ過ケルモ尙所設又ハ移轉ノ着手ヲ爲シ、ルトキハ免許證ノ效ヲ失フヘシ

第九條 第三條第四條第五條第六條ノ願出書ニハ本人居住地并ニ屠場所在地戸長ノ奥印ヲ受クヘシ

但第五條ノ願書ハ屠場所在地戸長ノ奥印ヲ要セス

第十條 屠場ハ人家國道縣道及ヒ飲料水流ヲ距ル各直徑六十間以外ノ地ニアラサレハ之ヲ設クシコトヲ得ス其屋舎増塙等ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 屠場ノ敷地周圍ニハ高キ六尺以上ノ土手又ハ塙塙木柵等ヲ設ケ且塙内ニハ井戸ヲ穿テ時々供給ニ差支サレテ要ス

二 屠場内ニハ屠畜屠畜留所検査所及ヒ検査官ノ詰所ヲ設ケヘシ

三 屠室ノ地盤ハ石又ハ厚板ヲ以テ敷設シ「セメント」又ハ漆喰敷ヲ以テ接合シ且ツ石又ハ厚キ二寸以上ノ三和土或ハ漆喰敷ヲ以テ汚物溜ニ通スル溝ヲ設ケ其地盤及ヒ溝ハ適宜ノ勾配ヲ付シ又内部四壁ハ石造煉化造ニ係ルモノ、外厚板ヲ以テ之ヲ張り尙地伏石ヨリ上四尺迄「トタン」ヲ以テ張廻シ而シテ數箇ノ窓ヲ設ケ空氣ノ流通ヲ能クスヘシ

四 屠畜留所ノ地盤及ヒ溝ハ前項ニ準シ構造シ其糞尿ハ糞尿溜ニ通セシムヘシ

五 汚物溜糞尿溜ハ内外ニ釉藥ヲ施シタル甍若キハ周圍底面トモ厚キ二寸以上ノ三和土ニテ敷キ固シタルモノ又ハ不渗透質ノモノヲ以テ屠室及ヒ屠畜留所外九尺以上ノ地ニ之ヲ設ケ且相當ノ覆蓋ヲ設ケヘシ

第十一條 前條ノ構造落成ノ上所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ受クルコト非ナレバ開業スルコト

明治二十一年縣令第百一十一號ヲ以テ但書

- トヲ得ス
- 第十二條 屠殺セントスル牛馬羊豚ハ屠場ノ外一切之ヲ禁留スヘカラス
- 但第十條ノ位置ニシテ同條第四項第五項ノ構造ヲ爲シタル場所ハ此限リニアラス
- 第十三條 屠場ノ入口ニハ第二號雜形ノ看板ヲ掲ケヘシ
- 第十四條 一旦免許ヲ得タル屠場ト雖トモ實際障害アルヲ發見シタルトキハ免許ヲ取消シ又ハ改造修繕ヲ命ジ之ニ從ハサルトキハ使用ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第十五條 屠畜ハ屠殺ノ前日其獸名、頭數、年齡、牝牡ノ別買入レ先及ヒ屠場ヲ肥シ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ
- 但其餘検査料トシテ一頭ニ付金拾五錢ヲ上納スヘシ
- 第十六條 屠殺時間ハ十月ヨリ五月迄ハ午前第六時ヨリ正午第十二時迄六月ヨリ九月迄ハ午前第四時ヨリ同第十時迄ヲ限リトス
- 第十七條 屠場ハ常ニ清潔ニ掃除シ屠室及ヒ溝筋ハ屠殺終リタル毎ニ洗濯スヘシ
- 第十八條 臟腑皮骨血液其他汚物ハ其都度之ヲ取除クヘシ
- 但埋没場ハ豫メ所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ受クヘシ
- 第十九條 屠殺スヘキ獸類ハ出張官吏ノ検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケザルモノハ屠室ニ奉

入ルコトヲ得ス

- 第二十條 屠殺セシ獸肉ニハ検査官吏ノ檢印ヲ受クヘシ其檢印ヲ受ケザル獸肉ハ場外ニ持出スコトヲ得ス
- 第二十一條 屠殺セシ獸肉ヲ屠場外ニ運搬スルトキハ清潔ナル麻布ノ類ヲ以テ之ヲ覆ヒ暴露セムヘカラス
- 第二十二條 検査官吏ニ於テ病獸ト認ルトキハ屠殺ヲ禁シ肉質不良ト認ルトキハ販賣ヲ禁止スルコトアルヘシ
- 但禁止ニ係ルモノ、處置ハ検査官吏ノ指揮ニ從フヘシ
- 第二十三條 獸疫流行ノ節ハ其病勢ノ景況ニ依リ屠殺ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第二十四條 屠殺時間内ハ屠場ノ門戸ヲ閉鎖スヘシ
- 第二十五條 屠殺手数料ハ屠獸ノ種類ニ依リ其額ヲ定メ豫メ所轄警察署(分署部内ノモノハ同署ヲモ)ヲ經テ縣廳ヘ届出認可ヲ受クヘシ其増減ノ都度亦同シ
- 第二十六條 正當ノ事故ナシシテ他ノ屠殺ノ需メテ拒絕シ又ハ定額手数料外金銭ニ請求スルコトヲ得ス
- 但屠畜税ハ屠場ノ免許ヲ受ケタル者ヨリ之ヲ納ムヘシ

第二十七條 第一條第三條第十一條第十二條第十七條第十八條第十九條第二十條ニ違背  
 する者ハ一日以上五日以下ノ拘留又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處セラレヘ  
 第二十八條 第二十五條第二十六條ニ違背する者ハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ貳拾錢  
 以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處セラレヘ  
 第二十九條 第四條第五條第六條第七條第二十一條ニ違背する者ハ五錢以上五拾錢以下  
 ノ科料ニ處セラレヘ

第一號書式

屠場(新設) 何郡何(町)何番地  
 屠場(移轉) 何郡何(町)何番地何番字何々  
 一何地何坪何合何勺  
 人家ノ距ニ直徑何十間  
 但(縣)運ヲ距ル全  
 飲用水ヲ距ル全  
 右ノ地所ニ屠場(新設)仕度候間實地検査ノ上御免許被成下度別紙位置并  
 構造ノ圖面及ヒ接續地主ノ承諾書相添此段奉願候也  
 何郡何(町)何番地  
 願人 氏名印  
 年號月日 全

地主 氏名印

知事宛

第二號雛形

明治何年何月何日免許

木質適宜

屠場

住所

氏名

堅三尺

横七寸

附則

本則施行前許可ノ屠牛場ハ更ニ出願免許證ヲ受クヘト雖トモ其位置將迄本則第十條ニ違  
 ヒサレモノ、移轉若クハ改造ハ本年四月三十日マテテ猶豫スヘ

○縣令第三號 明治二十一年一月九日

猪牛馬割割場取締規則左ノ通相定ム

猪牛馬割割場取締規則

第一條 猪牛馬割割場ハ猪死シタル牛馬ヲ割割スル所トス此場外ニ於テハ一切割割スルコ  
 トヲ得ス

第二條 割割場ヲ新設若クハ移轉セントスル者ハ第一號書式ニ準テ其場所(借地ナレハ地

主運署)並ニ構造ノ圖面及ヒ接續地主ノ承諾書ヲ添ヘ所轄警察署(分署部内ノモノハ同署ヲモ)ヲ經テ縣廳ヘ願出免許證ヲ受クヘ

第三條 剖割場ヲ賣渡又ハ讓與セントスルキハ買受人又ハ讓受人(借地ナレハ其地主トモ)連署ノ書面ヲ以テ前條ノ手續ヲ經テ縣廳ヘ願出免許證ノ書替ヲ乞フヘ

第四條 免許證ハ代替轉居改氏名ヲナシ又ハ遺失毀損等ニ係リタルトキハ其都度事由ヲ詳記シ所轄警察署(分署部内ノモノハ同署ヲモ)ヲ經テ縣廳ヘ願出書替又ハ再渡ヲ乞フヘ

第五條 廢場セントスルキハ前條ノ手續ヲ經テ縣廳ヘ願出免許證ヲ還納スヘ

第六條 剖割場ノ建物ヲ増減變換セントスルキハ圖面相添ヘ第四條ノ手續ヲ經テ縣廳ヘ願出落成ノ上ハ所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ受クヘ

第七條 第二條第三條第四條第五條ノ願屆書ニハ本人居住地並ニ剖割場所在地戸長ノ奥印ヲ受クヘ

但第四條ノ願書ハ剖割場所在地戸長ノ奥印ヲ要セス

第八條 剖割場ノ位置ハ人家園庭建築飲料水流及ヒ廢場ヲ距テ各直徑百二十間以上ニシテ其構造ハ左ノ項目ニ從フヘ

一 剖割場ノ敷地周圍ニハ高キ六尺以上ノ土手又ハ塙塙木欄等ヲ設ケ且場内ニハ井戸差

支キルヲ要ス

二 剖割場ハ其地盤厚キ二寸以上ノ漆喰敷トシ且適宜ノ勾配ヲ付テ汚水溜ニ通スル溝ヲ設クヘ其内部ノ四壁ハ厚板ヲ張リ之ニ「メンキ」ヲ塗ルヘ

三 汚水溜ハ内外ニ袖溝ヲ施シタル變又ハ周圍底トモ厚キ二寸以上ノ三和土ヲ敷キ固メタルモノ又ハ不滲透質ノモノヲ以テ之ヲ構造シ且相當ノ覆蓋ヲ設クヘ

四 出張官吏ノ詰所ヲ設クヘ

第九條 前條ノ構造落成ノ上ハ所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ受クルニ非キレハ開場スルコトヲ得ス

第十條 剖割場ノ入口ニハ第二號鑰形ノ看板ヲ掲グヘ

第十一條 一旦免許ヲ得タル剖割場ト雖モ實際障害アルヲ發見シタルトキハ免許ヲ取消シ又ハ改造修繕ヲ命ジ之ニ從ハサルトキハ使用ヲ停止スルコトアルヘ

第十二條 猪牛馬ヲ剖割セントスルトキハ其飼主ノ住所氏名並ニ猪ノ屠日時及ヒ原由等ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ニ届出臨監ヲ乞フヘ

第十三條 剖割シタル猪牛馬ノ肉及ヒ臟腑皮骨血液其他汚物ハ其都度之ヲ取除クヘ但埋沒場ハ豫メ所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ受クヘ

第十四條 剖割シタル猪牛馬ノ肉ハ出張官吏ノ面前ニ於テ直チニ之ヲ寸截シ糞水又ハ熱湯ヲ灌キタル上前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 猪牛馬ノ肉ヲ食用ノ爲メニ販賣スルコトヲ得ス

第十六條 剖割場内ハ常ニ清潔ニ掃除シ剖割終リタル毎ニ地盤及ヒ溝筋等ハ充分ニ洗滌スヘシ

第十七條 傳染病ニ罹リ猪死シタル牛馬ヲ剖割スルコトヲ得ス

第十八條 剖割手数料ハ豫メ其額ヲ定メ所轄警察署(分署部内ノモノハ同署ナモ)ヲ經テ縣廳ニ届出認可ヲ受クヘシ其増減ノ都度亦同シ

第十九條 正當ノ事故ナクシテ他ノ剖割ノ需メヲ拒絕シ又ハ定額手数料ノ外金銭ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十條 山間僻地ニ在リテハ適宜備具ノ裝置ヲナシ剖割スルモ妨ナシ

但第十二條ヨリ第十六條ニ至ル各條ヲ遵守スヘシ

第二十一條 第一條第二條第九條第十二條第十三條第十四條第十五條第二十條ニ違背シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處セラルヘシ

第二十二條 第十八條第十九條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上

壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處セラルヘシ

第二十三條 第三條第四條第五條第六條第十七條ニ違背シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處セラルヘシ

第一號書式

猪牛馬剖割場(新設)願  
何那何(町)何番字何々 何那何(町)何番地  
一何地何坪何合何勺 持主氏 名

人家ヲ距ル直徑何百何十間  
但(縣)道ヲ距ル全  
飲料水ヲ距ル全  
屠場ヲ距ル全

右ノ地所ニ猪牛馬剖割場(新設)仕度候間實地御検査ノ上御免許被成下度別紙位置並ニ構造ノ圖面及ヒ接續地主ノ承諾書相添ヘ此段奉願候也

年號月日 何那何(町)何番地  
全 願人 氏名印  
地主 氏名印

知事宛

第二號雛形

明治何年何月何日免許

木質適宜

□ 養牛馬割割場 住所 氏名

堅三尺  
横七寸

附則

本則施行前許可ノ割割場ハ更ニ出願免許證ヲ受クヘト雖モ其位置構造本則第八條ニ適セ  
サルモノハ移轉若クハ改造ハ本年四月三十日マテ猶豫スヘシ

○縣令第三十三號 明治二十一年三月七日

醫師施療ノ患者死亡シ又ハ死休ヲ檢案シ產婆死産ヲ取扱タルトキ屆書等差出方左ノ通之ヲ  
定ム

但明治十八年(六月)甲第六十六號布達ハ廢止ス

第一條 醫師ハ施療ノ患者死亡シタルトキハ第一號書式ノ屆書ヲ作リ其家人ニ付與スヘシ

第二條 醫師ハ治療ヲ受ケヌシテ死亡シ若クハ變死シ又ハ產婆或ハ醫師ノ手ヲ經スシテ死

明治廿二年縣令  
第十一號ヲ以テ  
何年何月何日改

産シタル者ヲ檢案シタルトキハ病死變死ハ第二號死産ハ第三號書式ノ檢案書ヲ作リ其家  
人ニ付與スヘシ但變死ニ係ルモノハ檢視官ノ檢印ヲ要ス

第三條 產婆ハ死産ヲ取扱タルトキハ第四號書式ノ屆書ヲ作リ其家人ニ付與スヘシ但出産  
ノ際施療シタル醫師アレハ其醫師ニ於テ屆書ヲ作ルヘシ

第四條 第壹條第二條第三條ノ屆書又ハ檢案書ハ戶長ニ於テ壹ヶ月毎ニ取纏メ郡役所ヘ送  
出スヘシ

第一號書式

死亡届

縣國郡町村番地住(寄留ナレハ原籍ヲ併記スヘシ)

何某(父母兄弟姊妹妻子等)

族籍職業

(既婚有配偶(既婚無配偶)  
(未婚)

氏名

年月生

一 病類  
一 病名

一 何月何日何時何々(死因)ニ由テ死

右ハ私施治ノ患者ニ候處死去致シ候間此段御届申上候也

明治二十一年  
十一月十一日  
何月何日  
何月何日  
何月何日

年月日

縣知事宛

住所

醫師 氏名印

第二號書式

死体検査書

縣國郡町村番地住(寄留ナレハ原籍ヲ併記スヘシ)

何某(父母兄弟姉妹妻子等)

族籍職業

既婚有配偶(既婚無配偶)

(未婚)

氏名 年月生

一病類

一病名

一何月何日何時死

一何々(死ニ至ル所以知リ得ヘキ丈ケテ記スヘシ)

右検査仕候也

年月日

縣知事宛

住所

醫師 氏名印

第三號書式

死産検査書

縣國郡町村番地住(寄留ナレハ原籍ヲ併記スヘシ)

族籍職業何某妻(姉妹等)

たれ

一何月妊娠

一何月何日何時死産

一何々(死産ノ原因知リ得ヘキ丈ケテ記スヘシ)

右検査仕候也

年月日

縣知事宛

住所

醫師 氏名印

第四號書式

死産届

縣國郡町村番地住(寄留ナレハ原籍ヲ併記スヘシ)

族籍職業何某妻(姉妹等)

たれ

一何月妊娠

公(私)生長(次)男(女)



一 何月何日何時死産  
一 何々(死産ノ原因知リ得ヘキ丈ケテ記スヘシ)  
右死産仕候ニ付此段御届申上候也

年 月 日 住 所  
産婆(醫師) 氏名 印

縣知事宛  
書式解釋

- 一 病類ハ左ノ病類細目要領ニ據リ記載スヘシ  
但類別中何レノ屬スヘキカ確定シ難キモノアルトキハ病名及症候經過等ヲ詳細記載  
シ病類ノ位置ヘハ不詳ト記スヘシ
- 一 年齢ハ總テ何年何月生ト記スヘシ
- 一 婚姻上ノ關係ハ男女別ヲ別テ現在配偶者アルモノハ既婚有配偶ト記シ曾テ婚嫁シタル  
コトアルモ現在配偶者ナキモノハ既婚無配偶ト記シ未ダ曾テ婚嫁セサルモノハ未婚ト  
記スヘシ
- 但十二歳未満ノ者ニハ婚姻上ノ關係ヲ記スルニ及ハス

明治二十一年  
第十一號ヲ以テ  
改正

- 一 職業ハ總テ其本人執ル所ノ現業ヲ記スヘシ例之ハ農作主(農ニシテ自ラ耕作セタル者  
一)ト自ラ耕作スル者トナ區別シ農作主又ハ農作人ト記スヘシ  
小間物商若クハ太物商ナレハ單ニ商買ト記セスシテ小間物商又ハ太物商ト記シ又一家  
ノ營業鍛治屋ナルモ本人獨リ大工職ヲ營ムトキハ大工職ト記スヘシ
- 二 業以上營ムモノハ其主ナル業ヲ記スヘシ  
老幼婦女等コシテ職業ナキ者ハ戶主何業無職家族ト記スヘシ
- 一 死産ハ妊娠四ヶ月以上コシテ死胎分娩ノ者ヲ云フ  
但一旦呼吸シテ死亡シタル者ハ生産トス

病類細目要領

(第一類)傳染性病

- (一) 腸壁扶私
- (二) 登疹壁扶私
- (三) 赤痢
- (四) 亞細亞虎列刺
- (五) 質布的里亞 格魯布(發膿炎)

- (六) 痘瘡 (變痘 水痘)
- (七) 麻疹
- (八) 猩紅熱
- (九) 脚氣
- (十) 間歇熱
- (十一) 羅斯
- (十二) 膿毒症 敗血症
- (十三) 病院敗疽
- (十四) 百日咳
- (十五) 產褥熱
- (十六) 流行性耳下腺炎「惡性唾腺炎」
- (十七) 流行性腦脊髓膜炎
- (十八) 急性關節痠痛質私(急性レウマチスレウマチス熱)
- (十九) 花柳病「淋病 梅毒 便毒 下疳」
- (二十) 動物性病「恐水病 炭疽熱 馬鼻疽」

其他傳染性疾患

(發育的疾患 體質的疾患)

- (二十一) 初生兒ノ生活薄弱 產兒窒息
- (二十二) 遺構異常 畸形產
- (二十三) 齒牙病 生齒・因スル諸病
- (二十四) 腺病
- (二十五) 佝僂病
- (二十六) 小兒營養消耗症
- (二十七) 癩病
- (二十八) 全身水腫
- (二十九) 糖尿病(蜜尿) 尿崩(無味尿)
- (三十) 脫疽
- (三十一) 瘡及腫瘍
- (三十二) 營養消耗
- (三十三) 矢荷兒倍價

(三十四) 貧血  
 (三十五) 白血病  
 (三十六) 甲状腺腫  
 (四十八) 瓣膜病  
 (四十九) 心臟破裂  
 (三十七) 紫斑病 [ウネルホフキ氏紫斑病]  
 (三十八) アマソン氏病 [銅色病]  
 其他營養及發育ノ障害  
 第三類) 皮膚及筋肉病  
 (三十九) 血瘰  
 (四十) 皮下結締組織癒衝 筋肉炎 水腫炎  
 (四十一) 初生兒ノ結締組織硬化症  
 (四十二) 肺腫患  
 (四十三) 漸進性筋肉萎縮  
 其他ノ皮膚及皮下結締組織ノ疾患

(第四類) 骨及關節病  
 (四十四) 骨及關節炎 骨炎 骨髓炎 骨髄炎 骨腫カリエス) 骨腫(チクロロニス)  
 關節腫瘍 骨折  
 (四十五) 骨軟化  
 其他骨及關節ノ疾患  
 (第五類) 血行器病  
 (四十六) 心囊炎 心嚢水腫ヲ含ム  
 (四十七) 心臟肥大 心臟膨大  
 (第二類) 發育及營養病  
 (五十) 心臟麻痺 心臟脂化  
 (五十一) 動脈疾患  
 (五十二) 靜脈疾患  
 其他血行器ノ疾患  
 (第六類) 神經系統及五官器病  
 (五十三) 腦膜炎

- (五十四) 腦水腫
- (五十五) 腦炎
- (五十六) 卒中
- (五十七) 腦麻痺 腦貧血 腦充血
- (五十八) 精神病 癲狂
- (五十九) 脊髓炎 脊髓膜炎
- (六十) 脊髄勞
- (六十一) 脊髓麻痺脊髓軟化ヲ含ム
- (六十二) 子癇
- (六十三) 癲癇 舞蹈病
- (六十四) 破傷風 牙關緊急
- (六十五) 其他ノ痙攣攣攣 驚癇
- 其他神經病ヲ含ム
- (六十六) 耳病
- (六十七) 眼病

- (第七類) 呼吸器病
- (六十八) 喉頭炎
- (六十九) 喉頭氣管支勞
- (七十) 急性氣管支炎 毛様氣管支炎
- (七十一) 慢性氣管支炎
- (七十二) 肺炎
- (七十三) 肺勞 肺結核
- (七十四) 咯血
- (七十五) 肺氣腫 喘息
- (七十六) 肺壞疽
- (七十七) 肺麻痺 肺水腫
- (七十八) 胸膜炎 胸水ヲ含ム
- 其他呼吸器ノ疾患
- (第八類) 消化器病
- (七十九) 口舌疾患

- (八十) 耳下腺疾患
- (八十一) 胃管疾患
- (八十二) 下腹炎 腹膜炎 下腹膿腫 骨盤膿腫
- (八十三) 腹水
- (八十四) 脫腸
- (八十五) 腸管堵塞
- (八十六) 胃加答兒
- (八十七) 胃潰瘍
- (八十八) 胃狹窄
- (八十九) 吐血
- (九十) 腸出血
- (九十一) 腸破裂
- (九十二) 下利 腸加答兒
- (九十三) 吐瀉病即霍亂
- (九十四) 胃腸炎

- (九十五) 疝痛
- (九十六) 腸勞
- (九十七) 腸間膜勞
- (九十八) 疥癬疾患
- (九十九) 膽石病
- (百) 黃疸
- (百一) 肝臟炎
- (百二) 急性肝臟消耗症
- (百三) 慢性肝臟消耗症
- 其他消化器ノ疾患
- (第九類) 泌尿生殖器病
- (百四) 尿道及膀胱炎
- 其他ノ膀胱疾患及男子生殖器ノ諸患ヲ含ム
- (百五) 尿毒
- (百六) 石淋

(百七) 腎臟諸病  
 (百八) 女子生殖器病  
 (百九) 子宮外妊娠  
 (百十) 流産  
 (百十一) 子宮破裂  
 (百十二) 妊娠及分娩 乳房腫脹ヲ含ム  
 (百十三) 子宮ノ疾患 分娩産褥ニ非サルモノ  
 (百十四) 卵巣諸患  
 (第十類) 外傷性變死  
 (百十五) 火傷 凍傷 日射病 電擊 爆發 壓死及墜死 怪我 相擊 銃創 刃創  
 刺創 咬創 手術出血 窒息 瘧死 絞殺 溺死 自殺  
 (第十一類) 中毒病  
 (百十六) 動物性及植物性毒  
 (百十七) 礦物性毒  
 (百十八) 毒性瓦斯

(百十九) 亞爾岡保兒中毒

○縣令第三十六號 明治二十一年三月十四日

明治十八年(十二月)本縣甲第百二十九號布達痘種痘細則第十四條ヲ左ノ通改メ第四號式中「上下半期」ノ四字ヲ削除ス

第十四條 戶長ハ毎年第四號式ノ痘痘明細表ヲ製シ翌年一月二十日限リ郡役所ヘ差出シ郡役所ニ於テハ之ヲ一表(二郡ヲ所轄スルモノハ每郡)ニ集製シ戶長ヨリ差出タル明細表ト共ニ二月十日限リ縣廳ヘ進達スヘシ

○縣令第三十八號 明治廿一年三月十五日

産婆營業規則左ノ通相定ム  
 但明治十四年(十一月)甲第百八十四號布達ハ廢止ス

産婆營業規則

第一條 産婆業ヲ營ムコトヲ得ル者ハ二十年以上ノ婦女ニシテ産婆術卒業證書若クハ習熟證書ヲ所持スル者ニ限ル

明治二十二年縣令第百九十六號

第二條 産婆業ヲ營マントスル者ハ履歷書及卒業證又ハ習熟證書ノ寫相添郡役所ヲ經テ縣  
 へ願出免許證ヲ受ケヘシ

第三條 産婆ハ如何ナル場合ト雖モ藥品及器械ヲ使用スヘカラス

第四條 難産ト認ムルトキハ速ニ醫師ヲ招聘セシメ施術ノ時期ヲ失ハサル様注意スヘシ

第五條 墮胎ノ疑アルトキハ速ニ所轄警察署又ハ分署へ申出ヘシ

第六條 廢業又ハ他管下へ轉居若シハ本人死亡シタルトキハ其官郡役所ヲ經テ縣廳へ届出  
 免許證ヲ返納スヘシ

第七條 改姓名若シハ管内轉居ノ節ハ其郡郡役所ヲ經テ縣廳へ免許證ノ訂正ヲ願出ヘシ

第八條 免許證ヲ遺失又ハ毀損シタルトキハ其願末ヲ詳記シ郡役所ヲ經テ縣廳へ願出更ニ  
 免許證ヲ受ケヘシ

第九條 本則第二條ノ手續ヲ經スレテ私ニ營業ヲ爲ス者ハ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五  
 拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處シ第三條ノ禁制ヲ犯シタル者ハ刑法ニ據リ處分セラ  
 ル、者ノ外尙營業ヲ禁止若シハ停止スルコトアルヘシ

附 則

從來産婆營業鑑札所持ノ者ハ明治二十二年十二月迄特ニ其効ヲ有セシメ候條該期ニ至リ引

明治二十一年縣令第百三十號

續營業セント欲スル者ハ本則ニ據リ更ニ出願免許證ヲ受ケヘシ

○縣令第四十七號 明治二十一年三月三十日 郡役所 戶長 役場

傳染病ニ罹リタル者身元赤貧ニシテ實力ナキトキハ本籍寄留旅行ヲ同ハス其費用ハ發病地  
 所轄戶長ノ具申ニ據リ地方稅ヨリ支給ス

○縣令第三十號 明治二十一年三月三十日 郡役所 戶長 役場

今般縣令第四十七號ヲ以テ傳染病ニ罹リタル赤貧患者費用地方稅ヨリ支給スヘキ旨公布候  
 ニ付テハ該支給手續左ノ通相定メ本年四月一日ヨリ施行ス

但明治十九年(五月)丙第五十八號連ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

傳染病者費用支給手續

第一條 傳染病トハ傳染病豫防規則ニ揭ケタルモノヲ云フ

第二條 赤貧者トハ左ノ各項ノ一ニ該當スルモノヲ云フ

一 恤救規則ニ依リ救助ヲ受ケルモノ

一 地方稅戶數割又ハ町村費ノ賦課ヲ免除シタルモノ

- 一 一家内一人ノ勞力ニ頼リ僅カニ日計ヲ營ミ他ニ補助ヲ乞フヘキ親戚故舊ナキモ
- 第三條 戸長ハ前條各項ニ相當ノ自給ノ能ハザルモノアルトキハ第六條ノ定額内ニ於テ相當ノ處置ヲナシ患者治癒死亡後十五日以内ニ別紙書式ニ據リ費用明細書ヲ製シ戸籍寫及正當請取人ノ請求書(役場ニ於テ操替拂ノキハ領收書)ヲ添ヘ郡役所ヲ經テ當廳ヘ請求スヘシ
- 第四條 旅行人ニ係ルモノハ發病地戸長ニ於テ原籍戸長ヘ照會シ辨償ヲ要メ赤貧者タルノ確答ヲ得タル上其往復書類寫ヲ添ヘ前條ニ準テ請求スヘシ
- 第五條 郡長ハ前條戸長ヨリ請求書ヲ差出シタルトキハ患者ノ身元及費用等精査ノ上意見ヲ付シ進達スヘシ
- 第六條 醫師往診料藥價其他ノ費用ハ左ノ制限ニ從フヘシ
  - 一 往診料 片道一里ニ付 金五錢
  - 一 治療藥價 一日分 金八錢以内
  - 但高價ノ藥品ハ實費ニ據リ支給ス
- 一 消毒藥價 實費

- 一 搬運物運搬人夫賃 壹人壹回ニ付 金拾錢以内
- 一 患者死体運搬人夫賃 壹人壹回ニ付 金貳拾錢以内
- 一 排泄物燒却費 壹回ニ付 金拾五錢以内
- 一 死体火葬費 死者壹人ニ付 金五拾錢以内
- 一 棺桶并附屬品 大人壹人ニ付 金三拾錢以内  
小人壹人ニ付 金貳拾錢以内
- 一 看病人給 一人一日 金貳拾錢以内
- 但家族親戚者ヲハ故舊等ノ看護者ナキモノニ限ル
- 一 患者賻料 一日ニ付 金六錢以内
- 一 新聞紙廣告料 行旅死亡人取扱規則 實費
- 第三條ニ據ルモノ
- 第七條 前條各項ノ外豫防上已ニナリ得ス費消シタルモノ又ハ衣服臥具器物等ヲ燒棄シタル爲メ遺族等日用ニ差支アル場合ニ於テハ調査ノ上代品又ハ相當ノ代價ヲ下付スルコトアル
- 書式 用紙中折ニテ二通
- 傳染病ニ罹ル患者費用之儀ニ付上申 何某
- 一 金何圓何拾錢



一金何拾錢

合計金何圓何拾錢

何某

右之者傳染病ニ罹リ候ニ付直チニ出張速應ノ處置致置候處今般治癒又ハ死亡致候然ルニ右ハ身元亦貧ニシテ何年縣達第何號ニ相當ノモノニ有之候條前書之金額御下附相成度別紙費用明細書及戸籍寫請求書(領收證)相添此段上申候也

年號月日

戶長氏名印

印羅井縣知事氏名殿

費用明細書

何那何町村何番地番留人ナレハ原族籍戸主或ハ何某家族

何病者何月何日發病何月何日治癒(死亡)

何某

縣達何號第三條何項ニ該當

何年何月生

品目	一個又ハ一ト度或ハ一日ノ價	延員數	合金額
往診數	片道一里ニ付何錢	在返何里	金何拾錢

治療藥價	通常藥品一日分 高價藥品何々一瓜ニ付何錢	何日分	金
消毒藥價	強石炭酸水一磅ニ付 硫酸鉄一斤ニ付 硫酸何々ニ付	何斤 何々	金
排泄物運搬人夫賃	排泄物運搬一人ニ付何錢 患者運搬一人ニ付何錢 死体運搬一人ニ付何錢	何人 何人 何人	金
排泄物燒却費	薪一束ニ付 炭一貫目ニ付 隱亡料一度	何束 何束 何束	金
死体火葬費	棺桶一個 何々何々ニ付	何個 何々	金
看病人給	一日何錢	何日分	金
患者賄料	一日何錢	何日分	金
新聞紙廣告料	一日何錢	何日分	金

總計金何圓何拾錢

右之通相違無之候也

明治廿三年縣達第十  
正八號ヲ以テ本文中改

○縣達第三十四號 明治廿一年四月二日 郡役所 戸長 役場

種痘施行ニ就テハ左ニ記載ノ貧困者ニ限リ查入ニ付種痘施術料金貳錢無料種痘費銀金三厘ツ、ノ額内ヲ以テ種痘費下流スヘシ候條戸長ハ都内取調右相當ノ貧困者コトヲ種痘期ノモノ(天然痘流行ノ兆アリト)アルトキハ速ニ種痘ヲ行ヘシメ施行済ノ都度十五日以内ニ各正當請取人(種痘料ハ種痘醫、種券費ハ其調製人)ノ請求書ヲ添ヘ左ノ書式ニ依ヒ上申書ヲ郡役所ニ出シ郡長ニ於テハ尙調査ノ上縣廳ニ進達スヘシ

- 一 恤救規則ニ據リ救助ヲ受ケルモノ
- 二 地方稅戶數割又ハ町村費ノ賦課ヲ免除シタルモノ
- 三 一家内一人ノ勞力ニ頼リ僅カニ日計ヲ營ヒ他ニ補助ヲ乞フヘキ親戚故舊ナキモノ

書式

貧困者ニ係ル種痘費之儀ニ付上申

一金何圓何拾錢何厘 何某外何拾名種痘費

右者明治二十一年本縣々達縣何號ニ相當ノ貧困者ニ付無料種痘施行致候費用ニ有之候條御下附相成度別紙人名書及正當請取人ノ請求書相添此段上申候也

年月日 戸長氏名印

福井縣知事氏名取  
人名書

何郡何町村何番地

縣達第何號第何項ニ該當平民戸主或ハ戸主何某子孫

何月何日 初種痘施術 何 某 何年何月生

何郡何町村何番地寄留何縣士族

縣達第何號第何項ニ該當戸主或ハ戸主何某兄弟

何月何日 再(三)種痘施術 何 某 何年何月生

又ハ何月何日 臨時種痘施術 何年何月生

○縣達五十六號 明治二十一年六月二十日 郡役所

賣藥行商鑑札表面自今左ノ書式ニ據リ記載スヘシ

賣藥營業者自ラ行商ノ分 賣藥營業者賣子ヲ派出シ行商セシムル分

賣藥行商許可之證  
何縣郡町村番地族籍  
賣藥營業者 氏名  
一方名 一方名  
一方名 一方名  
右行商開屆候事

賣藥行商許可之證  
何縣郡町村番地族籍  
賣藥營業者 氏名  
賣子 氏名  
一方名 一方名  
一方名 一方名  
右行商開屆候事

賣藥請賣者自ラ行商ノ分

賣藥請賣者賣子ヲ派出シ行商セムル分

賣藥行商許可之證  
何府縣郡區町村番地族籍  
賣藥營業人 氏名  
何縣郡町村番地族籍  
賣藥請賣營業 氏名  
一方名 一方名  
一方名 一方名  
右行商開屆候事

賣藥行商許可之證  
何府縣郡區町村番地族籍  
賣藥營業人 氏名  
何縣郡町村番地族籍  
賣藥請賣營業 氏名  
賣子 氏名  
一方名 一方名  
一方名 一方名  
右行商開屆候事

○縣令第九十二號 明治廿一年七月廿六日

明治十八年甲第百二十九號布達種痘細則中左之通改正ス

第二條 初メ種痘ヲ行フハ生後ノ下「七十日」ノ五字ヲ削リ左ノ但書ヲ加フ

但初メ種痘ヲ行フハ生後七十日後ニ於テスヘシ

第四條但書共左之通改ム

第四條 醫師ハ種痘ノ善感不善感ヲ檢診シ第一號式ノ種痘證ヲ與ヘ且其氏名ヲ本人所轄戸

長役場ヘ報告スヘシ

但第二條ニ掲シル初再種コト不善感ナルモノヘハ種痘ヲ與ヘサルヘシト雖モ其氏名

ハ本人所轄戸長役場ヘ報告スヘシ

○縣令第百一十二號 明治二十一年八月三十一日

本年一縣令第一號屠場取締規則第十五條但書及同縣令第二號賣肉營業取締規則第七條但書

ヲ削除ス

○縣令第百三十五號

明治廿一年十一月九日

明治廿五年縣令第三十三號ニ依リ本令中賣肉營業取締規則ノ件自然消滅

明治二十一年縣令第百三十四號及同年法律第六號參照

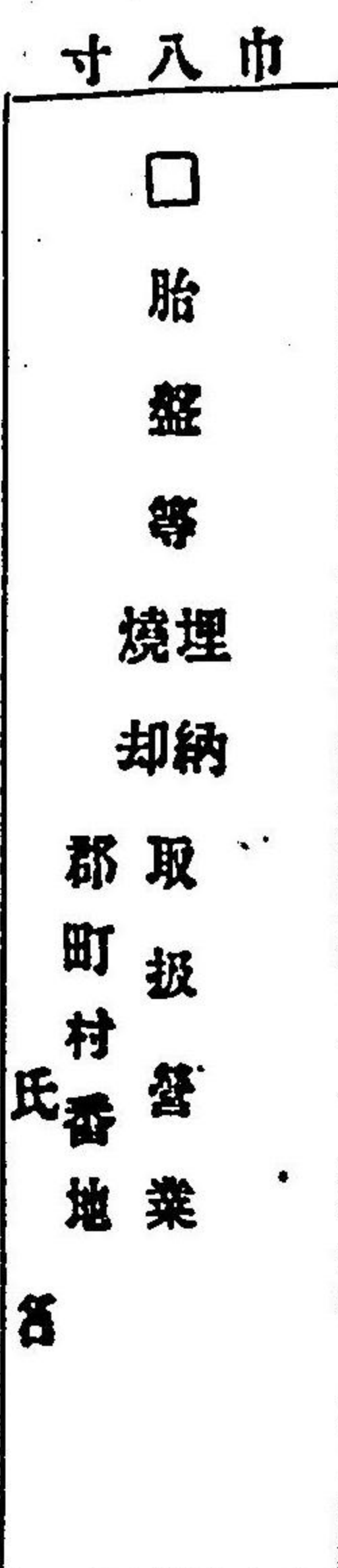
胎盤等取扱營業規則左ノ通相定ム

胎盤等取扱營業規則

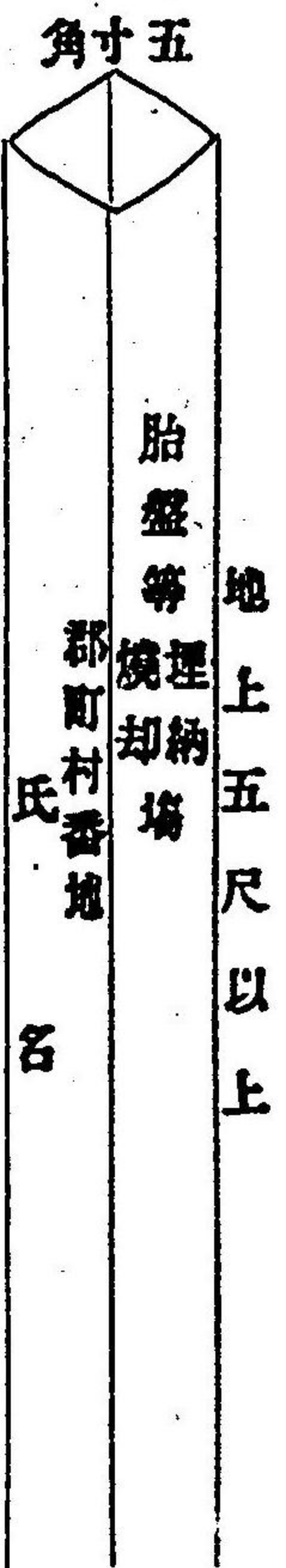
- 第一條 胎盤等産時ノ汚穢物取扱營業ヲ爲サントスルモノハ此規則ニ據リ該汚穢物ハ一定ノ場所ニ於テ埋納又ハ焼却スヘシ
- 第二條 前條ノ埋納場又ハ焼却場ヲ新設セントスルトキハ左項ヲ具シ繪圖面並隣地主ノ承諾證相添ヘ戶長ノ奥印ヲ受ケ所轄警察署(分署部内ニ在ルモ)及ヒ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ願出ヲ許可ヲ受クヘシ
- 但構造ノ改築及ヒ場所ノ變更取廣ノ等總テ本文手續ニ據ルヘシ
- 一 地名地種地目反別
- 一 地形地質
- 一 人家又ハ人民幅濶ノ地并飲用水ノ距離
- 第三條 燒却場ヲ新設スルハ前條ノ外尙ホ火爐相當規模等ノ構造繪圖面ヲ添付シ出願スヘシ
- 第四條 埋納場ヲ新設スルハ國縣道鐵道公園大川ニ沿ヘス神社病院學校人家及ヒ人民幅濶ノ地ヲ隔ルコト凡ソ四十間以上コシテ土地高燥飲用水ニ隣リナク地ヲ撰ムヘシ

- 第五條 燒却場ヲ新設スルハ人家及ヒ人民幅濶ノ地ヲ隔ルコト凡ソ八十間以上タルヘシ
- 第六條 埋納場又ハ燒却場ヲ廢止セント欲スルトキハ其事由及該地ノ處置方ヲ詳記シ戶長奥印ノ上所轄警察署(分署部内ニ在ルモ)及ヒ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ願出認可ヲ受クヘシ但營業者異動アルトキモ本文ノ手續ヲ經テ願出ヘシ
- 第七條 埋納又ハ燒却手數料ハ豫メ之ヲ定メ前條ノ手續ヲ經テ縣廳ヘ願出認可ヲ受クヘシ
- 第八條 埋納ハ地下三尺以上タルヘシ
- 第九條 運搬器ハ臭氣及ヒ汚汁ノ漏洩セキル桶箱等ノ類ヲ用ヒ且密蔽スヘキ覆蓋ヲ設クヘシ
- 第十條 埋納場又ハ燒却場ハ常ニ清潔ヲ旨トシ掃除及ヒ修繕ヲ怠ルヘカラス
- 第十一條 營業者ハ自宅ニ第一號式ノ看板ヲ掲ケ埋納場又ハ燒却場ニハ第二號式ノ標材ヲ建置クヘシ

第一號式 長 三 尺



第二號式



○諭告第六號 明治廿一年十一月九日

明治二十一年縣令第  
百三十五號及全二十  
五年縣令第三十一號  
明治二十一年縣令第  
百三十四號ハ警察ノ  
部ニ出ス但右縣令ハ  
全廿五年縣令第三十  
一號ニテ消滅

胎盤等産時ノ汚穢物ヲ河川等へ投棄スルハ衛生上其害甚カラサル儀ニ付今般縣令第三百三十  
四號ヲ以テ本縣違警罪目へ禁止ノ項ヲ追加シテ次第ニ候條地方在來ノ習慣ニ任レ不知不  
識之ニ違犯スル等ノ事有之候テハ不相濟儀ニ付篤ク注意ヲ加ヘ尙ホ該業取扱營業者無之地  
ニ於テハ隣保協隣ヲ遂ケ一齊ニ衛生上無害ノ地へ埋納又ハ焼却スル様致スヘシ

○諭告第七號 明治二十一年十一月九日

飲食物玩弄品着色料ニ付テハ明治十五年三月甲第五十六號ヲ以テ布達候次第有之候得共近來  
菓子ノ類並玩弄品ノ中往々危險ナル着色料ヲ影點シ販賣スルモノ有之候ノ趣相聞ヘ右ハ衛  
生上損ノヘカラサル儀ニ付其向ニ於テモ時々取調候得共尙ホ人民ニ於テモ篤ク此點ニ注意

シ不慮ノ禍害ニ陷ラサル様致スヘシ

○諭告第八號 明治二十一年十一月九日

飲料水ハ人生日常欠クヘカラサルモノナルヲ以テ人々心ヲ用テ其性ノモノヲ採用セサル  
ヘカラサルハ勿論ニ候得共到底其水ヲ得難キ町村ニ於テハ之ヲ濾過水トシ使用スヘキ旨明  
治十六年六月諭告第七號ヲ以テ飲料水濾過ノ方法ヲ示シ諭告及候處尙ホ其方法ヲ設ケサルモノ  
有之ノミナラス假令之ヲ設ケルモ濾過及貯水器ノ洗滌ヲ怠リ且之レカ覆蓋ヲ設ケス爲メ  
塵埃ヲ散入シ自然有機物ノ生スルアルモ當ニ濾過ノ名稱ニ泥ニ其儘使用スルニ立至リ候テ  
ハ其目的ヲ達セサルノミナラス反テ衛生上其害甚カラス候條從來該方法ヲ設ケサルモノハ  
速ニ之ヲ設ケ既ニ設置ノモノト雖モ時々之カ洗滌ヲ行ヒ必ス常ニ覆蓋ヲ設ケ務メテ清淨水  
トナシ飲料ニ供シ候様致スヘシ

○縣達第一號 明治二十二年一月十二日

戸長 役場

今般内務省衛生局ニ於テ醫籍刊行相成候ニ付テハ本月四日官報ニ廣告有之候通醫術開業免  
狀所持ノモノハ現住所氏名及免狀番號ヲ記シ本月三十一日限リ本人ヨリ直チニ同局へ通報

且今後異動ノ節モ同様通報候様照會越候儀モ有之候條其首節内各醫師へ無洩通達ノ尙キ  
同時ニ當廳へ同様届出候様併セテ相達スヘシ

○縣令第二號 明治二十二年一月十五日

明治十六年六月甲部第六號布達遺技散毒檢査規則第十五條ヲ左ノ通改ム

第十五條 此規則中第一條第二條第五條第八條第九條第十條第十一條ニ違背シタル者ハ一  
日以上三日以下ノ拘留又ハ五錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處セラルヘシ

○縣令第十一號 明治二十二年一月廿六日

明治二十一年三月縣令第三十三號死亡届書及死体檢査書式中(年月生)トアルヲ何年何ヶ月ト  
改メ及解釋第二項ヲ左ノ通改ム

一年齡ハ凡テ其死亡者ノ年月數ヲ記載スヘシ

○縣令第七十五號 明治二十二年七月三日

賣藥營業并請賣行商業手續書左ノ通相定ム

但明治十四年七月甲部百一號同十七年十月甲部八十七號布達ハ廢止ス

賣藥營業并請賣行商業手續書

第一條 賣藥營業及請賣行商業ヲ爲サントスルモノハ賣藥規則并ニ賣藥印紙稅規則ヲ遵守  
シ向ホ左ノ條項ニ從フヘシ

明治二十一年縣令第五十六號ニ著

第二條 賣藥營業及請賣行商業ヲ爲サントスルモノハ第壹號第三號第四書式ニ準テ届出ヘ  
シ

第三條 藥湯ハ賣藥規則ニ據リ免許ヲ受クヘキモノニ付自製ノ浴劑ヲ以テスルモノハ第二  
號書式ニ準テ届出營業鑑札ヲ受クヘシ他人ノ製劑ヲ以テスルモノハ第三號書式ニ準テ届  
出請賣鑑札ヲ受クヘシ

第四條 賣藥營業及請賣鑑札ハ該鑑札面ニ記載アル居家ニ限リ其効チ有スルモノニ付別ニ  
支店等ニテ營業又ハ請賣セントスルモノハ其箇所ニ就キ前二條ノ手續ヲ爲シ更ニ免許鑑  
札ヲ受クヘシ

第五條 賣藥營業藥湯營業及賣藥請賣者ノ看板ハ左ノ如ク圖製シ之ヲ戶外ニ掲クヘシ

免賣藥營業(賣藥請賣業)  
許藥湯營業(賣藥請賣業) 住所氏名

木材適宜  
堅三尺  
幅七寸五分

第六條 海水或ハ鐵泉ヲ汲採リ浴場ヲ開キ營業スルモノ又ハ把批藥湯三味湯ヲ以テ單ニ湯氣拂トナシ其煎汁ノミヲ販賣スルモノハ賣藥規則外ヲリト雖モ左ニ該當スルモノハ賣藥規則ニ從ヒ願出ヘシ

一 鐵泉中ノ固形物ト唱フル類  
 効用ヲ異ニシ浴湯ヲ營業スルモノ

一 適宜ノ服用量ニ包裝シ合劑ノ僅販賣スル把批藥湯及ヒ三味湯

第七條 方名又ハ藥味分量用法功能服量ヲ改正セント欲スルモノハ第五號書式ニ準シ鐵札ノ書換ヲ願出ヘシ

第八條 賣藥營業鐵札讓渡ヲ爲サントスルトキハ第六號書式ニ準シ其請賣行商者ノ住所氏名書ヲ添ヘ鐵札ノ書換ヲ願出ヘシ

但請賣行商者ナキトキハ其趣願書ニ記載スヘシ

第九條 諸鐵札ヲ遺失若クハ毀失セントキハ第七號書式ニ準シ之ヲ願受テヘシ

第十條 代換或ハ氏名變換又ハ管外ヨリ轉居ノトキハ第八號書式ニ準シ鐵札ノ書換ヲ願出管內轉居ノトキハ同號書式ニ準シ鐵札訂正方ヲ願出ヘシ

第十一條 賣藥營業ヲ廢業シ或ハ販賣禁止ヲ受ケタルトキハ其請賣行商者ノ住所氏名書

ヲ添ヘ本廳ヘ届出免許鐵札返納スヘシ

但請賣行商者ナキトキハ其趣願書ニ記載スヘシ

第十二條 賣藥營業讓渡或ハ廢業禁止等有之節ハ營業人ヨリ直チニ其旨ヲ請賣人ニ通知シ且行商鐵札アルトキハ之ヲ返納スヘシ請賣者ニ於テハ請賣鐵札行商鐵札共書換又ハ返納ノ手續ヲ爲スヘシ

但讓渡ニ據リ請賣鐵札書換出願ノトキハ讓受人ト取結ヒシテ約定証添付スヘシ

第十三條 賣藥營業廢業ノ際其請賣者又ハ行商者ニ於テ所持スル該廢業者ノ賣藥ハ願ニ依リ六ヶ月間販賣ヲ許スコトアルヘシ

第十四條 賣藥營業者ハ第九號樣式ヨリ第十四號樣式ニ至ル帳簿ヲ請賣者ハ第十五號樣式ノ帳簿ヲ調製シ該書式ニ倣ヒ記入スヘシ

第十五條 賣藥營業者ハ賣藥ノ包裹又ハ容器ノ外面ヘ方名定價及ヒ住所氏名ヲ記載スヘシ但堂(軒)號ヲ附記スルハ妨ケナシ

第十六條 賣藥包裹ノ接キ目、合セ目等ハ糊類ヲ以テ完全ニ之ヲ固着シ貼用印紙ヲ破毀セザルハ藥品ヲ取出サズテ得キル様ニ密封スヘシ

第十七條 賣藥請賣者行商者ニ於テ貼用印紙ヲ汚染シ若シハ損傷シタルトキハ營業者ニ送付

明治二十四年縣令第  
 十四号ヲ以テ但書追  
 加

明治二十四年縣令第七  
十七條ヲ以テ本條ノ欠  
二條ヲ追加シ第十九  
條ノ第二十條トシ以下  
條下ク  
明治二十四年縣令第十  
四號ヲ以テ第十九條第  
二十條ヲ削除シ以下順  
次繰上ル

更ニ印紙ヲ貼用セシムヘシ

第十八條 賣藥印紙規則第三條ノ消印ハ黒肉ヲ以テ消印スヘシ

第十九條 賣藥營業者ハ所轄收稅部出張所ニ申出賣藥印紙買入鑑札ヲ受ケ印紙買入ヲ爲ス  
毎コ之ヲ携帶シ印紙賣捌人ニ示スヘシ

但鑑札面ニ異動ヲ生ゼキハ書換若クハ訂正ヲ請フヘシ

第二十條 賣藥印紙買入鑑札ハ貸借又ハ賣買讓與スルコトヲ得ス

第二十一條 賣藥營業者請賣者行商者ノ帳簿營業物品及建物倉庫内ハ隨時租稅檢査員ヲ  
テ檢査セシムルコトアルヘシ

賣藥營業者請賣者行商者ニ於テ運搬又ハ所持スル荷物ハ途上若クハ旅宿等ニ就キ檢査ス  
ルコトアルヘシ

第二十二條 租稅檢査員ハ章標ヲ携帶スルニ付之ヲ閱覽セントスルキハ其檢査員ニ請求ス  
ヘシ

第二十三條 賣藥營業者又ハ請賣者ニ配付シ置ク受檢査簿ハ檢査員臨檢ノ都度同官ニ提出  
スヘシ

第二十四條 賣藥營業者疾病又ハ事故アリ不在ノ時ハ營業上障ラ處辨スヘキ代理人ヲ定メ

明治二十四年縣令第  
十四號ヲ以テ改正

置キ檢査ニ際シ差支ナカラシムヘシ

但代理人ハ委任狀ヲ所持スヘシ

第二十五條 賣藥營業者請賣者ノ帳簿ハ付込濟ノ翌月ヨリ滿二ケ年間ハ保存シ置クヘシ

(第一號)

賣藥檢査願

(正附二通)

一方名

一劑ノ量

何藥 量目何程 何藥 同 何藥 同

以上幾味調合シ丸散トナシ幾貼ニ分チ或ハ幾粒トナシ(金銀箔ヲ以テ之ヲ被ヒ)幾粒ナ一  
包トナシ一度或ハ一日ノ用量大人小兒ノ區別浴劑ナレハ溫度等其用法詳細(水劑或ハ藥  
酒モ製法用量等之ニ準據詳記スヘシ)

一 主治功能詳細

右今般新ニ調製發賣仕度候間御檢査ノ上免許鑑札御下渡被下度依テ製劑相添此段奉願候也

現住所 氏名印

年月日



知事宛

市町村長 氏名印

(第二號)

藥湯検査願

(正副二通)

明治廿四年縣令第十  
四号ヲ以テ改正

一 湯名

一 浴ノ量

何藥 量目何程 何藥 同 何藥 同

以上幾種調合水何程ニ浸漬シ一日入浴ノ度數大人小兒ノ區別何度等其用法詳細

一 主治功能詳細

右藥劑調製藥湯開設仕度候間御検査ノ上免許証札御下渡被下度製劑相添此段奉願候也

現住所

族籍 氏名印

年月日  
知事宛

市町村長 氏名印

(第三號)

賣藥請賣願

一方名 一同 一同 一同 一同

住所

右營業人 族籍 氏名

〔營業者異ナルハ假令一方タリトモ必ス各營業者ノ住所族籍氏名ヲ上ノ例ニ倣ヒ之ヲ區別シテ記載スヘシ〕

右官許ヲ得タル賣藥請賣 仕度依テ別紙營業者ノ免許証札寫并約定書相添此段奉願候也

現住所

族籍 氏名印

年月日  
郡市長宛

町村長 氏名印

賣藥請賣約定書



一方名 一同 一同 一同 一同  
右ハ何某ノ官跡ヲ得タル賣藥ニシテ今般何某請賣可致所談相並ヒ候ニ付キ請賣者ニ於テ請  
賣鑑札ヲ願受ケ營業者ノ開製シタル賣藥ヲ販賣致スヘシ然ル上ハ總テ賣藥ニ關スル御  
規則及御達ノ趣旨ヲ遵守シ不正ノ所業致ス固意依テ約定証如件

年 月 日

賣藥營業者 氏名 印

住所

全

賣藥請賣人 氏名 印

(第四號)

賣藥行商鑑札願

何年月日免許 同 同 同 同

一方名 一同 一同 一同 一同

右ハ請賣人ナレハ茲ニ免許ヲ得タル賣藥ニ候處今般行商仕度(別紙賣子ヲ派出シ行商爲仕  
度)候間鑑札御下渡被下度此段奉願候也

現住所

年 月 日

賣藥營業(請賣)族籍氏名 印

郡 市 長 宛

町村長 氏名 印

(別紙)  
〔請賣人ヨリ行商願ノ節其方數ノ内免許營業人具ナルニ於テハ假令一方ノ一方名  
及營業人姓名ヲ區別シテ書記スヘシ〕

賣子氏名書

住所 族籍 氏名

(第五號)

賣藥改正願

(正副二通)

何年月日免許

一方名

藥品分量

製法

明治廿四年縣令第十  
四號ヲ以テ改正

用法服量  
 功能  
 右御検査済營業仕候處令般何々ノ廢左ノ通改正仕度候間鑑札御書換被下度此段奉願候也  
 一改正ノ廢ヲ詳記スヘシ

年 月 日  
 知 事 宛  
 現住所  
 族 籍 氏 名 印  
 市町村長 氏 名 印

(第六號)

賣藥營業鑑札願渡願 (正副二通)

何年月日免許  
 一方名  
 藥品分量  
 製法  
 用法服量  
 功能

明治二十四年陸令第  
十四号ヲ以テ改正

(賣藥數種アルルハ上ノ例ニ從テ速記スヘシ)

右御検査済鑑札御下渡營業仕候處令般何某ヘ示談ノ上願渡申度依テ鑑札返納仕候間御書換  
 被下度此段奉願候也

年 月 日  
 讓渡人 氏 名 印  
 現住所 族籍  
 讓受人 氏 名 印  
 知 事 宛  
 讓受讓渡人双方 市町村長宛署

〔請賣行商人願書式〕

〔廢業願書ニ添付スヘシ  
キ調書モ之ニ添ス〕

請 賣 人 行 商 人 調  
 一何年月日約定(雇入) 住 所  
 何藥請賣(行商)人 族 籍 氏 名  
 一何年月日約定(雇入) 住 所

何業請賣(行商)人  
右之外請賣(行商)人無之候也

族籍 氏名  
住所 氏名 印

(第七號)

賣藥營業(請賣或ハ行商)鑑札遺失或ハ毀失ニ付書換願  
一方名 住所 族籍 氏名

(請賣鑑札ナレハ左之通認ムヘ)

一方名 住所 族籍 氏名  
賣藥營業人 氏名

(行商鑑札ナレハ左之通認ムヘ)

一方名 住所 族籍 氏名

右何年月(確ト記憶セザレハ概略ヲ記ス)御下渡被下候賣藥營業(或ハ請賣或ハ行商)鑑札何  
月何日何々ノ事故ニテ遺失(或ハ毀失)任候間更ニ御下渡被下度此段奉願候也

年 月 日

知 事 宛

(請賣行商ハ郡市長宛)

市町村長 氏名 印

(第八號)

賣藥營業(請賣或ハ行商)鑑札書換(訂正)願

何年月日免許 同 同

一方名 一方名 一方名

〔他府縣ヨリ轉籍寄留ノ營業者ハ藥品製法用法服量功能等検査願書式之通記入〕

右ハ免許營業(請賣或ハ行商)鑑札何枚御下渡相成居候處今般何々(代換氏名變換或ハ轉居等其事故詳細)ニ付

鑑札御書換(訂正)被下度此段奉願候也

現住所

年月日

族籍氏名印

知事宛

(請賣行商(郡市長宛))

市町村長氏名印

[帳簿表紙書式]

明治 年 月

賣藥何々帳

何郡何町番地

氏名

第九號様式

賣藥製造帳(記入例)

製造月日 方 名 登個ノ定價 個 數 印紙積算代金

何年	何月何日	何丸	何錢	何百個	何圓何錢
、	、	同	、	、	、
、	、				
、	、				
何月計				何個	何圓

二ヶ月以上へ通計ヲ爲スヘシ

備考

此製造帳ハ數方劑ヲ混記スヘカラスナルモノトス故ニ壹方劑毎ニ見出シテ附ケ口分ケニ爲スカ又ハ別冊ニ調製スヘシ

戻り藥(記入例)

戻月	日方	名個	數印紙ノ金高戻	人住所	氏名
何月	日何	散何	個	何國郡何町	請賣人
、	、	湯、	、	、	何某
、	、		、	、	
、	、		、	、	
、	、		、	、	
				何國郡何町	賣藥先





内 譯	何	丸				
	、	、	、	、	、	、

半々年毎ニ通計ヲ爲スヘシ

第十三號様式

賣藥製造方法書帳(記入例)

何藥一劑ノ量

一何藥

何 匁

一何々

何 匁

一、

、

一、

、

一、

、

一、

、

右合劑

何錢賣

何 匁

一、

、

壹匁ノ量目

何錢賣

何 匁

一、

、

壹匁ノ量目

第十四號様式

賣藥請賣人及賣子人名書帳(記入例)

何府何國何郡何町字番地

請賣人

氏 名

一何藥

一何散

一何膏

右何年何月何日ヨリ請賣約定

一何丸

一何丹

右何年何月、

何郡何町字番地

賣子

氏 名

書留ナレハ原籍ヲモ併セ記入スヘシ

一何々

一何々

一、

一、

右何年何月何日ヨリ行商セシム

賣藥請賣者ニシテ賣子ヲ派出シ行商セシムルモノハ此帳簿書式ニ倣ヒ賣子人名書帳ヲ開製スヘシ

第十五號様式

賣藥買入帳(記入例)



月	日	越		方	名	數	價	業	入	住	所	業	人	氏	名
		何	何												
何年	何月何日	何	何												
何日	何	何	何												
何月計	何	何	何												
内	何	何	何												
何	何	何	何												

備考  
 半ケ年毎ニ通計ヲ爲シ其次野ヘ方名毎ニ現在高ヲ記入シ置クヘ  
 第九號ヨリ第十二號ニ至ル及第十五號ノ帳簿ヘ毎年七月一日ヨリ始メ六月三十日

ヲ以テ打切レモノトス故ニ越高ヲ記入スルハ七月一日ニ持越シタル高ヲ記入スル  
 月日欄ニハ曆年ノ異ナル初年ハ其曆年ヲ記入スルモノトス  
 第十三號第十四號ノ帳簿ハ數年ヲ通シテ用ユルコトヲ得

○縣令第八十六號 明治二十二年十月八日  
 市町村立病院及私立病院ヲ設置スルトキハ左ノ諸項ニ依進スヘシ  
 但明治十八年一甲第十一號布達及本年四月縣令第五十三號ヲ廢止ス

第一 病院ヲ設置シタルトキハ左ノ麻ヲ具シ縣廳ヘ届出ヘシ其變更シタルトキモ亦全シ

- 一 病院ノ位置及名稱
- 一 病院設置ノ主旨及院則
- 一 病院建物敷地ノ略圖
- 一 院費收支ノ見込

第二 病院ハ院長ノ外二名以上ノ醫員及醫員ニ相當スル藥局員ヲ置キ且病室ノ設アルヲ要ス

第三 院長醫員事務局ノ進退勸陟ハ時々縣廳へ届出ヘシ

但新任ノ者ハ履歷書ヲ添付スルモノトス

第四 病院ヲ廢止シタルトキハ其旨縣廳へ届出ヘシ

第五 分支院ヲ設ケタルトキモ此規定ニ準ス

○告示第百五號 明治二十二年十月十二日

明治二十年十二月告示第百四十號縣立福井病院診療規定中左ノ通改正セリ

第六條第一項ヲ左ノ通改ム

一 往診旅費ハ片道一里ニ付正副院長ハ金五拾錢正補當直醫ハ金三拾錢

第十二條患者賄料及院內雜費額ヲ左ノ通改ム

一等一日分賄料金拾錢院內雜費金五錢

二等一日分同金八錢同 金四錢

三等一日分同金六錢同 金三錢

但一等賄ハ患者ノ望ミニ由リ定額以上ノ賄ヲ要ムルコトヲ得

明治二十二年告示  
第五十號

○縣令第九十八號 明治二十二年十月三十一日

水雪營業取締規則左之通相定ム

但明治十四年<sup>十二</sup>本縣甲第<sup>二百二十八</sup>號布達ハ廢止ス且本年ハ第一條出願期限ヲ十一月

三十日迄トス

水雪營業取締規則

第一條 販賣ノ爲メ製氷又ハ積雪貯藏セント欲スル者ハ願書(第一號書式)ニ場所及ヒ構造

法ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ毎年十月三十日限リ(人工製氷ハ隨時)所轄郡市役所ヲ經テ當

廳へ差出シ許可ヲ受ケヘシ

製氷場落成ノ上ハ所轄郡市役所ヲ經テ當廳へ届出検査ヲ受ケヘシ検査ヲ受ケザレハ使用

スルコトヲ得ス

第二條 氷塊ハ各製造所ノ製氷ニ就キ試驗スヘキヲ以テニテ所以上ノ製氷ヲ同室ニ貯藏ス

ルトキハ判然其分界ヲ立置クヘシ

第三條 氷雪ヲ發賣セント欲スルトキハ當縣下ノ製造ニ係ルト他管下ヨリ輸入シタルトキ

同ハス貯藏場ノ地名(氷ハ其噸數)等ヲ詳記シ所轄郡市役所ヲ經テ當廳へ届出(第二號書

明治廿四年  
第十五號ヲ以テ第八條  
ヲ加ヘ元ノ第八條ヲ  
第九條トス

式) 試驗ヲ受テハ試驗ヲ受ケルモノハ發賣スルコトヲ得ス  
 但他管下ノ製氷ハ該官廳ノ證明書又ハ許可指合書ヲ添付スヘシ  
 第四條 氷雪發賣主ハ其請賣又ハ行商セントスル者ニ證明書(第三號圖形)ヲ用與スヘシ請  
 賣者行商者ハ該證明書ヲ携帶スルコトヲ要シテ販賣スルヲ得ス  
 第五條 製氷場氷雪貯藏場及ヒ販賣ノ氷雪ハ臨時検査スルコトアルヘシ  
 第六條 第三條第五條ノ場合ニ於テ其水質不其ナルカ或ハ有害物ノ混入ヲアルト認ムルト  
 キハ投棄ヲ命スルカ又ハ製氷ヲ差止ムルコトアルヘシ  
 第七條 出願人若シ其製氷場氷雪貯藏場所在地又ハ發賣場ノ市町村ニ居住セザルトキハ該  
 地ニ相當代理人ヲ定メ置クヘシ  
 第八條 本則第一條第三條ニ違反シタル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ據リ處分セラル  
 一 何都市何町大字何何番地  
 一 民(官)有地何種何番地

(第一號書式)  
 製氷(積雪貯藏)(人工製氷)願

一 近傍略圖(面別紙)之通  
 一 構造方法(方向間深何尺用材何々建物屋根何々詳細ニ記スヘシ)及ヒ略圖別紙之通(人  
 工製氷ハ使用機械ノ略圖)  
 一 別ニ氷塊貯藏場アルモノハ其都市町村大字番地  
 右之通製氷(積雪貯藏又ハ人工製氷)仕度候間御検査ノ上御許可被成下度(官有地拜借御  
 許可寫相添ヘシ)地主連署(此段奉願候也)

年 月 日

住所族籍 製氷(積雪貯藏又ハ人工製氷)人 氏 名 印  
 住所族籍 代理人 氏 名 印  
 住所族籍 地主 氏 名 印  
 市町村長 氏 名 印

(第二號書式)

水(雪)發賣願

一 水塊何願

一 何府縣何國何郡市何町村大字何番地ニ於テ製氷(人工製氷)

一 何郡市何町村大字何番地貯藏

一 何年何月何日製氷(貯雪又ハ人工製氷)御許可

一 何府縣製氷(人工製氷)御許可其(證明書)別紙之邊

右氷(雪)今般發賣仕度候間御試驗ノ上御許可被成下度此段奉願候也

年 月 日

住所族籍

發賣人 氏 名 印

住所族籍

代理人 氏 名 印

市町村長 氏 名 印

縣知事 宛

(第三號書式)

木製又ハ厚紙

寸法適宜

番 號

住所族籍

氏 名

右何郡市町村大字何番地貯藏氷(雪)請賣(行商)者タルトテ證明候也

年 月 日

住所族籍

發賣人 氏 名 印

○縣令第九十九號 明治二十二年十一月五日

傳染病豫防細則左ノ通相定ム

但明治十五年本縣甲第四百九十九號布達并全十七年丙第二十三號同十八年丙第百二十號邊ハ廢止ス

傳染病豫防細則

第一條 傳染病 虎列刺、腸窒扶私、赤痢、實ニ罹リタルトキハ勿論該病ニ疑シキト認ムルト